Canon

IXY 1
IXY 420F

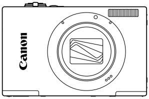
カメラユーザーガイド

- ご使用前に必ず本書および、本書の「安全上のご注意」をお読みください。
- 本書をよく読んで、正しくお使いください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。
- CD-ROM内の電子マニュアル（PDF形式）もあわせてご覧ください（p.2）。

日本語

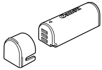
カメラと付属品の確認

お使いになる前に、次のものが入っていることを確認してください。
万が一、不足のものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。



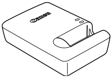
カメラ

IXY 1



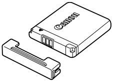
バッテリーパック NB-9L
（端子カバーつき）

IXY 1



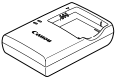
バッテリーチャージャー
CB-2LB

IXY 420F

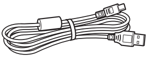


バッテリーパック NB-11L
（端子カバーつき）

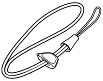
IXY 420F



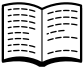
バッテリーチャージャー
CB-2LD



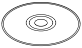
インターフェースケーブル
IFC-400PCU



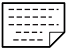
リストストラップ
WS-DC10



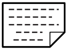
カメラユーザーガイド
（本書）



DIGITAL CAMERA
Solution Disk



保証書



サポートガイド

- メモリーカードは付属されていません（p.3）。

電子マニュアルについて

CD-ROMには、「ImageBrowser EX ガイド」（付属のソフトウェアについての電子マニュアル）が入っています（p.28）。

- 電子マニュアル（PDF形式）をご覧になるには、Adobe Readerが必要です。

使えるカード（市販品）について

以下のカードが容量に制限なくお使いになれます。

IXY 1

- microSD（マイクロエスディー）メモリーカード*
- microSDHC（マイクロエスディーエイチシー）メモリーカード*
- microSDXC（マイクロエスディーエックスシー）メモリーカード*

IXY 420F

- SD（エスディー）メモリーカード*
- SDHC（エスディーエイチシー）メモリーカード*
- SDXC（エスディーエックスシー）メモリーカード*
- Eye-Fi（アイファイ）カード

* SD 規格に準拠したカードです。カードによっては、正しく動作しないことがあります。

IXY 420F

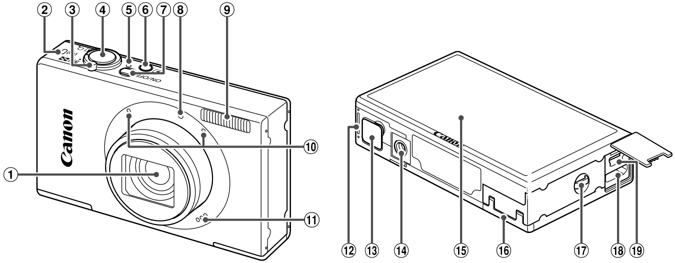
Eye-Fiカードについて

本製品は、Eye-Fiカードの機能（無線送信を含む）を保証するものではありません。カードに関する不具合は、カードメーカーにお問いあわせください。
また、Eye-Fiカードの使用には、多くの国や地域で認可が必要であり、認可を取得していないものの使用は認められていません。使用が認められているかご不明の場合は、カードメーカーにご確認ください。

- カードをカードリーダーやパソコンなどの市販機器で使うときは、お使いになる機器（パソコンではOSやバージョンを含む）の対応状況をご確認ください。

各部のなまえと記載について

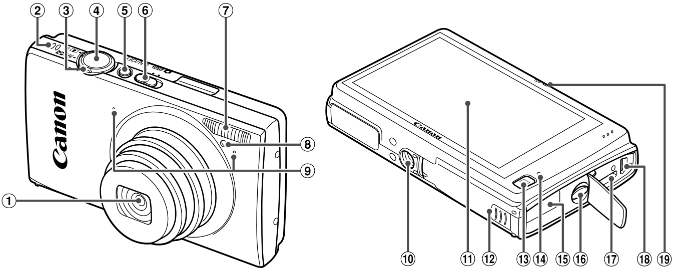
IXY 1



① レンズ
② 無線LANランプ
③ ズームレバー
撮影時：[♠]（望遠）／[♠♠♠]（広角）
再生時：Q（拡大）／[▦]（インデックス）
④ シャッターボタン
⑤ ランプ（上面）
⑥ [▶]（再生）ボタン
⑦ 電源ボタン
⑧ ランプ（前面）
⑨ ストロボ
⑩ マイク
⑪ スピーカー
⑫ バッテリー収納部ふた
⑬ DCカプラー端子カバー
⑭ 三脚ねじ穴
⑮ 画面（液晶モニター）
⑯ カード収納部ふた
⑰ ストラップ取り付け部
⑱ HDMI端子TM
⑲ A / V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子

- カメラのボタンやスイッチは、ボタンやスイッチに表記されている絵文字を使って示しています。
- 撮影モード、画面に表示される絵文字や文言は、[ ] つきで示しています。
- (!)：知っておいていただきたい重要事項を示しています。
- ✎：上手に使うためのヒントや補足事項を示しています。
- （p.xx）：参照ページを示しています。xxはページ数を示しています。
- すべての機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- このカメラで使えるメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

IXY 420F



① レンズ
② スピーカー
③ ズームレバー
撮影時：[🌲]（望遠）／[🌲🌲🌲]（広角）
再生時：Q（拡大）／[▦]（インデックス）
④ シャッターボタン
⑤ 電源ボタン
⑥ モードスイッチ
⑦ ストロボ
⑧ ランプ（前面）
⑨ マイク
⑩ 三脚ねじ穴
⑪ 画面（液晶モニター）
⑫ カード／バッテリー収納部ふた
⑬ [▶]（再生）ボタン
⑭ ランプ（背面）
⑮ DCカプラー用ケーブル通し部
⑯ ストラップ取り付け部
⑰ HDMI端子TM
⑱ A / V OUT（映像／音声出力）・DIGITAL（デジタル）端子
⑲ 無線LANランプ

- タイトルの上にあるタブは、その機能が静止画や動画で使えるかどうかを示しています。

  静止画 ：静止画を撮るときや見るときに使える機能を示しています。

  動画 ：動画を撮るときや見るときに使える機能を示しています。

- 機種により異なる機能は、次の絵文字で示しています。

  IXY 1 ：IXY 1だけの機能や注意事項

  IXY 420F ：IXY 420Fだけの機能や注意事項

- このガイドでは、IXY 1の画面例やイラストを使って説明しています。

目次

このガイドは、前半の1～8章でカメラの基本的な操作から高度な機能までを説明しています。
後半部分では、「無線LAN編」として、無線で画像を送受信する方法を説明しています。

やりたいこと目次

撮る

見　る

動画を撮る／見る

印刷する

残　す

安全上のご注意

- ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、製品を正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
- 別売アクセサリーをお持ちのときは、付属の使用説明書もあわせてご確認ください。

警告　死亡または重傷を負う可能性がある内容です。

- **ストロボを人の目に近づけて発光しない。**

視力障害の原因となります。特に、乳幼児を撮影するときは1 m以上離れてください。

- **お子様や幼児の手の届くところで保管しない。**

ストラップ：誤って首に巻き付けると、窒息することがあります。

- **指定外の電源は使わない。**
- **分解、改造したり、加熱しない。**
- **落とすなどして強い衝撃を与えない。**
- **落下などで破損したときは、内部には触れない。**
- **煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。**
- **アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。**
- **水や海水などの液体で濡らさない。**
- **内部に液体や異物などを入れない。**

感電、火災の原因となります。

万が一、液体や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、その後必ずバッテリーを取り出してください。

バッテリーチャージャーが液体で濡れたときは、コンセントから抜いて、お買い上げになった販売店または修理受付センターにご相談ください。

- **指定外のバッテリーは使わない。**
- **バッテリーは火に近づけたり、火の中に投げ込まない。**
- **電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントにたまったホコリや汚れを乾いた布で拭き取る。**
- **濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。**
- **コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。また、電源プラグが傷んでいたり、差し込みが不十分なまま使わない。**
- **電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを付着させない。**

バッテリーが破裂や液漏れし、けがや周囲を汚す原因となったり、火災、感電の原因となることがあります。万が一、電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口についたときは、ただちに洗い流してください。

- **カメラの使用が禁止されている場所では、カメラの電源を切る。**

カメラが発生する電磁波により、計器や機器に影響を与える恐れがあります。特に飛行機内や医療機関など、電子機器の使用が制限されている場所では十分注意してください。

● **付属のCD-ROMは、CD-ROM対応ドライブ以外では絶対に再生しない。**
音楽用CDプレーヤーで再生してヘッドフォンなどを使用したときは、大音量により聴力障害の原因となります。また、音楽用CDプレーヤーで使用したときは、スピーカーなどの破損の原因となります。

⚠ 注意 傷害を負う可能性がある内容です。

● **ストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。**
● **レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。**
けがやカメラの故障の原因となることがあります。

● **ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。**
やけどや故障の原因となることがあります。

● **次の場所で使用・保管しない。**
- **直射日光のあたるところ**
- **40度を超える高温になるところ**
- **湿気やホコリの多いところ**

バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、感電、やけど、けが、火災の原因となることがあります。
カメラやバッテリーチャージャーが熱により変形することがあります。

● **長時間画面を見ていると、不快感を感じることがありますのでご注意ください。**

注意 物的損害を負う可能性がある内容です。

● **カメラを強い光源（晴天時の太陽など）に向けない。**
撮像素子が損傷することがあります。

● **砂浜や風の強い場所で使うときは、カメラの内部にホコリや砂が入らないようにする。**
故障の原因となることがあります。

● **ストロボに汚れやホコリなどの異物がついたときは、綿棒などで取り除く。**
そのまま発光させると、発光熱により、付着物の発煙や故障の原因となることがあります。

● **使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出して保管する。**
カメラにバッテリーを入れたままにしておくと、液漏れにより故障の原因となることがあります。

● **バッテリーを廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。**
他の金属と接触すると、発火、破裂の原因となることがあります。

- **バッテリーチャージャーは、使用しないときや充電が終わったときは、コンセントから外す。**
- **布などをかけたまま充電しない。**

長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となることがあります。

- **ペットの近くにバッテリーを置かない。**

バッテリーに噛みついたとき、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂により、故障や火災の原因となることがあります。

- **ズボンのポケットにカメラを入れたまま椅子などに座らない。**

液晶モニターの破損の原因となります。

- **かばんにカメラを入れるときは、硬いものが液晶モニターにあたらないようにする。**
- **ストラップにアクセサリーをつけない。**

硬いものが液晶モニターにあたると破損の原因になります。



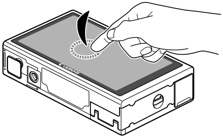
お使いになる前にお読みください

- 必ず事前に試し撮りをし、撮影後は画像を再生して画像が正常に記録されていることを確認してください。万が一カメラやメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みができなかったときの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- このカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限していることがありますのでご注意ください。
- このカメラの保証書は国内に限り有効です。万が一、海外旅行先で故障や不具合が生じたときは、帰国したあと、別紙の修理受付センターへご相談ください。
- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。
- 液晶モニターに保護シートが貼られているときは、はがしてからご使用ください。
- このカメラは、長い時間お使いになっていると、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

画面をタッチして操作する

このカメラの画面はタッチパネルになっているため、指で画面をタッチ（触れて）して直感的に操作できます。

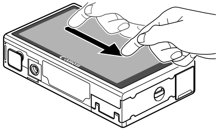
タッチ



画面を指で押して離す

- いろいろな機能の設定や、撮影するときなどに使います。

ドラッグ

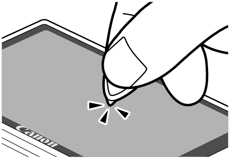


指を画面に触れたまま移動する

- 再生モードで、次の画像に表示を切り換えるときや、拡大表示する範囲を変えるときなどに使います。

- タッチパネルは圧力を感知するタイプなので、保護シートを貼るとタッチ操作が感知されにくいことがあります。

うまく操作できないとき

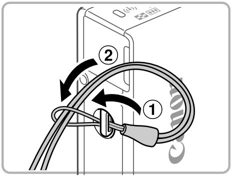


- 指でタッチしにくいときは、ストラップについている留め具を使って操作します。付属の留め具以外のとがったもの（鉛筆やペンなど）で操作しないでください。
なお、思うように項目やボタンを選べないときは、タッチ位置の調整を行ってください（p.161）。

準備する

ここでは、撮影前の準備について説明します。

ストラップを取り付ける

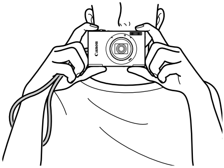


ストラップを取り付ける

- ①ストラップの先端を取り付け部に通して、②通した先端にストラップを通します。

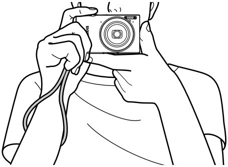
カメラを構える

IXY 1



- ストラップを手首に通します。
- 撮影するときは、カメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボに指がかからないようにしてください。

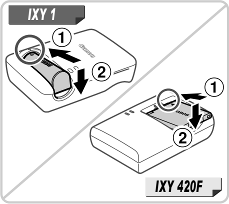
IXY 420F



- ストラップを手首に通します。
- 撮影するときは、脇をしめてカメラが動かないようにしっかりと構え、ストロボに指がかからないようにしてください。

バッテリーを充電する

カメラに付属のバッテリーチャージャー（充電器）を使って、バッテリーを充電します。お買い上げ時はバッテリーが充電されていませんので、必ず充電してからお使いください。

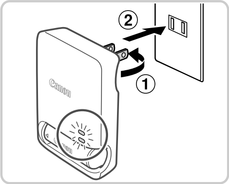


1 カバーを外す

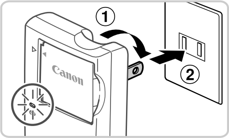
2 バッテリーを取り付ける

- バッテリーとバッテリーチャージャーの▲をあわせて、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り付けます。

IXY 1

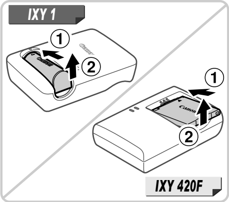


IXY 420F



3 充電する

- プラグを①の方向へおこして、②コンセントに差し込みます。
- ▶ 充電がはじまり、ランプがオレンジ色に点灯します。
- ▶ 充電が完了すると、ランプが緑色に点灯します。



4 バッテリーを取り外す

- バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、①の方向へ押しながら、②の方向へ取り外します。

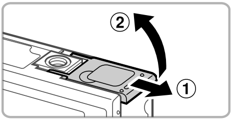
- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

- 充電に必要な時間、フル充電したバッテリーで撮影できる枚数と時間については、「主な仕様」を参照してください（p.35）。

バッテリーとカードを入れる

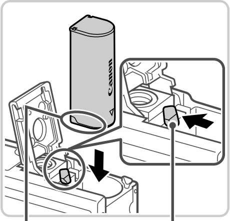
付属のバッテリーとカード（市販品）をカメラに入れます。
なお、新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）（p.157）することをおすすめします。

IXY 1



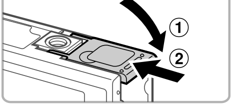
1 バッテリー収納部ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へふたを開けます。



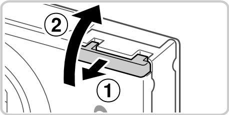
2 バッテリーを入れる

- バッテリーを図の向きにして、バッテリーロックを矢印の方向へ動かし、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。



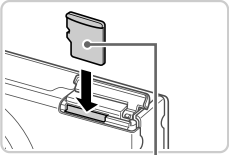
3 バッテリー収納部ふたを閉める

- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。



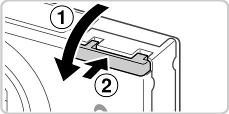
4 カード収納部ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へ開けます。



5 カードを入れる

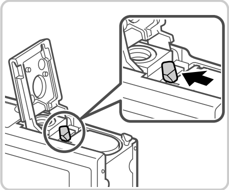
- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違った向きで入れると、カメラの故障の原因となります。



6 カード収納部ふたを閉める

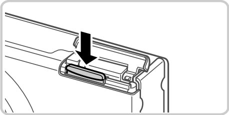
- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

バッテリーを取り出す



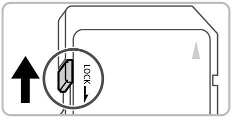
- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。
- ▶ バッテリーが出てきます。

カードを取り出す



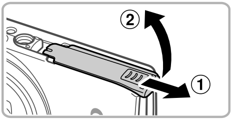
- ふたを開け、「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を離します。
- ▶ カードが出てきます。

IXY 420F



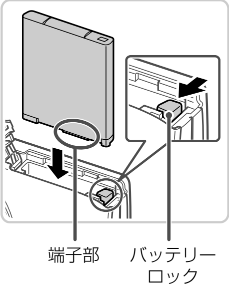
1 カードのスイッチを確認する

- スイッチがあるカードでは、スイッチが下（「LOCK」側）になっていると撮影できません。「カチッ」と音がするまでスイッチを上に動かします。



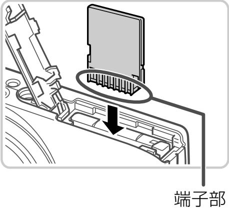
2 カード／バッテリー収納部ふたを開ける

- ①の方向にふたを動かして、②の方向へふたを開けます。



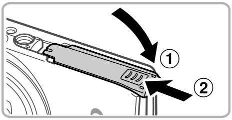
3 バッテリーを入れる

- バッテリーを図の向きにして、バッテリーロックを矢印の方向へ動かし、「カチッ」と音がしてロックされるまで差し込みます。
- 間違った向きでバッテリーを入れるとロックされません。必ずバッテリーがロックされる正しい向きで入れてください。



4 カードを入れる

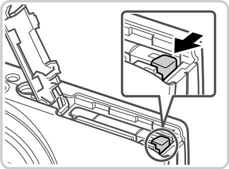
- カードを図の向きにして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。
- カードは、必ず正しい向きで入れてください。間違った向きで入れると、カメラの故障の原因となります。



5 カード／バッテリー収納部ふたを閉める

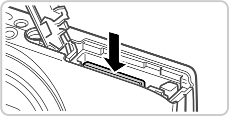
- ふたを①の方向にたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。

バッテリーとカードを取り出す



バッテリーを取り出す

- ふたを開け、バッテリーロックを矢印の方向に動かします。
- ▶ バッテリーが出てきます。

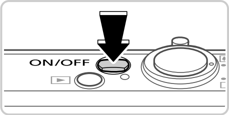


カードを取り出す

- 「カチッ」と音がするまでカードを押し込み、ゆっくり指を離します。
- ▶ カードが出てきます。

日付／時刻を設定する

はじめて電源を入れると、日付／時刻の設定画面が表示されます。撮影した画像には、ここで設定した日付／時刻をもとにした日時の情報が記録されます。必ず設定してください。



1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶［日付/時刻］画面が表示されます。



2 日付／時刻を設定する

- 設定する項目をタッチしたあと、［▲］か［▼］をタッチして設定します。
- すべての項目を設定したら、［⮌］をタッチします。

3 設定を終える

- 日付／時刻が設定され、［日付/時刻］画面が消えます。
- 電源ボタンを押すと電源が切れます。

- 日付／時刻を設定しないと、電源を入れるたびに［日付/時刻］画面が表示されます。正しく設定してください。

- 手順2で［☀OFF］をタッチして［☀］にすると、サマータイム（1時間プラスされます）に設定されます。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。







1 メニューを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。

2 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［🔧］タブをタッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして［日付/時刻］を選びます。
- ［日付/時刻］をタッチします。

3 日付／時刻を変える

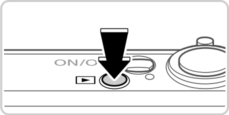
- p.20の手順2の操作で設定します。
- ［↩］を2回タッチすると、メニュー画面が消えます。

- カメラには日付／時刻用電池（バックアップ電池）が内蔵されています。バッテリーを取り出してから約3週間は、設定した日付／時刻が保持されます。
- 日付／時刻用電池は、充電したバッテリーをカメラに入れるか、ACアダプターキット（別売）（p.167）を使うと、カメラの電源を入れなくても約4時間で充電されます。
- 日付／時刻用電池がなくなると、カメラの電源を入れたときに［日付 / 時刻］画面が表示されます。p.20の手順で正しく設定してください。

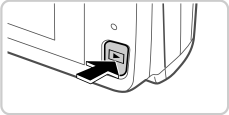
表示言語を選ぶ

画面に表示される言語を変えられます。お買い上げ時は日本語に設定されています。

IXY 1



IXY 420F



1 再生モードにする

- ▶ボタンを押します。



2 設定画面を表示する

- 設定画面が表示されるまで［MENU］をタッチしたままにします。



3 言語を設定する

- 表示したい言語をタッチして選び、［↶］をタッチします。
- ▶ 表示言語が設定され、設定画面が消えます。

- カード内に画像があるときは、画面左下の［FUNC.］をタッチして、［MENU］を表示します。

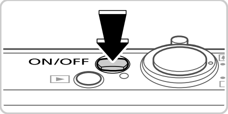
- 言語設定は、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチすると表示されるメニュー画面で、［ﾟ1］タブの［言語 ］を選んで設定することもできます。

使ってみる

ここでは、電源を入れてから静止画や動画を撮影し、その画像を見るまでの手順について説明しています。

撮る（こだわりオート）

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。



1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動画面が表示されます。

IXY 1



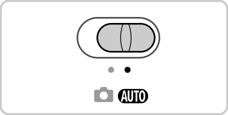


2 オートモードにする

IXY 1

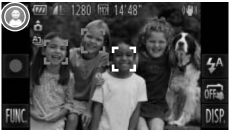
- ［AUTO］をタッチしたあと、［◀］か［▶］をタッチしたり、画面を左右方向に素早くドラッグして、［AUTO］をタッチします。
- ［OK］をタッチして決定します。

IXY 420F



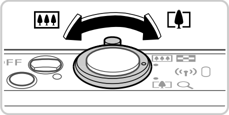
IXY 420F

- モードスイッチを AUTO にします。



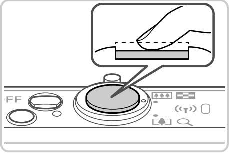
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- ▶ 画面の左上にカメラが判別したシーンと、右上に手ブレ補正のアイコンが表示されます。
- ▶ 被写体が検出されたときは、フレームが表示されてピントを合わせます。

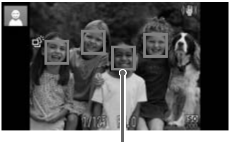
▶ 画面左右に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。



3 撮りたいものの大きさを決める

● ズームレバーを [T] 側に押すと撮りたいものが大きくなり、[W]側に押すと小さくなります。





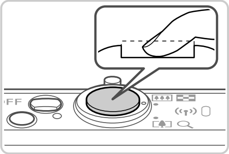
AFフレーム

4 撮影する

静止画を撮る

①ピントを合わせる

● シャッターボタンを浅く押して、ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されます。



②撮影する

● シャッターボタンを深く押し込みます。

● シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。

● シャッター音が鳴っている間はカメラをしっかり持ってください。

▶ 撮影した画像は、約2秒間表示されます。

● 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。



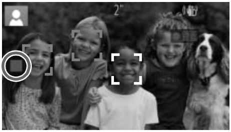
撮影時間



動画を撮る

①撮影をはじめる

- ［●］をタッチすると、電子音が「ピッ」と1回鳴って撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。
- ▶ 画面いっぱいの表示に切り換わり、画面に表示された範囲が撮影されます。
- ▶ 人の顔が検出されているときは、フレームが表示されてピントを合わせます。



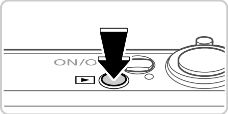
②撮影を終える

- ［■］をタッチすると、電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。
- ▶ カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

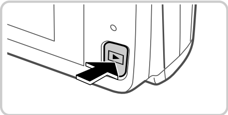
見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

IXY 1

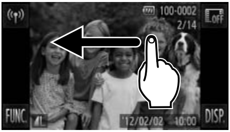


IXY 420F



1 再生モードにする

- ［▶］ボタンを押します。
- ▶ 最後に撮影した画像が表示されます。



2 画像を選ぶ

- 画面を左方向にドラッグすると次の画像が表示され、右方向にドラッグすると前の画像が表示されます。



- 画面右端（左の画面の①の枠内）をタッチすると、[▶] が表示され、次の画像が表示されます。画面左端（左の画面の②の枠内）をタッチすると、[◀] が表示され、前の画像が表示されます。
- 動画では、［▶］が表示されます。動画を再生するときは手順3に進みます。



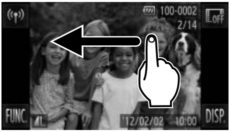
3 動画を再生する

- ［▶］をタッチすると再生がはじまります。
- 音量は、再生中に画面を上下方向に素早くドラッグして調節します。
- ▶ 再生が終わると［▶］が表示されます。

- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。



1 消したい画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。





2 消す

- ［FUNC.］をタッチしたあと、画面を上下方向にドラッグして［🗑］を選び、タッチします。



- ［消去しますか?］が表示されたら、［消去］をタッチします。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、［キャンセル］をタッチします。

- タッチアクションで消すこともできます（p.143）。
- 画像をまとめて消すこともできます（p.138）。

ソフトウェアと電子マニュアルを使う

ここでは、付属CDに入っているソフトウェアや電子マニュアルの紹介のほか、インストール方法、画像をパソコンに取り込む方法について説明します。

付属のソフトウェアでできること

付属のCD内のソフトウェアをインストールすると、パソコンで次のようなことができます。

ImageBrowser EX（イメージブラウザー イーエックス）

- 画像の取り込みやカメラの各種設定
- 画像の閲覧をはじめ、検索や整理などの画像管理
- 画像の印刷や各種の編集
- オートアップデート機能による最新バージョンへの更新

オートアップデート機能について

付属のソフトウェアは、最新バージョンへの更新や新しい機能の追加などをインターネットを使って行います（一部のソフトウェアは除く）。そのため、インターネットにつながるパソコンへインストールしてお使いください。

- この機能をお使いいただくためには、インターネットに接続できる環境が必要なため、プロバイダーとの接続料金や通信料金が別途かかります。

電子マニュアル

付属のCD内のソフトウェアをインストールすると、次の電子マニュアルも一緒にインストールされます。

ImageBrowser EX ガイド

付属のソフトウェアを使うときに参照してください。
ImageBrowser EXのヘルプ機能から参照することができます。

パソコンに必要なシステム構成

付属のソフトウェアがお使いになれるパソコンは以下の通りです。また、電子マニュアルをご覧になるには、別途Adobe Readerが必要です。

Windows

OS	Windows 7 SP1 Windows Vista SP2 Windows XP SP3 （無線LANでの接続はWindows 7 SP1のみ）
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていることと、インターネットに接続できること
CPU	静止画1.6 GHz 以上、動画Core 2 Duo 2.6 GHz以上
RAM	Windows 7（64 bit）：2 GB以上 Windows 7（32 bit）、Windows Vista（64 bit、32 bit）：静止画1 GB以上、動画2 GB以上 Windows XP：静止画512 MB以上、動画2 GB以上
インターフェース	USBおよび無線LAN
ハードディスク空き容量	440 MB以上*
ディスプレイ	1,024 x 768ドット以上

* Windows XPでは、Microsoft .NET Framework 3.0（最大500 MB）以上のインストールが必要です。お使いの環境によっては、インストールに時間がかかることがあります。

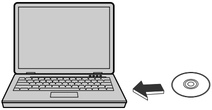
Macintosh

OS	Mac OS X v10.6（無線LANでの接続はv10.6.8以降）
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていることと、インターネットに接続できること
CPU	静止画Core Duo 1.83 GHz 以上、動画Core 2 Duo 2.6 GHz以上
RAM	静止画1 GB以上、動画2 GB以上
インターフェース	USBおよび無線LAN
ハードディスク空き容量	550 MB以上
ディスプレイ	1,024 x 768ドット以上

- 最新のOSを含む対応状況については弊社ホームページをご確認ください。

ソフトウェアと電子マニュアルをインストールする

ここでは、Windows 7とMac OS X v10.6を使って説明をしています。なお、ソフトウェアはオートアップデート機能により、最新バージョンへの更新や新しい機能の追加などが行われます（一部のソフトウェアは除く）ので、インターネットにつながるパソコンへインストールしてください。



1 CDをパソコンのドライブに入れる

- 付属のCD（DIGITAL CAMERA Solution Disk）（p.2）をパソコンのドライブに入れます。
- Macintoshでは、CDを入れるとデスクトップ上に表示されるCDアイコンをダブルクリックして開き、表示される［ ］をダブルクリックします。



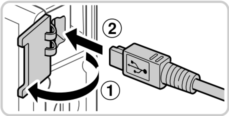
2 インストールをはじめる

- ［おまかせインストール］をクリックし、表示される画面にしたがって操作を進めます。

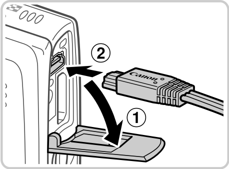


3 カメラの接続をうながすメッセージが表示されたらカメラをパソコンとつなぐ

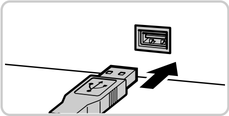
IXY 1



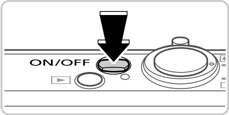
IXY 420F



- カメラの電源が切れた状態でふたを開き（①）、付属のインターフェースケーブル（p.2）の小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます（②）。



- インターフェースケーブルの大きい方のプラグをパソコンのUSB端子に差し込みます。パソコンのUSB端子については、パソコンの使用説明書を参照してください。





4 インストールする

- カメラの電源を入れて、表示される画面にしたがって必要な操作をおこない、インストールを進めます。
- ▶ 最新バージョンへの更新や新しい機能の追加などを行うためインターネットへつながります。そのため、お使いのパソコンやインターネット環境によってはインストールに時間がかかることがあります。
- インストールを終えると表示される画面の［完了］または［再起動］をクリックして、デスクトップ画面が表示されたらCDを取り出します。
- カメラの電源を切ってからケーブルを抜きます。

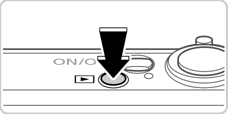
- インターネットに接続していないときは、次のような制限事項があります。
  - 手順3の画面は表示されません。
  - 一部の機能がインストールされないことがあります。
  - はじめてカメラとパソコンをつないだときにドライバーがインストールされるため、操作ができるようになるまでに時間がかかることがあります。
- 付属のCDにImageBrowser EXが入っているカメラを複数お持ちのときは、それぞれのカメラに最適な更新や新しい機能をオートアップデート機能により追加するため、それぞれのCDとカメラを使い、表示される画面にしたがってインストールしてください。

画像をパソコンに取り込む

ここでは、Windows 7とMac OS X v10.6を使って説明をしています。

1 カメラとパソコンをつなぐ

- p.30の手順3の操作でカメラとパソコンをつなぎます。



2 電源を入れてCameraWindow（カメラウィンドウ）を表示する

- ▶ボタンを押して電源を入れます。
- Macintoshでは、カメラとパソコンが通信できる状態になると、CameraWindowが表示されます。



- Windowsでは、以下の操作を行います。
- 表示された画面で［ ］のプログラムを変更するためのリンクをクリックします。



- ［画像をキヤノンカメラからダウンロードします］を選び、［OK］をクリックします。



- [ ] をダブルクリックします。

CameraWindow

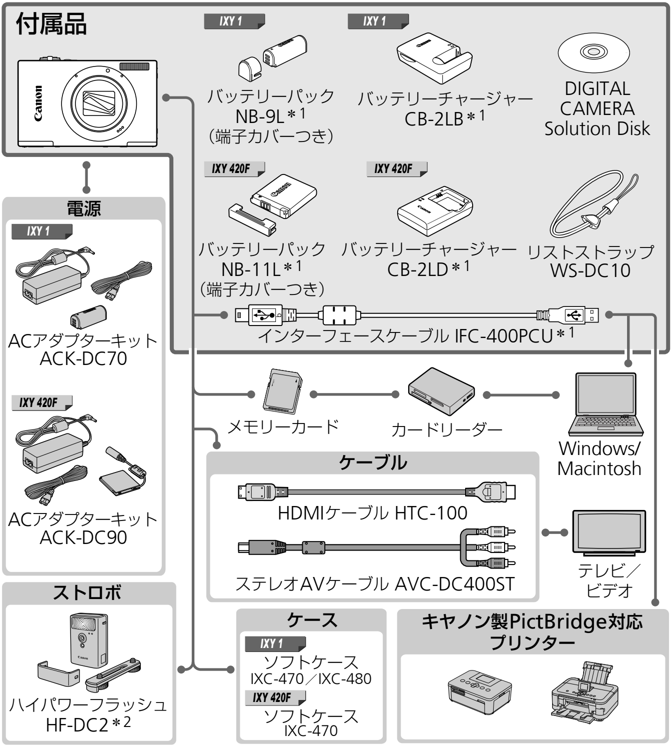


3 画像を取り込む

- [カメラ内の画像の取り込み] をクリックしたあと、[未転送画像を取り込む] をクリックします。
- ▶ 画像がパソコンに取り込まれて、「ピクチャ」フォルダ内に撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。
- 取り込みが完了したら CameraWindow を閉じ、カメラの▶ボタンを押して電源を切ってからケーブルを抜きます。
- パソコンで画像を見る操作は、「ImageBrowser EX ガイド」(p.28)を参照してください。

- Windows 7で手順2の画面が表示されないときは、タスクバーの [ ] をクリックします。
- Windows VistaまたはWindows XPをお使いのときは、手順2でカメラの電源を入れるとパソコンに表示される画面で [画像をキヤノンカメラからダウンロードします] をクリックして、CameraWindowを表示します。この操作で画面が表示されないときは、[スタート] メニュー ▶ [すべてのプログラム] ▶ [Canon Utilities] ▶ [CameraWindow] ▶ [CameraWindow] を選びます。
- Macintosh で手順 2 の操作をしても CameraWindow が表示されないときは、Dock(デスクトップ下部に表示されるバー)の [CameraWindow] アイコンをクリックします。
- 付属のソフトウェアの画像取り込み機能を使わなくても、カメラとパソコンをつなぐだけで画像を取り込むことができますが、次のような制限事項があります。
  - カメラとパソコンをつないでから操作できるようになるまで、数分かかることがあります。
  - 縦位置で撮影した画像が横位置になって取り込まれることがあります。
  - 保護した画像が、パソコン側で解除されることがあります。
  - OSのバージョンや使用するソフトウェア、ファイルサイズによっては、画像や画像に付属する情報が正しく取り込まれないことがあります。
  - 動画編集や書き戻しなど、付属のソフトウェアの機能が一部使えなくなることがあります。

システムマップ



＊1別売りも用意されています。

IXY 1

＊2ハイパワーフラッシュ HF-DC1もお使いになれます。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組みあわせてお使いになった場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

主な仕様

	IXY 1	IXY 420F
カメラ部有効画素数	約1010万画素	約1610万画素
レンズ焦点距離	12倍ズーム： 4.0 (W) – 48.0 (T) mm （35mmフィルム換算： 28 (W) – 336 (T) mm）	5倍ズーム： 4.3 (W) – 21.5 (T) mm （35mmフィルム換算： 24 (W) – 120 (T) mm）
液晶モニター	3.2型TFTカラー液晶 有効画素数：46.1万ドット	
ファイルフォーマット	DCF準拠、DPOF対応（Version 1.1）	
データタイプ	静止画：Exif 2.3（JPEG） 動画：MOV（画像:H.264、音声:リニアPCM（2CH ステレオ））	
インターフェース	Hi-Speed USB HDMI出力 アナログ音声出力（ステレオ） アナログ映像出力（NTSC/PAL）	
電源	バッテリーパック NB-9L ACアダプターキット ACK-DC70	バッテリーパック NB-11L ACKアダプターキット ACK-DC90
大きさ（CIPA準拠）	85.8 x 53.5 x 19.8 mm	93.5 x 56.8 x 20.8 mm
質量（CIPA準拠）	約163 g （電池・メモリーカード含む） 約142 g（本体のみ）	約145 g （電池・メモリーカード含む） 約130 g（本体のみ）

撮影できる枚数・時間、再生できる時間

		IXY 1	IXY 420F
撮影枚数		約190枚	約170枚
動画撮影時間＊1		約30分	約30分
	連続時＊2	約50分	約1時間
再生時間		約3時間	約3時間

＊1 カメラの初期状態で、撮影/一時停止、電源の入/切、ズームなどの操作をしたときの時間です。

＊2「一度に撮影できる時間まで撮影」、「自動停止」を繰り返したときの時間です。

- 撮影枚数は、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- 撮影枚数・時間は、撮影条件により少なくなることがあります。
- フル充電状態での枚数・時間です。

1枚のカードに撮影できる枚数（縦横比4:3のとき）

IXY 1

記録画素数（ピクセル）	圧縮率	1枚のカードに撮影できる枚数（約・枚）	
		4 GB	16 GB
L（ラージ）	S	799	3217
10M/3648x2736	◢	1257	5061
M1（ミドル1）	S	1195	4810
6M/2816x2112	◢	1829	7362
M2（ミドル2）	S	3658	14724
2M/1600x1200	◢	6354	25574
S（スモール）	S	13416	53992
0.3M/640x480	◢	20124	80988

IXY 420F

記録画素数（ピクセル）	圧縮率	1枚のカードに撮影できる枚数（約・枚）	
		8 GB	32 GB
L（ラージ）	S	1058	4272
16M/4608x3456	◢	1705	6883
M1（ミドル1）	S	1996	8059
8M/3264x2448	◢	3069	12391
M2（ミドル2）	S	7442	30040
2M/1600x1200	◢	12927	52176
S（スモール）	S	27291	110150
0.3M/640x480	◢	40937	165225

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。
- 表内の数値は画像の縦横比が4:3のときの値です。縦横比を変えると（p.71）、4:3のときよりも1画像の容量が小さくなるため、撮影できる枚数は多くなります。ただし、［M2］では16:9にすると1画像の記録画素数が1920 x 1080になるため、4:3より容量が大きくなります。

1枚のカードに撮影できる時間

IXY 1

画質	1枚のカードに撮影できる時間	
	4 GB	16 GB
1920	14分34秒	58分40秒
1280	20分44秒＊1	1時間23分29秒＊2
640	43分44秒	2時間56分3秒

IXY 420F

画質	1枚のカードに撮影できる時間	
	8 GB	32 GB
1920	29分39秒	1時間59分43秒
1280	42分11秒＊1	2時間50分19秒＊2
640	1時間28分59秒	5時間59分10秒

＊1 iFrame動画（p.98）では、IXY 1 13分35秒 IXY 420F 27分39秒
＊2 iFrame動画（p.98）では、IXY 1 54分42秒 IXY 420F 1時間51分37秒

- 当社測定条件によるもので、被写体やカードの銘柄、カメラ設定などにより変わります。
- 一度の撮影で動画の容量が 4 GB になるか、撮影時間が［1920］［1280］では約 10 分、［640］では約1時間になると、自動的に撮影が終わります。
- カードによっては、連続撮影時間に満たなくても、撮影が終わることがあります。SDスピードクラス6以上のカードを使用することをおすすめします。

ストロボ調光範囲

	IXY 1	IXY 420F
もっとも広角側（[W]）にしたとき	50 cm – 2.5 m	50 cm – 3.5 m
もっとも望遠側（[T]）にしたとき	1.0 – 1.5 m	90 cm – 2.0 m

撮影距離

IXY 1

撮影モード	フォーカスゾーン	もっとも広角側（[W]）にしたとき	もっとも望遠側（[T]）にしたとき
AUTO	–	1 cm – ∞	1 m – ∞
上記以外	[通常]	5 cm – ∞	1 m – ∞
	[マクロ]*	1 – 50 cm	–
	[遠景]*	3 m – ∞	3 m – ∞

IXY 420F

撮影モード	フォーカスゾーン	もっとも広角側（[W]）にしたとき	もっとも望遠側（[T]）にしたとき
AUTO	–	3 cm – ∞	90 cm – ∞
上記以外	[通常]	5 cm – ∞	90 cm – ∞
	[マクロ]*	3 – 50 cm	–
	[遠景]*	3 m – ∞	3 m – ∞

＊撮影モードによっては、選択できません。

連続撮影の速さ

IXY 1

撮影モード	連続撮影モード	速さ
[H連続]	–	約6.1枚/秒
P	[連続]	約2.6枚/秒
	[AF連続]	約0.8枚/秒
	[LV連続]	約0.8枚/秒

IXY 420F

撮影モード	速さ
[H連続]	約5.2枚/秒
P	約1.9枚/秒

シャッタースピード

	IXY 1	IXY 420F
AUTOモードで自動設定される範囲	1 – 1/4000秒	1 – 1/2000秒
すべての撮影モードをあわせた範囲	15 – 1/4000秒	15 – 1/2000秒

絞り

	IXY 1	IXY 420F
F値	F3.4 － F6.3 (W)、F5.6 － F9.0 (T)	F2.7 / F8.0 (W) － F5.9 / F17 (T)

バッテリーパック

	IXY 1 NB-9L	IXY 420F NB-11L
形式	リチウムイオン充電池	リチウムイオン充電池
公称電圧	DC 3.5 V	DC 3.6 V
公称容量	870 mAh	680 mAh
充放電回数	約300回	約300回
使用温度	0 – 40℃	0 – 40℃
大きさ	14.6 x 43.1 x 15.3 mm	34.6 x 40.2 x 5.2 mm
質量	約21 g	約13 g

バッテリーチャージャー

	IXY 1 CB-2LB	IXY 420F CB-2LD
定格入力	AC 100 V – 240 V（50/60 Hz）8.5 VA（100 V）– 12 VA（240 V）、0.085 A（100 V）– 0.05 A（240 V）	AC 100 V – 240 V（50/60 Hz）
定格出力	DC 4.2 V、0.7 A	DC 4.2 V、0.41 A
充電時間	約1時間50分（NB-9L充電時）	約2時間（NB-11L充電時）
充電表示	充電中：オレンジ色点灯、充電完了：緑色点灯（2灯式）	充電中：オレンジ色点灯、充電完了：緑色点灯（2灯式）
使用温度	0 – 40℃	5 – 40℃
大きさ	59.0 x 82.0 x 24.5 mm	85.0 x 57.6 x 24.3 mm
質量	約73 g	約59 g

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および、外観の一部を予告なく変更することがあります。

注意

指定外のバッテリーを使うと、爆発などの危険があります。使用済みのバッテリーは、各自治体のルールにしたがって処分してください。

Li-ion

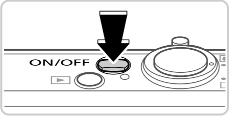
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。
  詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

カメラを知る

カメラの基本操作や機能を知って使いこなす

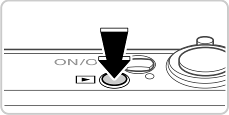
電源の入れかた／切りかた



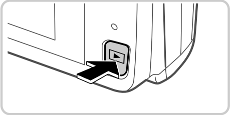
撮影モード

- 電源ボタンを押すと電源が入り、撮影できます。
- 電源ボタンをもう一度押すと、電源が切れます。

IXY 1



IXY 420F



再生モード

- ▶ボタンを押すと電源が入り、撮影した画像を見ることができます。
- ▶ボタンをもう一度押すと､電源が切れます。

- 撮影モードの状態で▶ボタンを押すと、再生モードになります。
- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押し（p.43）すると、撮影モードになります。
- 再生モードでは、約1分経過するとレンズが収納されます。レンズが収納されているときは、▶ボタンを押すと電源が切れます。

節電機能（オートパワーオフ）

バッテリーの消耗を防ぐため､カメラを操作しない状態で一定の時間がたつと、自動的に画面を消したり、電源を切ったりする機能です。

撮影モードでの節電機能

約1分間カメラを操作しないと画面が消え、さらに約2分たつとレンズが収納されて電源が切れます。画面が消えた状態でもレンズが出ているときは、シャッターボタンを半押し（p.43）すると画面が表示され、撮影できます。

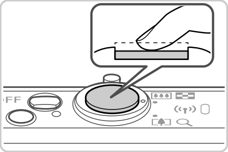
再生モードでの節電機能

約5分間カメラを操作しないと、電源が切れます。

- 節電機能を切ることができます（p.159）。
- 画面が消えるまでの時間を変えられます（p.159）。

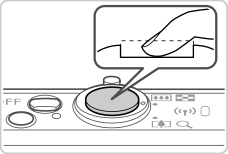
シャッターボタンの押しかた

ピントが合った画像を撮るために、必ずシャッターボタンを浅く押す「半押し」をしてピントを合わせてから、「全押し」して撮影します。
なお、シャッターボタンの操作に関する記載は以降「半押し」、「全押し」と表記しています。



1 半押し（浅く押してピントを合わせる）

- 電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されるまで、浅く押します。



2 全押し（そのまま深く押して撮影する）

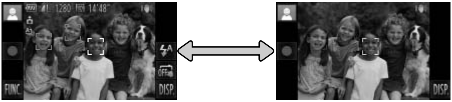
▶ シャッター音が鳴り、撮影されます。

- シャッター音が鳴っている間は撮影中のため、カメラを動かさないように注意してください。

- シャッターボタンを半押ししないで撮影すると、ピントが合わない画像になることがあります。
- シャッター音は撮影にかかる時間に応じて長さが変わります。そのため、撮影シーンによってはシャッター音が長くなり、シャッター音が鳴っている間にカメラを動かしたり、被写体が動いたりすると、ブレの原因になりますので注意してください。

撮影時の画面表示の切り換えかた

画面表示は、[DISP.] をタッチして切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、p.198を参照してください。



情報表示あり　　情報表示なし

- 暗い場所では、自動的に画面が明るくなって構図確認しやすくなります（ナイトビュー機能）。ただし、撮影される画像の明るさとは異なるほか、粗い感じ、またはややぎこちない表示になることがあります（記録される画像に影響はありません）。
- 再生時の画面表示については、p.127を参照してください。

FUNC.（ファンク）の表示と操作方法

よく使う機能は、FUNC.で設定できます。
なお、表示されるメニュー項目や項目は、選んでいる撮影モード（p.204～205）や再生モード（p.209）によって変わります。



1 FUNC.のメニュー項目を表示する

- ［FUNC.］をタッチします。



項目

メニュー項目

2 メニュー項目を選ぶ

- メニュー項目を上下方向にドラッグするか、タッチして選びます。
- メニュー項目以外の場所を上下方向にドラッグすることでも選べます。
- 選んだメニュー項目をもう一度タッチするか、右側の項目をタッチします。



3 項目を選ぶ

- 項目を上下方向にドラッグするか、タッチして選びます。
- 項目以外の場所を上下方向にドラッグすることでも選べます。

4 設定を終える

- 選んだ項目をもう一度タッチするか、［⮌］をタッチします。
- ▶ 手順1で［FUNC.］をタッチする前の画面に戻り、設定した項目が画面に表示されます。

- 設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます（p.162）。
- 手順 2 の画面で、右側のメニューの項目をタッチすることでも項目を選べます。

MENU（メニュー）の表示と操作方法

カメラの各種機能をメニューで設定できます。メニュー項目はタブで撮影［◘］や再生［▶］などの系統に分けられています。なお、表示される項目は、選んでいる撮影モードや再生モード(p.206～209)によって変わります。

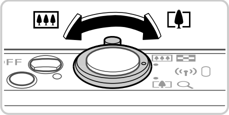




1 MENUを表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチします。





2 タブを選ぶ

- タブをタッチするか、ズームレバー（p.4）を左右に動かして、タブを選びます。



3 項目を選ぶ

- 画面を上下方向にドラッグするか、項目をタッチして選びます。
- 内容が表示されていない項目では、項目をタッチして画面を切り換えたあと、さらに画面を上下方向にドラッグするか、項目をタッチして選びます。
- ［⮌］をタッチすると、切り替える前の画面に戻ります。



4 内容を選ぶ

- 内容の左右に［◀］と［▶］が表示される項目では、［◀］か［▶］をタッチします。
- バーが表示される項目では、バーの上で設定したい位置をタッチします。

5 設定を終える

- ［↩］をタッチすると、手順 1 で［FUNC.］をタッチする前の画面に戻ります。

- 設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます（p.162）。

ランプの表示

カメラのランプ（p.5）は、カメラの状態に連動して、点灯／点滅状態が変わります。

色	状態	操作状態
緑	点灯	パソコン接続時（p.32）、ディスプレイオフ時
	点滅	起動中、カードへの記録／読み出し中、各種通信中、長秒時露光中（p.94）
青	点灯	無線LAN接続完了時
	点滅	無線LAN接続中／データ送受信中

- ランプ（緑色）が点滅しているときは、次のことは絶対にしないでください。画像、カメラ、カードが壊れることがあります。
  - 電源を切る
  - 振動や衝撃を与える

  IXY 1
  - カード収納部ふたやバッテリー収納部のふたを開ける

  IXY 420F
  - カード／バッテリー収納部のふたを開ける

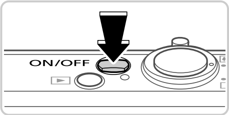
2

AUTOモード（こだわりオート）

かんたん操作で手軽に撮ったり、いろいろな機能を
使ってもう少しこだわった画像を撮る

AUTOモードで撮る（こだわりオート）

カメラが被写体や撮影状況を判別するため、シーンに最適な設定でカメラまかせの全自動撮影ができます。



1 電源を入れる

- 電源ボタンを押します。
- ▶ 起動画面が表示されます。

IXY 1



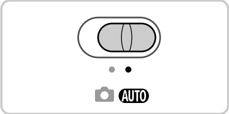


2 オートモードにする

IXY 1

- ［AUTO］をタッチし、［◀］か［▶］をタッチしたり、画面を左右方向に素早くドラッグして、［AUTO］をタッチします。
- ［OK］をタッチして決定します。

IXY 420F

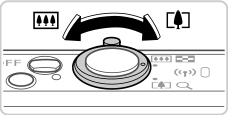


IXY 420F

- モードスイッチをAUTOにします。



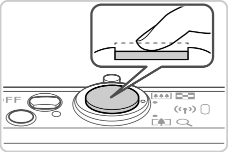
- カメラを被写体に向けると、シーンを判別するため動作音（カチカチ）がします。
- ▶ 画面の左上にカメラが判別したシーンと、右上に手ブレ補正のアイコンが表示されます。
- ▶ 被写体が検出されたときは、フレームが表示されてピントを合わせます。
- ▶ 画面左右に黒い帯が表示されます。この部分は撮影できません。

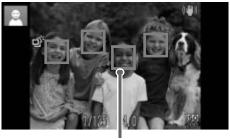



ズームバー

3 撮りたいものの大きさを決める

- ズームレバーを [♠] 側に押すと撮りたいものが大きくなり、[♠♠♠]側に押すと小さくなります（ズームの位置を示すズームバーが表示されます）。
- ズームレバーを[♠]側、または[♠♠♠]側へいっぱいまで押したときは速く、少し押したときはゆっくりと、大きさが変わります。



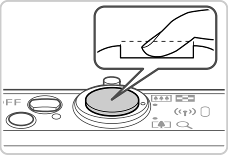

AFフレーム

4 撮影する

静止画を撮る

①ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴り、ピントが合った位置にAFフレームが表示されます。
- 複数のAFフレームが表示されたときは、表示されたすべてのAFフレームにピントが合っています。



②撮影する

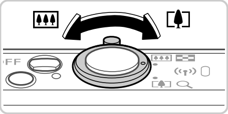
- シャッターボタンを全押しします。
- ▶ シャッター音が鳴り、撮影されます（暗いところでは自動的にストロボが光ります）。
- シャッター音が鳴っている間はカメラをしっかり持ってください。
- ▶ 撮影した画像は、約2秒間表示されます。
- 画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、次の撮影ができます。



動画を撮る

①撮影をはじめる

- ［●］をタッチすると、電子音が「ピッ」と1回鳴って撮影がはじまり、［●録画］と撮影時間が表示されます。
- ▶ 画面いっぱいの表示に切り換わり、画面に表示された範囲が撮影されます。
- ▶ 人の顔が検出されているときは、フレームが表示されてピントを合わせます。



②撮りたいものの大きさを変えたり、構図を変える

- 撮りたいものの大きさを変えるときは、p.51の手順3と同じ操作で変えます。
  ただし、倍率が青く表示されるときは画像が粗くなり、操作音は録音されます。
- 撮影中に構図を変えると、ピント位置、明るさ、色あいが自動的に調整されます。



③撮影を終える

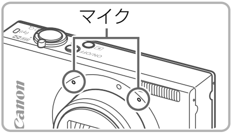
- ［■］をタッチすると、電子音が「ピピッ」と2回鳴り、撮影が終わります。
- カード容量がいっぱいになると、自動的に撮影が終わります。

静止画

- ［ ］が点滅表示したときは手ブレしやすいため、カメラが動かないように三脚などでカメラを固定してください。
- ストロボが光ったのに暗い画像になるときは、被写体までの距離が遠すぎます。ストロボ撮影できる範囲については、「主な仕様」（p.35）を参照してください。
- シャッターボタンを半押ししたときに、電子音が「ピッ」と1回鳴るときは、撮りたいものが近すぎる可能性があります。ピントが合う範囲（撮影範囲）は、「主な仕様」（p.35）を参照してください。
- 暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピント合わせのためや人の目が赤く写るのを緩和するため、ランプ（前面）が点灯することがあります。
- 撮影しようとしたときに［ ］が点滅表示したときは、ストロボ充電中のため撮影できません。充電が終わると撮影できますので、シャッターボタンを全押ししたまま待つか、一度シャッターボタンを離してもう一度押してください。
- 「寝顔」「赤ちゃん（寝顔）」のアイコン（p.54）が表示されているときは、撮影時にシャッター音は鳴りません。
- 静止画を撮影するときにストロボが光ったときは、主被写体と背景の色あいが最適になるように自動補正されます（マルチエリアホワイトバランス）。

動画

- 長時間の動画撮影を繰り返し行うと、カメラの温度が高くなることがありますが故障ではありません。



- 動画撮影するときは、マイクをふさがないよう注意してください。マイクをふさぐと音声が録音されなかったり、こもった音声で録音されることがあります。
- 動画撮影中に画面のタッチ操作以外をすると、操作音が録音されるので、注意してください。
- 動画の画質が［ ］のとき（p.73）は、撮影中に構図を変えると色あいが最適にならないことがあります。そのときは［■］をタッチして撮影を一度止めてから、もう一度［●］をタッチして撮影してください。

- 音声はステレオで録音されます。

シーンのアイコン

AUTO モードでは、カメラが判別したシーンを示すアイコンが表示され、ピント合わせや被写体の明るさ、色あいが最適になるように自動設定されます。また、シーンによっては連続撮影します（p.55）。

被写体 ＼ 背景	通常	逆光	暗い＊	夕景	スポットライト
人				–	
動いているとき			–	–	–
顔の一部が暗いとき		–	–	–	–
笑顔			–	–	–
寝顔			–	–	–
赤ちゃん			–	–	–
笑顔			–	–	–
寝顔			–	–	–
こども（動いているとき）			–	–	–
人以外					
動いているとき			–	–	–
近いとき			–	–	

＊三脚使用時

アイコンの背景は、シーンの背景が青空のときは水色、背景が暗いときは紺色、その他のときは灰色になります。

アイコンの背景は、シーンの背景が青空のときは水色、その他のときは灰色になります。

- ［ ］［ ］［ ］［ ］［ ］の背景は紺色、［ ］の背景はオレンジ色です。

- 動画撮影中、「人」「人以外」「近いとき」以外のアイコンは表示されません。
- セルフタイマー撮影時、「人–動いているとき」「笑顔」「寝顔」「赤ちゃん–笑顔」「赤ちゃん–寝顔」「こども」「人以外–動いているとき」のアイコンは、表示されません。
- ドライブモードを［□］に設定しているとき（p.106）や、［水銀灯自動補正］が［入］で自動補正されるシーン（p.73）では、「笑顔」「寝顔」「赤ちゃん–笑顔」「赤ちゃん–寝顔」「こども」のアイコンは、表示されません。
- ストロボを［$^A］に設定しているとき、逆光での「笑顔」「こども」は表示されません。
- 「赤ちゃん」「赤ちゃん（笑顔）」「赤ちゃん（寝顔）」「こども」のアイコンは、［個人認証］を［入］にしていて、登録されている赤ちゃん（2歳未満）、こども（2歳以上12歳以下）の顔が検出されたときに表示されます（p.63）。なお、あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.20）。

- 撮影シーンによっては、実際のシーンと異なるシーンのアイコンが表示されたり、思いどおりの効果、色あい、明るさで撮影できないことがあります。そのときは、**P**モード（p.99）で撮影することをおすすめします。

連続撮影されるシーン

次のシーンのアイコンが表示されているときに静止画を撮影すると、連続撮影されます。次のシーンのアイコンが表示されているときにシャッターボタンを半押しすると、連続撮影することを知らせる［ ］［ ］［ ］のいずれかが表示されます。

笑顔（赤ちゃんを含む）	：連続撮影した画像の中から、顔の表情などを検出して、カメラが最適と判断した1枚だけを保存します。
寝顔（赤ちゃんを含む）	：連続撮影した画像を合成することで、手ブレやノイズを軽減して寝顔をきれいに撮影できます。AF補助光、ストロボは光りません。また、シャッター音は鳴りません。
こども	：動き回るこどもでもシャッターチャンスを逃さずに撮影できるように、1回の撮影で3枚の画像を連続撮影して保存します。

- シーンによっては、思いどおりの画像が保存されなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。
- ピント、明るさ、色合いは、1枚目の撮影で固定されます。

- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［ ］を選んだあと［□］を選ぶと、連続撮影されなくなります。

手ブレ補正アイコン

撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーンIS）されます。また、AUTOモードでは以下のアイコンが表示されます。

	静止画を撮影するときの手ブレを補正		動画を撮影するときの手ブレを補正し、歩きながら撮影するときなどの大きな手ブレも補正（ダイナミックIS）
	静止画を流し撮りで撮るときのブレを補正*		動画を望遠にして撮影するときなどの、ゆっくりとした手ブレを補正（パワードIS）
	マクロ撮影するときの手ブレを補正（ハイブリッドIS）		三脚などでカメラを固定したときは、手ブレ補正が不要なため停止

* 動く被写体をカメラで追いながら撮影（流し撮り）するときに表示されます。左右方向に動く被写体を追うと、上下方向の手ブレだけが補正されて、左右方向の補正は停止します。また、上下方向に動く被写体を追うと、左右方向の手ブレだけが補正されます。

- ［手ブレ補正］を［切］に設定（p.121）すると、手ブレが補正されなくなり、アイコンも表示されなくなります。

画面に表示される枠

カメラを被写体に向けて被写体を検出すると、画面上にいろいろな枠が表示されます。

- カメラを被写体に向けると主被写体として検出された顔やものには白の枠、その他の顔には灰色の枠が表示されて、一定の範囲で追尾しピントを合わせ続けます。

  ただし、被写体が動いていると判別したときは、灰色の枠が消えて、白の枠だけになります。
- シャッターボタンを半押しした状態で被写体が動いていると判別したときは、青色の枠が表示されて、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボAF）。

- 撮影シーンや被写体によっては、「枠が表示されない」、「撮りたい被写体に枠が表示されない」、「背景などに枠が表示される」ことがあります。そのときは、**P**モード（p.99）で撮影することをおすすめします。

静止画　動画

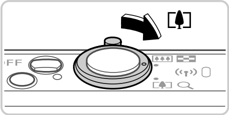
被写体をもっと拡大する（デジタルズーム）

IXY 1

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大約48倍まで拡大できます。

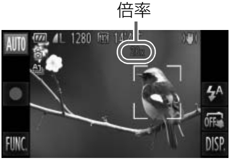
IXY 420F

光学ズームで被写体が大きく撮れないときは、デジタルズームを使って最大約20倍まで拡大できます。



1 ズームレバーを[♠]側に押す

- ズームできるところまでレバーを押したままにします。
- ▶ 画像の粗さが目立たない最大の倍率になるとズームが止まり、レバーから指を離すとズーム倍率が表示されます。



2 もう一度[♠]側に押す

- ▶ さらにズームして、被写体が拡大されます。

- ズームレバーを操作するとズーム位置を示すズームバーが表示されて、バーの色はズーム領域によって変わります。
  - 白の領域：画像が粗くならない光学ズーム領域
  - 黄色の領域：画像の粗さが目立たないデジタルズーム領域（プログレッシブファインズーム）
  - 青色の領域：画像が粗くなるデジタルズーム領域

  また、設定した記録画素数（p.71）によっては青色の領域がないため、手順1の操作で最大倍率までズームできます。

- 光学ズームとデジタルズームをあわせた焦点距離は以下のとおりです（35mmフィルム換算）。
  IXY 1
  28 – 1344 mm（光学ズーム時は28 – 336 mm）
  IXY 420F
  24 – 480 mm（光学ズーム時は24 – 120 mm）
- デジタルズームを使わないようにするには、[FUNC.]、[MENU] の順にタッチして、[ ] タブの［デジタルズーム］を選び、［切］を選びます。

静止画　動画

セルフタイマーを使う

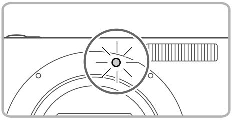
集合写真などで撮影する人も一緒に写るときは、シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されるセルフタイマーを使って撮影します。



1 設定する

- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [ ] を選んだあと、項目の[ ] を選びます（p.45）。
- ▶ 設定されると [ ] が表示されます。

2 撮影する



- 静止画を撮影するときは、シャッターボタンを半押しして被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 動画を撮影するときは、[●]をタッチします。
- ▶ タイマーがはじまるとランプ（前面）が点滅して、電子音が鳴ります。
- ▶ 撮影の 2 秒前になると、ランプ（前面）の点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、画面をタッチします。
- 戻すときは、手順1の操作で [ ] を選びます。

セルフタイマーを使って手ブレを防ぐ

シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影するため、シャッターボタンを押すときのカメラのブレを防ぐことができます。



設定する

- p.58の手順1の操作で［ ］を選びます。
- ▶ 設定されると［ ］が表示されます。
- p.58の手順2の操作で撮影します。

セルフタイマーの時間と撮影枚数を変える

撮影されるまでのタイマー時間（0 – 30秒）と、撮影枚数（1 – 10枚）を設定できます。



1 ［ ］を選ぶ

- p.58の手順1の操作で［ ］を選び、画面右端の［ C ］をタッチします。



2 設定する

- 設定したい項目の［◀］か［▶］をタッチして数値を選び、［ ］を2回タッチします。
- ▶ 設定されると［ ］が表示されます。
- p.58の手順2の操作で撮影します。

- ［●］をタッチして撮影したときは、設定した［時間］で撮影がはじまりますが、［枚数］は反映されません。

- 撮影枚数を2枚以上にしたときは、明るさや色あいは1枚目の撮影で固定されます。また、ストロボが光るときや撮影枚数が多いときは撮影間隔が長くなったり、カード容量がいっぱいになると自動的に撮影が終わります。
- タイマー時間を2秒以上にしたときは、撮影の2秒前にランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなります。

静止画

画面をタッチして撮る（タッチシャッター）

画面をタッチするだけで被写体にピントと明るさを合わせ、かんたんに撮影することができます。



1 タッチシャッター機能を使えるようにする

- ［ ］をタッチして［ ］にします。



2 ピントを合わせたい被写体を選ぶ

- 画面上の被写体を指で触れたままにします。
- 被写体にピントが合うと電子音が「ピピッ」と2回鳴ります。
  青色のAFフレームが表示され、ピントと明るさを合わせ続けます（サーボAF）。

3 撮影する

- 画面から指を離すとシャッター音が鳴り、撮影されます。
- タッチシャッターを使わないようにするときは、［ ］をタッチして［ ］にします。

- タッチシャッター機能は、シャッターボタンを押したときと同じように動作します。
- タッチシャッターの設定は、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチすると表示されるメニュー画面で、［ ］タブの［タッチシャッター］を選んで設定することもできます。
- 撮影した画像が表示されている状態でも、［ ］をタッチすると、次の撮影ができます。

静止画

ストロボを光らせない

ストロボを光らせないで撮影することができます。



設定する

- ［⚡A］をタッチしたあと、［⊛］をタッチして選び、もう一度［⊛］をタッチします。
- ▶ 設定されると［⊛］が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［⚡A］を選びます。

- 手ブレしやすい暗い場所でシャッターボタンを半押しすると、画面に［手ブレ警告］が点滅表示されることがあります。そのときはカメラが動かないよう三脚などで固定してください。

- ［⚡A］をタッチしたあとに表示される画面の［⇄］をタッチして項目を選ぶこともできます。

静止画

日時を入れる

画像の右下に撮影日時を記録できます。ただし、記録された撮影日時は画像から消せません。あらかじめ日付／時刻が正しく設定されていることを確認してください（p.20）。



1 設定する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［日付写し込み］を選び、設定したい項目を選びます（p.46）。
- ▶ 設定されると［日付］が表示されます。



2 撮影する

- ▶ 撮影した画像の右下に、撮影日または撮影日時が記録されます。
- 戻すときは、手順1の操作で［切］を選びます。

- 撮影日を入れずに撮った画像でも、次の方法で撮影日を入れて印刷できます。ただし、撮影日を入れて撮った画像に、撮影日を入れる指定をすると、重複して印刷されることがあります。
  - 印刷指定（DPOF）機能を使って印刷する（p.182）
  - 付属のソフトウェアを使って印刷する
    「ImageBrowser EX ガイド」（p.28）を参照してください。
  - プリンターの機能を使って印刷する（p.176）

個人認証機能を使って撮る

カメラに登録した人の顔を検出して、他の人よりも優先的なピント合わせ、明るさ、色あいで撮影できます。AUTO モードでは、登録した誕生日から赤ちゃんやこどもを判別し、最適な設定で撮影することができます。
また、撮影した多くの画像の中から登録した人の画像を検索するとき（p.129）にも便利です。

個人情報について

- 個人認証機能で登録した顔の画像（顔情報）や、設定した個人情報（名前、誕生日）は、カメラに記録されます。また、撮影した静止画には、検出された人の名前が記録されます。そのため個人認証機能を設定したあとは、カメラや撮影した静止画を他人に渡したり、撮影した静止画をインターネットなどの複数の人が閲覧できる環境へ掲載するときは、十分注意してください。
- 個人認証機能で顔の登録、名前、誕生日を設定しているカメラを譲渡や廃棄するときは、すべての登録情報を削除（p.70）してください。

人物情報を登録する

カメラに登録する人の人物情報（顔情報、名前、誕生日）を、最大12人まで登録することができます。



1 設定画面を表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［個人認証設定］を選び、タッチします（p.46）。



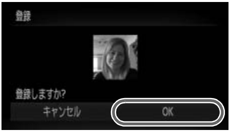
- ［登録］を選んだあと、［新しい人物情報を登録］をタッチします。





2 顔情報を登録する

- 登録したい人の顔を、画面中央に表示される灰色の枠の中に収めます。
- 顔として認識されると枠が白くなりますので、この状態になったことを確認して撮影します。
- 顔として認識されないときは、登録できません。



3 登録する

- ［登録しますか？］が表示されたら［OK］をタッチします。



▶［プロフィール編集］画面が表示されます。



4 名前を入力する

- ［名前］をタッチします。
- 文字をタッチして入力します。
- ［◀］か［▶］をタッチすると、文字を入力する位置を移動できます。
- ［⇧］をタッチすると、大文字を入力できます。
- ［123］をタッチすると、数字や記号が入力できます。
- ［⌫］をタッチすると、前の1文字が消去されます。
- ［↩］をタッチすると、プロフィール編集画面に戻ります。



5 誕生日を入力する

- ［誕生日］をタッチします。
- 設定する項目をタッチして選びます。
- ［▲］か［▼］をタッチして設定します。
- すべての項目を設定したら、［⮌］をタッチします。



6 登録する

- ［保存］をタッチします。
- メッセージが表示されたら、［はい］をタッチします。

7 続けて顔情報を登録する

- 手順2～3の操作を繰り返して、残り4つの顔情報を登録します。
- 顔情報は正面以外にも、笑顔、少し横を向いたときの顔を、屋内や屋外など撮影条件を変えて登録することで検出されやすくなります。

- 手順2の操作で撮影したときは、ストロボは光りません。
- 手順5で誕生日を登録しないと、AUTOモードのときに赤ちゃんやこどものアイコンは表示されません（p.54）。

- 登録されている顔情報を入れ換えたり、5つの顔情報を登録していないときは、あとで追加することができます（p.68）。

撮る

カメラに登録した人の顔を優先的に主被写体と判断して、最適なピント合わせ、明るさ、色あいで撮影できます。



▶ カメラを人に向けると、検出された人の名前が最大3人まで画面に表示されます。
- 撮影します。

▶ 表示された人の名前が、静止画に記録されます。さらに画面に表示されていない人でも、検出されると名前が記録されます（合計5人まで）。

- 登録した顔と特徴が似ている顔を、誤って検出することがあります。

- 登録したときの顔情報と撮影したときの顔や撮影シーンが大きく違うときは、正しく検出されないことがあります。
- 登録した顔が検出されないときや、検出されにくいときは、登録されている顔情報を入れ換えてください。撮影する直前に顔情報を登録すると検出されやすくなります。
- 誤って検出されたまま撮影したときは、再生時に名前を入れ換えたり消したりすることができます（p.132）。
- 赤ちゃんやこどもは成長とともに顔が変わるため、定期的な顔情報の入れ換えをおすすめします（p.68）。
- 情報表示なし（p.44）にすると、名前は表示されませんが、撮影される画像には名前が記録されます。
- 記録される静止画に名前を記録したくないときは、［ ］タブの［個人認証設定］の［個人認証］を［切］にします。
- 記録された名前は、再生画面（簡易情報表示）で確認することができます（p.124）。

登録した情報を確認／編集する

登録した人物情報を確認する



1 ［情報確認/編集］画面を表示する
- p.63の手順1の操作で［情報確認/編集］をタッチします。



2 確認する人を選ぶ

- 確認したい人を選び、タッチします。



3 確認する

- 確認したい項目をタッチします。
- 登録した内容を確認します。

名前や誕生日を変える



1 ［プロフィール編集］画面を表示する

- p.66～67の手順1～3の操作で［プロフィール編集］をタッチします。



2 変更する

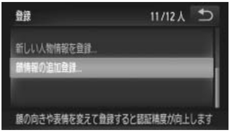
- p.64～65の手順4～5の操作で入力します。

- ［プロフィール編集］で名前を変えても、変更前に撮影された静止画に記録されている名前には反映されません。

- 手順3の画面で［顔情報の一覧］を選択すると、登録した顔を確認したり消したりすることができます。
- 登録した名前は、付属のソフトウェアを使って編集することもできます。なお、付属のソフトウェアを使って入力した文字が、カメラで表示されないことがありますが、画像には正しく記録されます。

顔情報を入れ換え／追加する

新しい顔情報に入れ換えることができます。顔が検出されにくいときや、特に赤ちゃんやこどもは成長とともに顔が変わるため、定期的な顔情報の入れ換えをおすすめします。
また、顔情報を5つ登録していないときは、追加で顔情報を登録します。



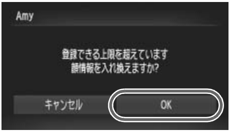
1 ［顔情報の追加登録］画面を表示する

- p.63の手順1の画面で［顔情報の追加登録］をタッチします。



2 入れ換える人の名前を選ぶ

- 入れ換える人の名前をタッチします。
- 登録されている顔情報が4つ以下のときは、下記の手順5の操作で追加します。



3 顔情報の画面を表示する

- 画面の内容を確認して、［OK］をタッチします。
- 顔情報の画面が表示されます。



4 入れ換えたい顔情報を選ぶ

- 入れ換えたい顔情報をタッチします。



5 顔情報を登録する

- p.64の手順2～3の操作で撮影し、新しい顔情報を登録します。
- 顔情報は正面以外にも、笑顔、少し横を向いたときの顔を、屋内や屋外など撮影条件を変えて登録することで検出されやすくなります。

- 顔情報が5つ登録されているときは、追加はできません。上記の操作で顔情報を入れ換えてください。
- 登録している顔情報が4つ以下のときは、上記の操作であらたに顔情報を登録はできますが、入れ換えはできません。いったん顔情報を消して（p.69）から、新しい顔情報を登録（p.63）してください。

顔情報を消す



1 ［情報確認/編集］画面を表示する

- p.63の手順1の操作で［情報確認/編集］をタッチします。



2 顔情報を消す人の名前を選ぶ

- 顔情報を消す人の名前をタッチします。



3 ［顔情報の一覧］画面を表示する

- ［顔情報の一覧］をタッチします。



4 消す顔情報を選ぶ

- ［消去］をタッチしたあと、消す顔情報をタッチします。
- ［消去しますか?］が表示されたら、［OK］をタッチします。
- 顔情報が消えます。

登録した情報を消す

カメラに登録した人物情報（顔情報、名前、誕生日）を消すことができます。なお、撮影した画像に記録されている名前は消えません。



1 ［登録情報の消去］画面を表示する

- p.63の手順1の操作で［登録情報の消去］を選びます。



2 人物情報を消す人の名前を選ぶ

- 人物情報を消す人の名前をタッチします。
- ［消去しますか？］が表示されたら、［OK］をタッチします。

- 登録情報を削除すると、名前の表示（p.127）や、入れ換え（p.68）、検索（p.129）はできなくなります。

- 画像に記録された名前だけを消すこともできます（p.132）。

自分好みの画像を撮るための機能を使う

静止画

縦横比（アスペクト比）を変える

画像の縦横の比率を変えられます。



設定する

- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［4:3］を選び、設定したい項目を選びます（p.45）。
- ▶ 設定されると画面の縦横比が変わります。
- 戻すときは、上記の操作で［4:3］を選びます。

16:9	このカメラの画面と同じ縦横比です。HD（ハイビジョン）対応テレビなどのワイド画面へ表示するときに適しています。
3:2	35mmフィルムと同じ縦横比です。2L判、はがきなどでの印刷に適しています。
4:3	HD（ハイビジョン）非対応テレビなどの画面と同じ縦横比です。L判やA判などでの印刷に適しています。
1:1	正方形です。

- 画面いっぱいに表示して撮影したいときは、［16:9］を選びます。ただし、縦横比が16:9のため、L判やA判などの用紙に印刷すると縦横比があわず、余白が多くなったり、画像の一部が印刷されないことがあります。
- ［4:3］以外では、［デジタルズーム］が［切］に固定されるため、デジタルズーム（p.57）は使えません。

静止画

記録画素数（画像の大きさ）を変える

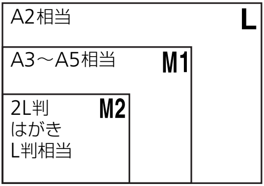
画像の記録画素数を4種類から選べます。それぞれの記録画素数で1枚のカードに撮影できる枚数については「主な仕様」（p.35）を参照してください。



設定する

- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［ L ］を選び、設定したい項目を選びます（p.45）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［ L ］を選びます。

用紙の大きさで選ぶときの目安（縦横比4:3のとき）



- ［ S ］は、電子メールで画像を送るときなどに適しています。

静止画

赤目自動補正

ストロボ撮影時に目が赤く写る現象を、自動補正して撮影できます。



1 ［ストロボ設定］画面を表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［ストロボ設定］を選び、タッチします（p.46）。



2 設定する

- ［赤目自動補正］を選んだあと、［入］を選びます（p.46）。
- ▶ 設定されると［◎］が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［切］を選びます。

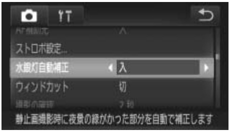
- 化粧などで目の周りが赤いときは、目以外を補正することがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.149）。

静止画

水銀灯で緑がかった部分を補正する

水銀灯の灯りの影響を受ける夜景シーンなどを撮影すると、撮影した画像の被写体や背景全体が緑がかってしまうことがあります。この緑がかることを撮影時に自動補正することができます（マルチエリアホワイトバランス）。



設定する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［水銀灯自動補正］を選び、［入］を選びます（p.46）。
- ▶ 設定されると［ ］が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［切］を選びます。

- 水銀灯の灯りの影響を受けるシーンでの撮影が終わったあとは、［水銀灯自動補正］を［切］に戻すことをおすすめします。［入］のままにしておくと、水銀灯の影響ではない緑系の色を誤って補正することがあります。

- シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

動画

動画の画質を変える

3種類の画質から選べます。それぞれの画質で1枚のカードに撮影できる時間については「主な仕様」（p.35）を参照してください。



設定する

- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［1920］を選んだあと、目的の項目を選びます（p.45）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［1920］を選びます。

画質	記録画素数	フレーム数	内容
1920	1920 x 1080画素	24フレーム/秒	Full HD（フルハイビジョン）画質で撮影できます。
1280	1280 x 720画素	30フレーム/秒	HD（ハイビジョン）画質で撮影できます。
640	640 x 480画素	30フレーム/秒	SD（スタンダード）画質で撮影できます。

- ［640］では、画面の左右に黒帯が表示されます。この部分は撮影できません。

動画

ウィンドカットを使う

風が強いときに発生する雑音を低減できます。ただし、風がない場所で録音したときは、不自然な音になることがあります。



設定する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［ウィンドカット］を選び、［入］を選びます（p.46）。
- 戻すときは、上記の操作で［切］を選びます。

撮影の手助けとなる機能を使う

静止画　動画

グリッドラインを表示する

撮影のときに垂直、水平の目安になる格子線を画面上に表示することができます。



設定する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［グリッドライン］を選び、［入］を選びます（p.46）。
- ▶ 設定されると格子線が表示されます。
- 戻すときは、上記の操作で［切］を選びます。

- 「グリッドライン」は画像に記録されません。

静止画

ピント位置を拡大表示する

シャッターボタンを半押ししたときに、AFフレームの位置を拡大表示してピントを確認することができます。



1 設定する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［ピント位置拡大］を選び、［入］を選びます（p.46）。



2 ピントを確認する

- シャッターボタンを半押しすると、主被写体として検出された顔が、拡大表示されます。
- 戻すときは、手順1の操作で［切］を選びます。

- 顔が検出できないときや、顔がカメラに近すぎて画面に対して大きく表示されているときは、シャッターボタンを半押ししても拡大表示されません。

- デジタルズーム（p.57）、デジタルテレコンバーター（p.109）、サーボAF（p.112）にしているときは拡大表示されません。

静止画

目をつむった人を確認する

撮影時に目をつむった可能性のある人を検出したときは、[ ] を表示してお知らせします。



1 [□] を選ぶ

- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [ ] を選んだあと、項目の [□] を選びます (p.45)。



2 設定する

- [FUNC.] をタッチしたあと [MENU] をタッチして、[ ] タブの [目つむり検出] を選び、[入] を選びます (p.46)。

3 撮影する

▶ 目をつむった人を検出したときは、枠と [ ] が表示されます。

- 戻すときは、手順2の操作で [切] を選びます。

- [ ] で撮影枚数を 2 枚以上に設定したときは、最後に撮影した画像でのみ動作します。

自分好みに機能を変える

MENUの［📷］タブで、カメラの撮影機能を好みの設定に変えることができます。
なお、メニュー機能の操作方法は、「MENU（メニュー）の表示と操作方法」（p.46）を参照してください。

AF補助光（ランプ）を切る

暗いところでシャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせるためにランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。



設定する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［AF補助光］を選び、［切］を選びます（p.46）。
- 戻すときは、上記の操作で［入］を選びます。

赤目緩和機能（ランプ）を切る

暗いところでのストロボ撮影では、人の目が赤く撮影されることを緩和するため、ランプ（前面）が点灯します。このランプを点灯しないようにすることができます。



1 ［ストロボ設定］画面を表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［ストロボ設定］を選び、タッチします（p.46）。

2 設定する

- ［赤目緩和ランプ］を選んでから、［切］を選びます（p.46）。
- 戻すときは、上記の操作で［入］を選びます。

撮影直後の画像表示時間を変える

撮影直後に画像が表示される時間を変えられます。



設定する

- [FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、[］タブの［撮影の確認］を選び、設定したい項目を選びます（p.46）。
- 戻すときは、上記の操作で [2秒] を選びます。

2～10秒	設定した時間だけ画像を表示します。
ホールド	シャッターボタンを半押しするまで画像を表示します。
切	画像は表示されません。

撮影直後の画面表示を変える

撮影直後の画像表示を変えることができます。



設定する

- [FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、[］タブの［レビュー情報］を選び、設定したい項目を選びます（p.46）。
- 戻すときは、上記の操作で［非表示］を選びます。

非表示	撮影した画像だけを表示します。
詳細表示	詳細情報表示（p.200）になります。
ピント確認	AFフレームの位置を拡大表示して、ピントを確認することができます。操作方法は、「ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）」（p.128）と同じです。

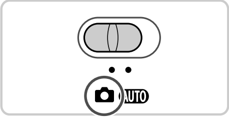
3

いろいろな撮影モード

いろいろなシーンをより効果的に撮ったり、ユニークな効果や特殊な機能で演出された画像を撮る

いろいろなシーンで撮る

撮影シーンにあったモードを選ぶと、最適な撮影ができるようにカメラが自動的に設定を行います。



IXY 420F

1 モードにする

- モードスイッチをにします。

IXY 1



IXY 420F



2 撮影モードを選ぶ

IXY 1

- ［AUTO］をタッチします。

IXY 420F

- ［P］をタッチします。

- ［◀］か［▶］をタッチしたり、画面を左右方向に素早くドラッグすると、別の撮影モードが表示されます。
- 撮りたいモードをタッチすると、選んだ撮影モードの説明が表示されます。
- ［OK］をタッチして決定します。
- ［↩］をタッチすると撮影モードを選ぶ画面に戻ります。

3 撮影する



静止画　動画

人を撮る（ポートレート）

- 人をやわらかい感じで撮影できます。



静止画

三脚を使わずに夜景を撮る（手持ち夜景）

- 連続撮影した画像を合成することにより、手ブレやノイズを軽減して夜景をきれいに撮影できます。
- 三脚を使って撮影するときは、AUTO モードで撮影することをおすすめします（p.50）。



静止画

暗い場所で撮る（ローライト）

- 暗い場所でも手ブレや被写体ブレをおさえて撮影できます。



静止画　動画

雪景色で撮る（スノー）

- 雪景色を背景に、人を明るく自然な色あいで撮影できます。



IXY 1

静止画　動画

花火を撮る（打上げ花火）

- 打上げ花火を色鮮やかに撮影できます。

- ［🌙］モードでは連続撮影するため、撮影中はカメラをしっかり構え続けてください。
- ［🌙］モードでは、ブレが大きすぎるなど、シーンによっては合成できなかったり、思いどおりの効果が得られないことがあります。

IXY 1

- ［▒］モードでは手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.120）。

- ［🌙］モードでは、撮影シーンによってはISO感度（p.102）が高くなるため、画像が粗くなることがあります。

IXY 1

- ［💡］モードでは、記録画素数は［ M ］（1824 x 1368画素）に固定されます。

IXY 420F

- ［💡］モードでは、記録画素数は［ M ］（2304 x 1728画素）に固定されます。

静止画

人の肌がなめらかに見えるように撮る（美肌）

肌がなめらかに見える画像を撮影できます。効果の強さと肌色の色あい（[色白肌］［褐色肌]）を設定することもできます。



1 ［美肌］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［美肌］を選びます。

2 設定画面を表示する

- ［☰］をタッチします。

3 設定する

- 設定する項目の［◀］か［▶］をタッチします。
- ▶ 設定した効果で画面が表示されます。

4 撮影する

- 人の肌以外も補正することがあります。
- シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。

- 主被写体と判断された人の顔が最適になるように効果がかかります。

静止画 動画

効果をつけて撮る

いろいろな効果をつけて撮影することができます。

1 撮影モードを選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で撮影モードを選びます。

2 撮影する

- ［ ］［ ］［ ］［ ］［ ］［ ］モードでは、シーンによっては思いどおりの効果が得られないことがあるので、事前に試し撮りをすることをおすすめします。



静止画 動画

鮮烈な色で撮る（極彩色）

- 色の濃さを強調して、高彩度の鮮烈な色で撮影できます。



静止画 動画

イラスト風の効果をつけて撮る（オールドポスター）

- 古いポスターのようなイラスト風の効果をつけて撮影できます。

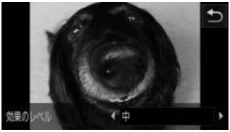
静止画

魚眼レンズのような効果をつけて撮る（魚眼風）

魚眼レンズで撮ったようなデフォルメ効果をつけて撮影します。

1 ［魚眼風］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［魚眼風］を選びます。



2 効果を選ぶ

- ［設定］をタッチしたあと、［◀］か［▶］をタッチして効果のレベルを選び、［戻る］をタッチします。
- ▶ 設定した効果で画面が表示されます。

3 撮影する

静止画　動画

ミニチュア模型のように撮る（ジオラマ風）

指定した範囲の上下をぼかして撮ることで、ミニチュア模型のような効果をつけて撮影します。
また、「再生時の速さ」を選んで動画を撮影すると、再生時には風景の中の人やものが早送りで動くので、ミニチュア模型のように見えます。なお、音声は録音されません。

1 ［ジオラマ風］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［ジオラマ風］を選びます。
- ▶ 画面に白い枠（ぼかさない範囲）が表示されます。



2 ピントが合う位置と範囲を指定する

- ピント位置を変えるときは、画面をタッチするか、白い枠を上下方向にドラッグします。
- ピントの範囲を変えるときは、［M］をタッチして、［S］［M］［L］のいずれかをタッチして選び、［戻る］をタッチします。



3 動画を撮るときは再生時の速さを選ぶ

- ［10x］をタッチして、［5x］［10x］［20x］のいずれかをタッチして倍速（速さ）を選び、［↩］をタッチします。

4 撮影する

倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

倍速	再生時間
5x	約12秒
10x	約6秒
20x	約3秒

- 動画の撮影中は、ズームできません。撮影前に倍率を変えてください。

- 手順 2 の画面で［⬚］をタッチすると枠が縦になり、画面をタッチして位置を変えられます。もう一度［⬚］をタッチすると枠が横に戻ります。
- カメラを縦位置で構えると、枠の向きが変わります。
- 動画の画質は、縦横比で［4:3］を選んだときは［640］に、［16:9］を選んだときは［1280］に固定されます（p.71）。

静止画

トイカメラのような効果をつけて撮る（トイカメラ風）

画像の四隅を暗くぼかして、全体の色調を変えることで、トイカメラで撮影したような効果をつけて撮影できます。

1 ［ ］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［ ］を選びます。



2 色調を選ぶ

- ［ ］をタッチしたあと、［◀］か［▶］をタッチして色調を選び、［ ］をタッチします。
- ▶ 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

標準	トイカメラ風の画像になります。
暖色	［標準］より暖色系のトイカメラ風画像になります。
寒色	［標準］より寒色系のトイカメラ風画像になります。

静止画

優しい雰囲気で撮る（ソフトフォーカス）

ソフトフィルターを使ったような効果をつけて、優しい雰囲気の画像を撮影できます。効果の強さを設定できます。

1 ［ ］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［ ］を選びます。



2 効果を選ぶ

- ［ ］をタッチしたあと、［◀］か［▶］をタッチして効果のレベルを選び、［ ］をタッチします。
- ▶ 設定した効果で画面が表示されます。

3 撮影する

静止画 動画

単色で撮る（モノクロ）

画像を白黒、セピア調、青白にして撮影できます。

1 ［◪］を選ぶ

● p.80の手順1〜2の操作で［◪］を選びます。



2 色調を選ぶ

● ［☰］をタッチしたあと、［◀］か［▶］をタッチして色調を選び、［↶］をタッチします。

▶ 設定した色調で画面が表示されます。

3 撮影する

白黒	白黒で撮影できます。
セピア	セピア調で撮影できます。
青	青白で撮影できます。

静止画　動画

ワンポイントカラーで撮る

画面内の指定した1色のみを残し、それ以外を白黒にして撮影できます。



1 ［ ］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

2 設定画面を表示する

- ［ ］をタッチします。
- ▶ 色を変える前の画像とワンポイントカラーの画像が交互に表示されます。
- ▶ 初期状態では、残る色が緑色に設定されています。



取り込まれた色

3 残す色を指定する

- 残したい色が中央の枠いっぱいに入るようにして、画面下部の枠をタッチします。
- ▶ 指定した色が取り込まれます。

4 残す色の範囲を指定する

- ［▲］か［▼］をタッチして、残したい色の範囲を変えます。
- 指定した色だけを残すときは−の値を大きくします。指定した色に近い色も残すときは+の値を大きくします。
- ［ ］をタッチすると撮影画面に戻ります。

- ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。
- 撮影シーンによっては、画像が粗くなったり、思いどおりの色にならないことがあります。

静止画　動画

スイッチカラーで撮る

画面内の指定した1色を別の色に変えて撮影できます。別の色の取り込みは1色のみです。



1 [ ] を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で [ ] を選びます。



2 設定画面を表示する

- [ ] をタッチします。
- ▶ 色を変える前の画像とスイッチカラーの画像が交互に表示されます。
- ▶ 初期状態では、緑色を灰色に変えるよう設定されています。



3 変える前の色を指定する

- 中央の枠いっぱいに入るようにして、画面下部の左側の枠をタッチします。
- ▶ 指定した色が取り込まれます。



4 変えたあとの色を指定する

- 中央の枠いっぱいに入るようにして画面下部の右側の枠をタッチします。
- ▶ 指定した色が取り込まれます。

5 変えたあとの色の範囲を指定する

- [▲] か [▼] をタッチして、残したい色の範囲を変えます。
- 指定した色だけを変えるときは−の値を大きくします。指定した色に近い色も変えるときは+の値を大きくします。
- [ ] をタッチすると撮影画面に戻ります。

- ストロボを使うと、思いどおりの画像にならないことがあります。
- 撮影シーンによっては、画像が粗くなったり、思いどおりの色にならないことがあります。

特殊なモードでいろいろな画像を撮る

静止画　動画

短編動画を自動で作る（ムービーダイジェスト）

静止画を撮影しているだけで、1日をまとめた短編動画ができます。
静止画を撮影するたびに、その直前のシーンが動画として自動で記録されます。同じ日に記録された動画は、1つのファイルとして保存されます。



1 ［ ］を選ぶ

- p.80の手順1〜2の操作で［ ］を選びます。

2 撮影する

- シャッターボタンを押して、静止画を撮影します。
- ▶ 撮影直前の約 2 〜 4 秒間の動画も自動的に記録されます。

- 電源を入れたり［ ］モードを選ぶなど、カメラを操作した直後に静止画を撮影したときは、動画が記録されないことがあります。
- 静止画と一緒に動画が撮影されるため、AUTOモードよりバッテリーの消耗が早くなります。
- 動画には、カメラを操作したときの操作音が録音されます。

- ［ ］モードで作成された動画は、iFrame動画です（p.98）。
- 次のときは、同じ日に［ ］モードで作成された動画でも、別ファイルとして保存されます。
  - 動画の容量が約4 GBになるか、記録時間が約30分になったとき
  - 動画を保護したとき（p.136）
  - 動画を編集したとき（p.150）
  - フォルダが新しく作成されたとき（p.159）
  - サマータイムの設定（p.21）やエリア設定（p.160）を変えたとき
- シャッターボタンを半押ししたときの音、［操作音］、［セルフタイマー音］（p.154）などの電子音は鳴りません。
- ［ ］モードで作成された動画を、日付で選んで見ることができます（p.130）。

静止画

顔を見つけて撮る（オートシャッター）

笑顔を見つけて撮る（スマイル）

シャッターボタンを押さなくても、カメラが笑顔を検出するたびに、自動で撮影します。



1 ［ ］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［ ］を選んだあと、［ ］をタッチします。
- ［ ］をタッチして選び、［ ］をタッチします。



笑顔検出の入/切

撮影枚数の設定、モードの切り換え（p.92、93）

2 カメラを人に向ける

- カメラが笑顔を検出するたびに、ランプ（前面）が光ったあと撮影されます。
- ［ ］をタッチすると笑顔の検出を中断できます。［ ］をタッチすると笑顔の検出を再開します。

- 笑顔を検出するたびに撮影し続けるので、撮影が終わったら、他の撮影モードに変えることをおすすめします。

- シャッターボタンを押して撮影することもできます。
- カメラの方を向いて、歯が見えるように口を開けて笑うと、笑顔が検出されやすくなります。
- 撮影枚数は、［ ］をタッチしたあと、［▲］か［▼］をタッチして枚数を選び、［ ］をタッチすると変えられます。なお、［目つむり検出］（p.76）は、最後に撮影した画像でのみ動作します。

静止画

ウインクしたら撮る（ウインクセルフタイマー）

カメラを人に向けてシャッターボタンを押したあと、カメラがウインクを検出すると、約2秒後に撮影されます。

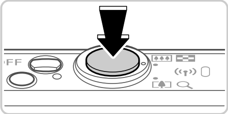


1 ［ ］を選ぶ

- p.80の手順1〜2の操作で［ ］を選んだあと、［ ］をタッチします。
- ［ ］をタッチして選び、［ ］をタッチします。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- 画面の顔をタッチして、ウインクする人を選びます（タッチAF）。
- ウインクする人の顔に緑色の枠が表示されていることを確認します。



3 シャッターボタンを全押しする

- ▶ 撮影準備に入り、［ウインクすると撮影します］が表示されます。
- ▶ ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。



4 カメラに向かってウインクする

- ▶ 枠が表示された人のウインクが検出されると、約2秒後に撮影されます。
- タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、画面をタッチします。

- ウインクが検出されないときは、少し長めに、しっかりとウインクしてください。
- 帽子や髪で目が隠れていたり、眼鏡をかけていたりすると、ウインクが検出されないことがあります。
- 両目をつむってもウインクとして検出されます。
- ウインクが検出されないときは、約15秒後に撮影されます。
- 撮影枚数は、手順1の画面で［ ］をタッチしたあと、［▲］か［▼］をタッチして枚数を選び、［ ］をタッチすると変えられます。なお、［目つむり検出］（p.76）は、最後に撮影した画像でのみ動作します。
- 人がいない構図でシャッターボタンを全押ししたときは、あとから構図に入った人のウインクで撮影がはじまります。

静止画

人が増えたら撮る（顔セルフタイマー）

シャッターボタンを押した人が構図に入って顔が検出（p.110）されると、約2秒後に撮影されます。集合写真などで撮影する人も一緒に写りたいときにおすすめです。

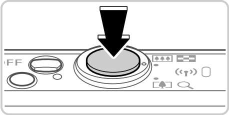


1 ［ ］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［ ］を選んだあと、［ ］をタッチします。
- ［ ］をタッチして選び、［ ］をタッチします。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

- ピントが合った顔には緑色、それ以外の顔には白の枠が表示されていることを確認します。



3 シャッターボタンを全押しする

- 撮影準備に入り［顔が増えたら撮影します］が表示されます。
- ランプ（前面）が点滅し、電子音が鳴ります。



4 一緒に写る人が構図に入り顔をカメラに向ける

▶ 新しい顔が検出されると、ランプの点滅（ストロボ発光時は点灯）と電子音が速くなり、約2秒後に撮影されます。

● タイマーがはじまったあとに撮影を中止するときは、画面をタッチします。

- 一緒に写る人が構図に入っても顔を検出できないときは、約15秒後に撮影されます。
- 撮影枚数は、手順1の画面で［☺］をタッチしたあと、［▲］か［▼］をタッチして枚数を選び、［↶］をタッチすると変えられます。なお、［目つむり検出］（p.76）は、最後に撮影した画像でのみ動作します。

静止画

長秒時露光で撮る（長秒時撮影）

シャッタースピードを1〜15秒の範囲に設定して、長秒時露光撮影ができます。なお、手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定して撮影します。



1 ［★］を選ぶ

● p.80の手順1〜2の操作で［★］を選びます。



2 シャッタースピードを選ぶ

● ［1"］をタッチしたあと、バーの上で設定したい位置をタッチするか、バーを左右方向にドラッグしてシャッタースピードを選び、［↶］をタッチします。

3 露出を確認する

● シャッターボタンを半押しすると、選んだシャッタースピードの露出で画面が表示されます。

4 撮影する

- 手順3でシャッターボタンを半押ししたときの画面の明るさは、撮影される画像と異なることがあります。
- シャッタースピードが1.3秒以上のときは、撮影後にノイズ低減処理を行うため、次の撮影までにしばらく時間がかかります。
- 三脚などでカメラを固定するときは、[手ブレ補正] を [切] にして撮影することをおすすめします (p.120)。

- ストロボが発光すると、白トビした画像になることがあります。そのときは、ストロボを [⊛] にして撮影します。
- [FUNC.] をタッチすると表示されるFUNC.メニューで設定することもできます (p.45)。

静止画

高速で連続して撮る（ハイスピード連写）

シャッターボタンを全押ししている間、高速で連続撮影ができます。連続撮影の速度は「主な仕様」(p.35) を参照してください。



1 [ ] を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で [ ] を選びます。

2 撮影する

▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

IXY 1
- 記録画素数は [M] (1824 x 1368画素) に固定されます。

IXY 420F
- 記録画素数は [M] (2304 x 1728画素) に固定されます。

- ピント、明るさ、色あいは、1枚目の撮影で固定されます。
- 撮影シーンやカメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。

再生したときの表示について

1回に連続撮影された複数の画像が1つのグループにまとめられ（グループ化）、連続撮影の最初に撮影された画像のみが表示されます。また、この画像にはグループ化されていることを示す［⧉］が表示されます。

- グループ化された画像を消す（p.138）と、グループ内のすべての画像が消されますので十分注意してください。

- グループ化された画像を1枚ずつ見たり（p.131）、グループ化を解除できます（p.131）。
- グループ化された画像を保護（p.136）すると、グループ内のすべての画像が保護されます。
- 画像の検索（p.129）や連想再生（p.135）で、グループ化された画像を表示すると、グループ化が一時的に解除されて1枚ずつの表示になります。
- グループ化された画像は、一部のタッチアクション（p.143）、お気に入り設定（p.141）、編集（p.140～149）、カテゴリー分け（p.142）、印刷（p.176）、1枚ずつの印刷指定（p.183）、フォトブック指定（p.185）、個人認証情報の編集（p.132）、起動画面への登録（p.156）はできません。グループ化された画像を1枚表示（p.131）にするか、グループ化を解除（p.131）してから行ってください。

いろいろな動画を撮る

ハイスピード動画を撮る

動きの速い被写体を撮影し、スローモーション再生することができます。なお、音声は録音されません。

1 [ ] を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で [ ] を選びます。



2 フレームレートを選ぶ

- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [ ] を選び、フレームレートを選びます（p.45）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。



3 撮影する

- [●] をタッチします。
- ▶ 撮影時間に連動したバーが表示されます。なお、撮影できる時間は、最長約30秒です。
- [■] をタッチすると撮影が終わります。

フレーム数	画質	再生時間（30秒間撮影したとき）
240フレーム/秒	（320 x 240画素）	約4分
120フレーム/秒	（640 x 480画素）	約2分

- 撮影中はズームレバーを操作しても、ズームできません。
- ピント、露出、色あいは [●] をタッチしたときに固定されます。

- p.124の手順1～3の操作で再生すると、スローモーション再生されます。
- [ ] モードで撮影した動画は、付属のソフトウェアを使うと、再生速度を変えて見ることができます。「ImageBrowser EX ガイド」（p.28）を参照してください。

iFrame動画で撮る

iFrameに対応したソフトウェアや機器での編集に適した動画が撮影できます。なお、付属のソフトウェアを使うと、iFrame動画の編集や保存などを高速に行うことができます。



1 ［ ］を選ぶ

- p.80の手順1～2の操作で［ ］を選びます。

2 撮影する

- ［●］をタッチします。
- ［■］をタッチすると撮影が終わります。

- 記録画素数は［1280］（p.73）に固定されます。
- iFrameとは、Apple社が提唱する動画タイプです。

4

Pモード

撮影スタイルにあわせた、ワンランク上の画像を撮る

- Pモードになっていることを前提に説明しています（p.100）。
- Pは、Program AE（プログラムエーイー）の略、AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。
- この章で説明する機能をPモード以外で使うときは、それぞれの機能がどのモードで使えるか確認してください（p.202～207）。

プログラムAEで撮る（Pモード）

いろいろな機能を自分好みに設定して撮影できます。



1 Pモードにする

- p.80の手順1～2の操作で［P］を選びます。

2 目的に応じて各機能を設定（p.101～120）し、撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに適正露出が得られないと、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。次の設定で、適正露出が得られることがあります。
  - ストロボを発光させる（p.116）
  - ISO感度を高くする（p.102）
- Pモードでも、［●］をタッチすると動画が撮影できます。ただし、FUNC.やMENUの一部が動画撮影の設定にあわせて自動的に変わることがあります。
- Pモードでの撮影範囲は、「主な仕様」（p.35）を参照してください。

明るさ（露出）に関する機能を使う

静止画　動画

明るさを変える（露出補正）

カメラが決めた標準的な露出を1/3段ずつ、±2段の範囲で補正できます。



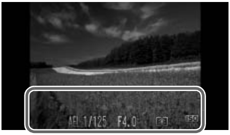
- ［±0］をタッチしたあと、バーの上をタッチするか、左右方向にドラッグして明るさを補正します（p.45）。
- ▶ 設定した補正量が表示されます。

- ［FUNC.］をタッチすると表示されるFUNC.メニュー（p.45）で設定することもできます。

静止画　動画

明るさ（露出）を固定する（AEロック）

露出を固定して撮影したり、ピントと露出を個別に設定して撮影することもできます。



1 露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、画面下部（左の画面の枠内）をタッチします。
- シャッターボタンから指を離してもう一度画面をタッチすると、［AEL］が消えて解除されます。

2 構図を決めて撮影する

- AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略です。

静止画

測光方式を変える

撮影シーンにあわせて、測光方式（明るさを測る特性）を変えられます。



● [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [◎] を選び、設定したい項目を選びます（p.45）。

▶ 設定した項目が表示されます。

◎	評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じて、被写体が常に適正露出になるように自動補正します。
[ ]	中央部重点平均測光	画面中央部に重点をおいて、画面全体を平均的に測光します。
[•]	スポット測光	画面中央に表示される［[　]］（スポット測光枠）の範囲のみを測光します。なお、AFフレームモードが［一点］（p.111）のときは、スポット測光枠はAFフレームに連動します。

静止画

ISO感度を変える



● [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [ISO AUTO] を選び、設定したい項目を選びます（p.45）。

▶ 設定した項目が表示されます。

ISO AUTO	撮影モードと撮影シーンに応じて自動設定	
ISO 100 ISO 200	低い	晴天の屋外
ISO 400 ISO 800	↕	曇り空、夕方
ISO 1600 ISO 3200	高い	夜景、暗い室内

- ［ISO AUTO］では、シャッターボタンを半押しすると自動設定されたISO感度が画面に表示されます。
- ISO感度を低くすると粗さが目立たない画像になりますが、撮影シーンによっては被写体ブレや手ブレがおきやすくなることがあります。
- ISO感度を高くするとシャッタースピードが速くなるため、被写体ブレや手ブレが軽減されたり、ストロボの光が遠くの被写体まで届くようになりますが、画像が粗くなります。

静止画

明るさを補正して撮る（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が明るすぎたり暗すぎたりするときは、その部分を検出し、適切な明るさに自動補正して撮影することができます。また、画面全体で明暗差が小さいときは、くっきりした印象となるように自動補正して撮影することができます。



- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［📷］タブの［i-コントラスト］を選び、項目の［自動］を選びます（p.46）。
- ▶ 設定されると［Ci］が表示されます。

- 撮影シーンによっては画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。

- 撮影した画像を補正することもできます（p.148）。

色や連続撮影に関する機能を使う

静止画　動画

色あいを調整する（ホワイトバランス）

ホワイトバランス（WB）は、撮影シーンにあわせて自然な色あいにする機能です。

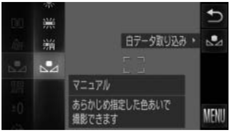


- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [AWB] を選び、設定したい項目を選びます（p.45）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

AWB	オート	撮影シーンに応じて自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇り空や日陰、薄暮
	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	マニュアル	マニュアルホワイトバランス（手動設定）

マニュアルホワイトバランス

撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを変えて、撮影時の光源に適した色あいで撮影できます。撮影場所の光源のもとで設定してください。



- 「色あいを調整する（ホワイトバランス）」の操作で［ ］を選びます。
- 画面いっぱいに白い無地の被写体が入るようにして、画面右端の［ ］をタッチします。
- ▶ 白データが取り込まれて設定されると、画面の色あいが変わります。

- 白データを取り込んだあとにカメラの設定を変えると、適切な色あいにならないことがあります。

静止画　動画

画像の色調を変える（マイカラー）

通常の撮影画像とは違った印象の画像にしたり、セピア調や白黒画像に変えることができます。



- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［OFF］を選び、設定したい項目を選びます（p.45）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

OFF	マイカラー切	–
V	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした印象の色調になります。
N	すっきりカラー	コントラストと色の濃さをおさえ、すっきりとした印象の色調になります。
Se	セピア	セピア調になります。
BW	白黒	白黒になります。
P	ポジフィルムカラー	「あざやかブルー」、「あざやかグリーン」、「あざやかレッド」の効果をあわせたもので、ポジフィルムのように自然で色鮮やかになります。
L	色白肌	人の肌が色白になります。
D	褐色肌	人の肌が褐色になります。
B	あざやかブルー	青色を強調します。空や海などがより鮮やかになります。
G	あざやかグリーン	緑色を強調します。山や草花などがより鮮やかになります。
R	あざやかレッド	赤色を強調します。赤い被写体がより鮮やかになります。
C	カスタムカラー	画像の色調を自分好みに設定できます（p.106）。

- ［Se］［BW］では、ホワイトバランス（p.104）は設定できません。
- ［L］［D］では、人の肌の色以外が変わることがあります。また、肌の色によっては、思いどおりの色にならないことがあります。

カスタムカラー

画像のコントラスト（明暗差）、シャープネス（先鋭度）、色の濃さ、赤、緑、青、肌色を、それぞれ5段階から選んで設定できます。



1 設定画面を表示する

- 「画像の色調を変える（マイカラー）」（p.105）の操作で［Ac］を選び、画面右端の［C］をタッチします。

2 設定する

- ［◀］か［▶］をタッチして項目を選び、バーの上で設定したい位置をタッチします。
- 設定値が右側に行くほど強く／濃く／褐色（肌色）になり、左に行くほど弱く／薄く／色白（肌色）になります。
- ［↶］をタッチして設定します。

静止画

連続して撮る

シャッターボタンを全押ししたままにすると、連続撮影ができます。
連続撮影の速度は「主な仕様」（p.35）を参照してください。



1 設定する

- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［□］を選んだあと、項目の［連続撮影］を選びます（p.45）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。
- ▶ 設定されると［連続撮影］が表示されます。

2 撮影する

- ▶ シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影されます。

IXY 1

モード	説明
連続撮影	シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出で連続撮影されます。
AF連続撮影	連続撮影中もピント合わせが行われます。 [AFフレーム]は[一点]に固定されます。
LV連続撮影*	連続撮影中は、AFロックで設定したピント位置に固定されます。 [ ]モードでは、1枚目のピント位置で固定されます。

*[ ]モード時(p.81)、AFロック撮影時(p.115)は、[ ]が[ ]になります。

- セルフタイマー(p.58)、[目つむり検出](p.76)とは一緒に使えません。

IXY 420F

- 連続撮影中は、シャッターボタンを半押ししたときのピント位置と露出に固定されます。

- 撮影シーン、カメラの設定、ズーム位置によっては、一定の間隔で撮影されなかったり、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 撮影枚数が多くなると、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- ストロボが発光するときは、連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- [ ]では、個人認証機能(p.63)を使って撮影すると、名前は1枚目に記録された位置に固定されます。被写体が動いても、2枚目以降も1枚目と同じ位置に記録されます。

撮影範囲やピント合わせに関する機能を使う

静止画　動画

近くの被写体を撮る（マクロ撮影）

［🌷］に設定すると、近いものだけにピントを合わせます。ピントが合う範囲は「主な仕様」（p.35）を参照してください。



- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［🅐］を選び、項目の［🌷］を選びます（p.45）。
- ▶ 設定されると［🌷］が表示されます。

- ズームバーの下にある黄色のバー表示の範囲は、［🌷］が灰色表示になりピントが合いません。

- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラを固定し、［🕑2］で撮影することをおすすめします（p.59）。

静止画　動画

遠くの被写体を撮る（遠景撮影）

［▲］に設定すると、遠いものだけにピントを合わせます。ピントが合う範囲は「主な仕様」（p.35）を参照してください。



- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［🅐］を選んだあと、項目の［▲］を選びます（p.45）。
- ▶ 設定されると［▲］が表示されます。

静止画 動画

デジタルテレコンバーターを使う

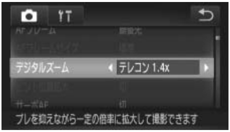
IXY 1

レンズの焦点距離を1.4倍 / 2.3倍にできます。

IXY 420F

レンズの焦点距離を1.6倍 / 2.0倍にできます。

ズーム操作（デジタルズーム含む）で同じ倍率に拡大したときよりも、シャッタースピードが速くなるため手ブレを軽減できます。



- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［デジタルズーム］を選び、目的の項目を選びます（p.46）。
- ▶ 画面が拡大表示されて、倍率が表示されます。

IXY 1

- ［テレコン 2.3 x］では、記録画素数（p.71）が［ L ］のとき、倍率が青色で表示されて画像が粗くなります。

- デジタルズーム（p.57）、ピント位置の拡大表示（p.75）とは、一緒に使えません。
- デジタルコンバーターが使えるのは、縦横比が［4:3］のときのみです。

IXY 1

- 1.4倍 / 2.3倍時の焦点距離はそれぞれ39.2 – 470 mm / 64.4 – 773 mmです（35mmフィルム換算）。

IXY 420F

- 1.6倍 / 2.0倍時の焦点距離はそれぞれ38.4 – 192 mm / 48.0 – 240 mmです（35mmフィルム換算）。

- ズームレバーを［🌲］側に押してもっとも望遠側にしたときのシャッタースピードは、p.57の手順2の操作で被写体を同じような大きさに拡大したときのシャッタースピードと同じになることがあります。

静止画　動画

AFフレームモードを変える

撮影シーンにあわせて、AF（自動ピント合わせ）フレームモードを変えられます。



- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［AFフレーム］を選び、設定したい項目を選びます（p.46）。

IXY 1

静止画　動画

顔優先

IXY 420F

顔優先AiAF

- 人の顔を検出して、ピント、露出（評価測光時のみ）、色あい（［AWB］時のみ）を合わせます。
- カメラを被写体に向けると、主被写体と判断した顔に白のフレーム、他の顔には最大2つの灰色のフレームが表示されます。
- 検出した顔が動いていると判別したときは、一定の範囲で追尾します。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合った顔には緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。

IXY 1

- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、中央にフレームが表示されます。

IXY 420F

- 顔が検出されないときや、白のフレームが表示されず灰色のフレームのみが表示されたときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合った位置に緑色のフレーム（最大9個）が表示されます。

- サーボ AF（p.112）が［入］で顔が検出されないときに、シャッターボタンを半押しすると中央にフレームが表示されます。
- 顔として検出できない例
  - 被写体までの距離が遠い、または極端に近い。
  - 被写体が暗い、または明るい。
  - 顔が横や斜めを向いている、または一部が隠れている。
- 人の顔以外を、誤って検出することがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、AFフレームは表示されません。

静止画　動画

一点

AFフレームが1点になります。確実なピント合わせに有効です。

- シャッターボタンを半押ししてピントが合わないときは、黄色のAFフレームと［!］が表示されます。また、ピント位置の拡大表示（p.75）はできません。

- AFフレームを小さくしたいときは、［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［AFフレームサイズ］を選び、項目の［小］を選びます（p.46）。
- デジタルズーム（p.57）やデジタルテレコンバーター（p.109）使用時は、［標準］に設定されます。

静止画

構図を変えて撮る（フォーカスロック撮影）

シャッターボタンを半押ししている間はピントと露出が固定され、そのまま構図を変えて撮影できます。これをフォーカスロック撮影といいます。



1 ピントを合わせる

- 撮りたいものを画面の中央にして、シャッターボタンを半押しします。
- AFフレームが、被写体に緑色で表示されていることを確認します。



2 構図を変える

- シャッターボタンを半押ししたまま、カメラを動かして構図を変えます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。

静止画

サーボAFで撮る

シャッターボタンを半押ししている間は被写体にピントと露出を合わせ続けるため、動いている被写体のシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。



1 設定する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［サーボAF］を選び、［入］を選びます（p.46）。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押ししている間、青色でAFフレームが表示され、ピントと露出を合わせ続けます。

- 撮影シーンによっては、ピントが合わなくなることがあります。
- 暗い場所では、シャッターボタンを半押ししてもAFフレームが青色にならないときがあります。そのときは、設定しているAFフレームモードでピントと露出を合わせます。
- 適正露出が得られなくなると、シャッタースピードと絞り数値がオレンジ色で表示されます。いったんシャッターボタンから指を離して、もう一度シャッターボタンを半押ししてください。
- AFロック撮影はできません。
- メニューの［ ］タブの［ピント位置拡大］は設定できません。
- セルフタイマー（p.58）使用時は設定できません。

IXY 1　　　　静止画

フォーカス設定を切り換える

通常は、シャッターボタンを押さなくても、カメラを向けた方向の被写体へ常にピントを合わせますが、シャッターボタンを半押ししたときだけ、ピントを合わせるようにすることができます。



- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［ ］タブの［コンティニュアスAF］を選び、［切］を選びます（p.46）。

入	シャッターボタンを半押しするまで常にピントを合わせ続けるので、とっさのシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
切	通常はピント合わせを行わないため、消費電力を抑えることができます。

静止画　動画

ピントを合わせたい被写体を選んで撮る（タッチAF）

目的の人の顔や被写体を選んだり、画面上の位置を指定してピントを合わせ、撮影できます。



1 ピントを合わせたい顔、被写体または位置を選ぶ

- 画面上の人や被写体にタッチします。



IXY 1

▶ AFフレームモードが［顔優先］のときは、被写体として認識すると電子音が鳴り、［ ］枠が表示されます（動いていてもピントを合わせ続けます）。

IXY 420F

▶ AF フレームモードが［顔優先 AiAF］のときは、被写体として認識すると電子音が鳴り、［ ］枠が表示されます（動いていてもピントを合わせ続けます）。

▶ AFフレームモードが［一点］のときは、タッチした位置にAFフレームが表示されます。

- 解除するときは、［ ］をタッチします。



2 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ピントが合っている枠が緑色の［ ］に変わります。
- シャッターボタンを全押しして撮影します。

- タッチAFができないときは、画面の[ ]をタッチして[ ](p.60)にするか、[FUNC.]、[MENU]の順にタッチして[ ]タブの[タッチシャッター]を[切]にすると、タッチAFができるようになります。
- タッチしたときに画面全体に四角の枠が表示されるときは、四角の枠内に顔や被写体を入れてからタッチしてください。
- 被写体が小さすぎたり動きが速いときや、被写体と背景との明暗差が小さいときは、追尾できないことがあります。

IXY 1

- [ ]や[ ]に設定しても(p.108)、AFフレームモードが[顔優先]のときに、ピントを合わせる位置を指定すると、[ ]に戻ります。

IXY 420F

- [ ]や[ ]に設定しても(p.108)、AFフレームモードが[顔優先AiAF]のときに、ピントを合わせる位置を指定すると、[ ]に戻ります。
- [個人認証]を[入]にしていて、登録されている人の顔が検出されたときは、名前は表示されませんが、撮影した静止画には記録されます(p.63)。ただし、被写体として指定した人が検出された人のときは名前が表示されます。

静止画　動画

AFロックで撮る

ピントを固定できます。固定後はシャッターボタンから指を離しても、ピント位置は固定されたままになります。



1 ピントを合わせて固定する

- シャッターボタンを半押ししたまま、画面上部(左の画面の枠内)をタッチします。
- ▶ ピントが固定され、[AFL]が表示されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度画面をタッチすると、[AFL]が消えて解除されます。

2 構図を決めて撮影する

ストロボに関する機能を使う

ストロボを発光させる

ストロボを常に発光させて撮影できます。ストロボ撮影できる範囲については、「ストロボ調光範囲」（p.37）を参照してください。



- ［⚡^A］をタッチしたあと、［⚡］をタッチして選び、もう一度［⚡］をタッチします。
- ▶ 設定されると［⚡］が表示されます。

- 上記の画面で［⇄］をタッチして項目を選ぶこともできます。

スローシンクロで撮る

人などの主被写体は、ストロボが発光することで明るく撮影され、ストロボの光が届かない背景は、シャッタースピードを遅くすることで暗くなるのを軽減することができます。
なお、ストロボ撮影できる範囲は「ストロボ調光範囲」（p.37）を参照してください。



1 設定する

- ［⚡^A］をタッチしたあと、［⚡☆］をタッチして選び、もう一度［⚡☆］をタッチします。
- ▶ 設定されると［⚡☆］が表示されます。

2 撮影する

- ストロボが光っても、シャッター音が鳴り終わるまでは主被写体が動かないようにしてください。

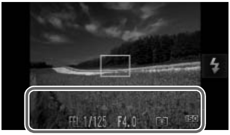
- 手ブレを防ぐため、三脚などでカメラが動かないように固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.120）。

- 上記の画面で［⇄］をタッチして項目を選ぶこともできます。

FEロックで撮る

ストロボ撮影時の露出を、AEロック撮影（p.101）と同様に固定できます。

1 [⚡] にする（p.116）



2 ストロボ露出を固定する

- 露出を固定したい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押ししたまま、画面下部（左の画面の枠内）をタッチします。
- ▶ ストロボが発光し、[FEL] が表示され、ストロボ発光量が記憶されます。
- シャッターボタンから指を離してもう一度画面をタッチすると、[FEL] が消えて解除されます。

3 構図を決めて撮影する

- FEは、Flash Exposure（フラッシュエクスポージャー）の略です。

静止画

圧縮率（画質）を変える

圧縮率を2種類から選べます。高画質から順に [ ]（スーパーファイン）、[ ]（ファイン）となります。それぞれの圧縮率で1枚のカードに撮影できる枚数については「主な仕様」（p.35）を参照してください。



設定する

- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [ ] を選び、設定したい項目を選びます（p.45）。
- ▶ 設定した項目が表示されます。

撮影スタイルにあわせて機能を変える

静止画　動画

アイコンの配置を変える（ボタンカスタマイズ）

撮影画面に表示されるアイコンを追加したり、配置を変えたりすることができます。

よく使う機能のアイコンを追加する



1 設定画面を表示する

- 撮影画面でいずれかのアイコンをタッチしたままにします。



- ▶ 左の設定画面が表示されます。



2 アイコンを追加する

- 手順 1 の画面中央にある表示させたいアイコンを、移動先にドラッグします。
- アイコンを配置できる位置に近づけるとオレンジ色の枠が表示され、画面から指を離すとアイコンが追加されます。また、移動先に別のアイコンがあるときは、ドラッグしたアイコンと入れ換わります。
- アイコンが灰色で表示されている位置には配置できません。

3 設定を終える

- ［終了］をタッチします。

- 画面右上に配置したときは、手順1でアイコンをタッチしたままにすると［ ! ］が表示され、設定画面を表示できません。右上以外のアイコンを選んでください。

アイコンの配置を変える



- p.118の手順1の設定画面で、配置を変えたいアイコンを移動先にドラッグします。
- ▶ 移動先に別のアイコンがあるときは、ドラッグしたアイコンと入れ換わります。

使わない機能のアイコンを非表示にする



- p.118の手順1の設定画面で、非表示にしたいアイコンを画面中央にドラッグし、表示された［ ］に重ねます。
- ドラッグしても［ ］が表示されないアイコンは、非表示にできません。

レイアウトを変える

アイコンのレイアウトを3種類から選べます。なお、追加したアイコンは非表示となり、初期状態のアイコンのみが配置されます。



- p.118の手順1の設定画面で［おすすめから選択］をタッチします。
- アイコンの配置をタッチし、［OK］をタッチします。
- ［キャンセル］をクリックすると、もとの配置のまま設定画面に戻ります。

- 設定画面は、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして［ ］タブの［ボタンカスタマイズ］をタッチすることでも表示できます。

静止画

画面をタッチして撮る（タッチシャッター）

画面をタッチして撮影する、タッチシャッター機能を使えるようにすることができます。



- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［タッチシャッター］を選び、項目の［入］を選びます（p.46）。
- p.60の手順2～3の操作で撮影します。

- タッチシャッター機能は、シャッターボタンを押したときと同じように動作しますが、次の機能は使えません。
AFロック（p.115）、AEロック（p.101）、FEロック（p.117）

IXY 1

- ［🌷］や［▲］に設定しても（p.108）、AFフレームモードが［顔優先］のときにタッチシャッター機能を使うと、［A］に戻ります。

IXY 420F

- ［🌷］や［▲］に設定しても（p.108）、AFフレームモードが［顔優先AiAF］のときにタッチシャッター機能を使うと、［A］に戻ります。

- ［タッチシャッター］が［入］のときは、［ⓗ］モード（p.95）や［⊒］（p.106）を選んでも1枚だけ撮影されます。

静止画　動画

手ブレ補正の設定を変える



1 設定画面を表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［📷］タブの［手ブレ補正設定］を選び、タッチします（p.46）。

2 設定する

- ［手ブレ補正］を選んでから、目的の項目を選びます（p.46）。

入	撮影状況に最適な手ブレ補正に自動設定（マルチシーンIS）されます（p.56）。
撮影時*	撮影される瞬間のみ手ブレを補正します。
切	手ブレ補正を切ります。

*動画を撮影するときは、［入］の設定に変わります。

- 手ブレを補正しきれないときは、三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［切］にすることをおすすめします。

動画

パワードIS 機能を切る

パワードIS は、動画を望遠にして撮影するときのゆっくりとした手ブレを補正します。ただし、歩きながら撮影するときや被写体の動きにあわせてカメラを大きく動かしたときなどは、思いどおりの効果が得られないことがあります。そのようなときは、パワードIS を［切］に設定します。



- 「手ブレ補正の設定を変える」（p.120）の操作で［手ブレ補正設定］画面を表示します。
- ［パワード IS］を選んでから、［切］を選びます（p.46）。

- ［手ブレ補正］が［切］のときは、［パワードIS］の設定は反映されません。

5

再生モード

撮った画像を見て楽しんだり、いろいろな機能を使って画像の検索や編集をする

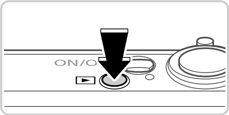
- ▶ボタンを押して、再生モードにしてから操作してください。

パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、再生や編集ができないことがあります。

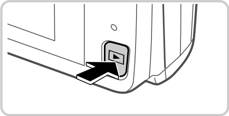
見る

撮影した画像を画面で見ることができます。

IXY 1



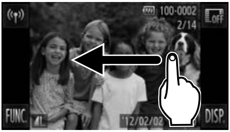
IXY 420F



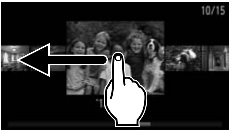
1 再生モードにする

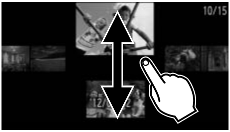
- ［▶］ボタンを押します。

▶ 最後に撮影した画像が表示されます。









2 画像を選ぶ

- 画面を左方向にドラッグすると次の画像が表示され、右方向にドラッグすると前の画像が表示されます。
- 画面右端（左の画面の①の枠内）をタッチすると、［▶］が表示され、次の画像が表示されます。画面左端（左の画面の②の枠内）をタッチすると、［◀］が表示され、前の画像が表示されます。
- 連続して素早くドラッグすると左の画面が表示されます（スクロール再生）。
この状態で、左右方向にドラッグして画像を選びます。
- 中央の画像をタッチすると1枚表示に戻ります。
- スクロール再生中に画面を上下方向に素早くドラッグすると、日付ごとにジャンプして画像を探せます。
- 動画では、［▶］が表示されます。動画を再生するときは手順3に進みます。



3 動画を再生する

- ［▶］をタッチすると再生がはじまります。

4 音量を調整する

- 上下方向に素早くドラッグして調節します。

5 一時停止する

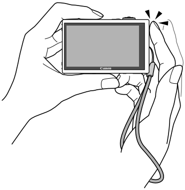
- 再生中に画面をタッチすると停止し、動画操作パネルが表示されます。［▶］をタッチすると再開されます。
- ▶ 再生が終わると［▶］が表示されます。

- 再生モードの状態でシャッターボタンを半押しすると撮影モードになります。
- スクロール再生を使わないようにするには、［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして［▶］タブの［スクロール再生］を選び、◀か▶をタッチして［切］を選びます。
- 前回最後に見た画像から表示したいときは、［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［再生開始位置］を選び、［前回の画像］を選びます。
- 画像を切り換えたときの効果を変えるには、［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［再生効果］を選び、［◀］か［▶］をタッチして効果を選びます。

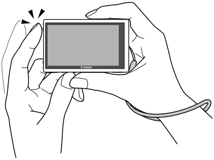
静止画　動画

アクティブ再生

画像を表示しているとき、下の図のようにカメラを指で軽くたたくと、画像を切り換えることができます。

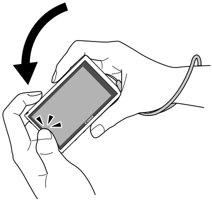


次の画像に切り換える



前の画像に切り換える

- 必ずストラップに手首を通した状態で、カメラを落とさないようしっかり持ってください。
- たたき方によっては画像が切り換わらないことがあります。



カメラを傾けて画像を切り換える

- 画面左端の［◀］をタッチしたまま画像を切り換えているとき（p.124）、カメラを図のように傾けると、画像が速く切り換わります。［▶］をタッチしているときは、逆に傾けます。ただし、表示画像は粗くなります。

- アクティブ再生を使わないときは、［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［アクティブ再生］を選び、項目の［切］を選びます（p.46）。

静止画　動画

個人認証機能で検出された人を確認する

簡易情報表示（p.127）にすると、個人認証機能（p.63）に登録している人として検出された最大5人までの名前が表示されます。



簡易情報表示にして確認する

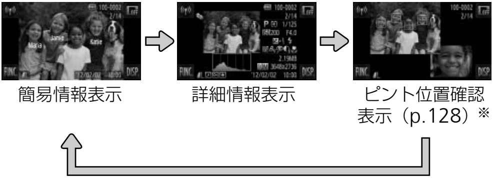
- ［DISP.］を何回かタッチして簡易情報表示にしたあと、画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。
- ▶ 検出された人に名前が表示されます。

- 個人認証機能で撮影した画像に名前を表示させたくないときは、［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして［▶］タブの［認証情報］から［名前表示］を選び、［切］を選びます。

静止画　動画

表示を切り換える

画面表示は、[DISP.] をタッチして切り換えます。画面に表示される情報の詳細については、p.200を参照してください。



簡易情報表示　詳細情報表示　ピント位置確認表示（p.128）※

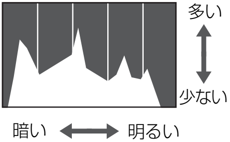
※ 動画では表示されません。

- 再生時に［ ］をタッチすると、すべての情報やボタンを非表示にできます。この状態で画像を切り換えることもできます（p.124、125）。画面をタッチすると、もとの表示に戻ります。
- 撮影直後の画面表示も、[DISP.] をタッチして切り換えられます。ただし、簡易情報表示は表示されず、情報は非表示になります。最初に表示される画面は、[ ] タブの［レビュー情報］で変えられます（p.78）。

高輝度（ハイライト）警告

「詳細情報表示」にすると、画像上の白トビした部分が点滅表示されます。

ヒストグラム

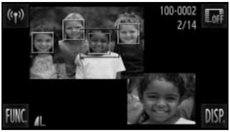


- 「詳細情報表示」のグラフは、画像中の明るさの分布を示したヒストグラムというグラフです。横軸は明るさ、縦軸は明るさごとの量を示していて、露出の傾向を確認できます。

静止画

ピント位置を確認する（フォーカスチェッカー）

撮影時にピント合わせをしたAFフレームの位置を、拡大表示することができます。



1 ピント位置確認表示にする

- ［DISP.］をタッチします（p.127）。
- ▶ ピント合わせを行ったAFフレームの位置に、白のフレームが表示されます。
- ▶ 再生時に検出された顔の位置には、灰色のフレームが表示されます。
- ▶ オレンジ色のフレームの箇所が拡大表示されます。



2 拡大表示する箇所を変える

- 右下の画像をタッチするか、ズームレバーを側に一度押します。
- ▶ 左の画面が表示されます。
- 複数のフレームが表示されているときは、［ ］をタッチすると別のフレームに移動します。

3 拡大率や表示位置を変える

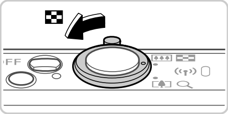
- ズームレバーを操作したり、右下の拡大表示された画像や［ ］［ ］をタッチすると、表示倍率が変わります。
- 右下の画像をドラッグすると、表示位置が変わります。
- ［ ］か左上の画像をタッチすると、手順1に戻ります。

画像を探したり、特定の画像だけを見る

静止画　動画

一覧表示（インデックス表示）で画像を探す

複数の画像を一覧で表示して、目的の画像を素早く探せます。



1 一覧表示にする

- ズームレバーを ▦ 側に押すと一覧表示になり、さらに押すと表示される画像の数が増えます。
- ズームレバーをQ側に押すごとに、表示される画像の数が減ります。



2 画像を選ぶ

- 画面を上下方向にドラッグすると、指の動きに合わせて表示が切り換わります。
- 画像をタッチして選び、もう一度タッチすると、タッチした画像が1枚表示になります。
- 画面を左右方向にドラッグしてオレンジ色の枠を移動させ、ズームレバーをQ側へ押したままにすることでも、1枚表示にできます。

静止画　動画

条件で検索した画像を表示する

カード内に多くの画像があるときは、条件を指定して表示する画像を検索することができます。この状態で画像をまとめて保護したり（p.136）、消したり（p.138）することができます。

😊	名前	登録した人の画像（p.63）を表示
★	お気に入り	お気に入り設定した画像（p.141）を表示
⌚	日付	指定した撮影日の画像を表示
📖	マイカテゴリー	指定したカテゴリーの画像（p.142）を表示
📷	静止画／動画	静止画、動画、［ ］モードで作成された動画のいずれかを表示



1 検索条件を選ぶ

- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [ ] を選び、目的の条件を選びます（p.45）。



2 検索した画像を見る

- 表示する対象をタッチして選び、もう一度タッチします（[★] のときを除く）。
- ▶ 検索した画像が再生され、黄色の枠が表示されます。
- 画面を左右方向にドラッグすると選んだ対象の画像のみが表示されます。
- 手順1で [ ] を選ぶと検索した画像の再生が解除されます。

- 目的の条件と一致する画像がないときは、検索条件は選べないことがあります。

- 検索した画像を再生の状態（手順 2）で、「一覧表示（インデックス表示）で画像を探す」（p.129）、「スライドショーで見る」（p.134）、「拡大して見る」（p.133）などで、検索した画像を見ることができます。また、「保護する」（p.136）、「まとめて消す」（p.138）、「印刷指定（DPOF）」（p.182）、「フォトブック指定」（p.185）で「検索したすべての画像」を指定すると、検索した画像をまとめて操作することができます。
- カテゴリーを変えたり（p.142）、画像を編集して新規保存（p.145）などを行うとメッセージが表示され、検索した画像の再生が解除されます。

動画

ムービーダイジェストモードで作成された動画を見る

[ ] モード（p.90）で作成された動画を、日付で選んで見ることができます。



1 再生する動画を選ぶ

- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [ ] を選びます（p.45）。

2 再生する

- 目的の日付をタッチすると、動画が再生されます。

静止画

グループ化された画像を1枚ずつ見る

［］モード（p.95）で撮影された画像はグループ化されて表示されますが、グループ内の画像を1枚ずつ見ることもできます。



1 グループ化された画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして［］が表示された画像を選び、［］をタッチします。



2 グループ内の画像を1枚ずつ見る

- 画面を左右方向にドラッグするとグループ内の画像のみが表示されます。
- ［］をタッチするとグループ再生が解除されます。

- グループ再生の状態（手順2）で［FUNC.］をタッチすると表示されるメニューの機能を使ったり、「一覧表示（インデックス表示）で画像を探す」（p.129）、「拡大して見る」（p.133）こともできます。また、「保護する」（p.136）、「まとめて消す」（p.138）、「印刷指定（DPOF）」（p.182）、「フォトブック指定」（p.185）で「グループ内の全画像」を指定すると、グループ内のすべての画像をまとめて操作することができます。
- グループ化を解除して、一枚ずつの画像として表示したいときは、［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［］タブの［グループ表示］を選び、［切］を選びます（p.46）。ただし、グループ化された画像を1枚ずつ見ているときは、グループ化を解除できません。

個人認証情報を編集する

再生時に画面に表示された名前が誤っているときは、正しい名前に入れ換えたり、消したりすることもできます。
ただし、検出されず名前が表示されなかった人や名前を消した人に、あとから名前を付けることはできません。

名前を入れ換える



1 設定画面を表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［認証情報］を選び、タッチします（p.46）。
- ［認証情報の編集］をタッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［ＯＫ］をタッチします。
- 名前を入れ換えたい顔をタッチして選ぶことができます。





3 編集内容を選ぶ

- ［入れ換え］をタッチします。

4 入れ換える人の名前を選ぶ

- 入れ換える人の名前をタッチします。

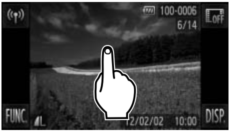
名前を消す

- 上記の手順３で表示された画面で［消去］をタッチします。
- ［消去しますか？］が表示が表示されたら、［OK］をタッチします。

いろいろな方法で画像を見る

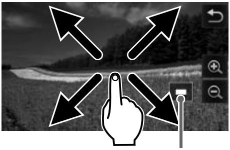
静止画

拡大して見る



1 拡大する

- 画面をタッチすると拡大表示になり、[🔍+]と[🔍−]が表示されます。
- 繰り返しタッチすると、タッチした位置を中心に最大約10倍まで拡大できます。
- [🔍+]や[🔍−]をタッチすることでも、拡大、縮小ができます。[🔍+]や[🔍−]をタッチしたままにすると、連続して拡大、縮小ができます。
- ズームレバーを ▦ 側に押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。


表示位置の目安

2 表示位置を移動したり、画像を切り換える

- 画面をドラッグすると、表示位置が移動します。
- [↩]をタッチすると1枚表示に戻ります。
- カメラを指で軽くたたく（p.125）と、拡大したまま画像を切り換えることができます（アクティブ再生）。

- ズームレバーを🔍側に押すことでも拡大表示でき、押し続けると最大10倍まで拡大できます。また、▦側に押すと縮小表示になり、押し続けると1枚表示に戻ります。

静止画　動画

スライドショーで見る

カードに記録されている画像を自動的に再生します。画像1枚あたりの表示時間は約3秒です。



効果を選んでスライドショーをはじめる

- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [◈] を選び、設定したい項目を選びます（p.45）。
- [画像読み込み中] が数秒間表示されたあと、スライドショーがはじまります。
- 画面をタッチすると終わります。

- スライドショー中に節電機能（p.42）は働きません。

- スライドショー中にカメラを指で軽くたたく（p.125）と、画像を切り換えることができます（アクティブ再生）。
- タッチアクションでスライドショーをはじめることもできます（p.143）。
- 検索（p.129）しているときは、対象の画像のみが再生されます。

設定を変える

スライドショーの繰り返しや再生画像1枚あたりの表示時間、切り換わるときの効果を変えられます。画像を切り換えたときの効果（再生効果）は6種類から選べます。

1 設定画面を表示する

- [FUNC.] をタッチしたあと [MENU] をタッチして、[▶] タブの [スライドショー] を選びます（p.46）。



2 設定する

- 設定するメニュー項目を選び、目的の項目を選びます（p.46）。
- ［スタート］をタッチすると、設定した内容でスライドショーがはじまります。
- 再生中に画面をタッチすると、メニュー画面に戻ります。

- ［効果］で［バブル］を選んだときは、［再生間隔］は変えられません。

静止画

いろいろな画像を表示する（連想再生）

表示している画像をもとに、4つの画像をカメラが選んで表示します。その中から1つ選ぶとさらに4つの画像が表示されるので、思いがけない順番の再生が楽しめます。いろいろなシーンの画像をたくさん撮ったあとなどにおすすめです。



1 連想再生にする

- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［ ］を選びます（p.45）。
- ▶ 4枚の画像が候補として表示されます。



2 画像を選ぶ

- 次に見たい画像をタッチして選びます。
- 選んだ画像が画面中央に表示され、次の4枚の候補が表示されます。
- 画面中央の画像をタッチすると、中央の画像が画面いっぱいに表示されます。もう一度タッチするともとの表示に戻ります。
- ［ ］をタッチすると1枚表示に戻ります。

- このカメラで撮影した静止画だけが連想再生の対象になります。
- 次のときは連想再生を使えません。
  - このカメラで撮影した静止画が50枚に満たないとき
  - 対象の画像以外を表示しているとき
  - 画像を検索しているとき（p.129）

静止画 動画

保護する

大切な画像をカメラの消去機能（p.138）で誤って消さないよう、保護することができます。

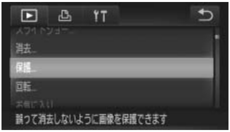


- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [O┳] を選ぶ（p.45）と、[保護しました] が表示されます。
- 解除するときは、上記の操作でもう一度 [O┳] を選び、タッチします。

- カードを初期化（p.157、158）すると、保護された画像も消えます。

- 保護された画像は、カメラの消去機能では消えません。画像を消すときは、保護を解除してください。

メニューから操作する



1 設定画面を表示する

- [FUNC.] をタッチしたあと [MENU] をタッチして、[▶] タブの [保護] を選びます（p.46）。



2 指定方法を選ぶ

- 目的のメニュー項目を選び、目的の項目を選びます（p.46）。
- [↶] をタッチするとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- p.136の手順2の操作で［画像指定］をタッチします。



2 画像を選び指定する

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、画面をタッチすると［✓］が表示されます。
- もう一度画面をタッチすると解除され、［✓］が消えます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。
- ［OK］をタッチすると確認画面が表示されます。



3 保護する

- ［OK］をタッチします。

- 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、保護されません。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.136の手順2の操作で［すべての画像を指定］をタッチします。



2 保護する

- ［保護］をタッチします。

- 手順2で［解除］を選ぶと、選んだ画像の保護をまとめて解除することができます。

消す

不要な画像を1枚ずつ選んで消せます。消した画像はもとに戻すことはできません。十分に確認してから消してください。

1 消したい画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。



2 消す

- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［🗑］を選びます（p.45）。
- ［消去しますか?］が表示されたら、［消去］をタッチします。
- ▶ 表示していた画像が消えます。
- 中止するときは、［キャンセル］をタッチします。

- タッチアクションで消すこともできます（p.143）。

まとめて消す

画像を選んでまとめて消すことができます。消した画像は復元できないので、十分に確認してから消してください。保護された画像（p.136）は消えません。

指定方法を選ぶ



1 設定画面を表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［消去］を選びます（p.46）。



2 指定方法を選ぶ

- 目的のメニュー項目を選び、目的の項目を選びます（p.46）。
- ［↩］をタッチするとメニュー画面に戻ります。

1枚ずつ指定する

1 ［画像指定］を選ぶ

- p.138の手順2の操作で［画像指定］をタッチします。



2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、画面をタッチしすると［✓］が表示されます。
- もう一度画面をタッチすると解除され、［✓］が消えます。
- 複数指定するときは、上記の操作を繰り返します。
- ［OK］をタッチすると確認画面が表示されます。



3 消す

- ［OK］をタッチします。

すべての画像を指定する

1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.138の手順2の操作で［すべての画像を指定］をタッチします。



2 消す

- ［OK］をタッチします。

回転する

画像の向きを変えて保存することができます。



1 [◎] を選ぶ

- [FUNC.] をタッチして、メニュー項目の [◎] を選びます（p.45）。



2 回転する

- [↶] か [↷] をタッチすると指定した方向に90度単位で回転し、[⮌] をタッチすると設定されます。

- 画質が [1920] [1280] の動画は回転できません。
- [縦横自動回転] が [切] のときは回転できません（p.140）。

- 手順 2 の画面は [FUNC.] をタッチしたあと [MENU] をタッチして、[▶] タブの [回転] を選ぶことでも表示できます（p.46）。

自動回転機能を切る

縦位置で撮影した画像をカメラで見るときは、自動回転して縦位置で表示されます。この機能を使わないようにできます。



- [FUNC.] をタッチしたあと [MENU] をタッチして、[▶] タブの [縦横自動回転] を選び、項目の [切] を選びます（p.46）。

- [切] にすると、画像の回転（p.140）はできません。また、すでに回転させていた画像も、もとの向きで表示されます。
- 連想再生（p.135）では、[切] に設定しても、縦位置で撮影された画像は縦位置で、撮影後に回転させた画像は回転した状態で表示されます。

静止画　動画

分類する

お気に入りやマイカテゴリー（p.142）を設定して、撮影した画像を分類できます。設定した画像だけを検索して、次の操作をすることができます。

- 見る（p.124）、スライドショーで見る（p.134）、保護する（p.136）、消す（p.138）、印刷指定（DPOF）（p.182）、フォトブック指定（p.185）

お気に入り設定をする



- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［★］を選びます。
- ▶［★］が表示されます。
- 解除するときは、上記の操作でもう一度［★］を選びます。

メニューから操作する



1 ［お気に入り］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［お気に入り］を選びます（p.46）。



2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、画面をタッチすると［✓］が表示されます。
- もう一度画面をタッチすると［✓］が消え、解除されます。
- 別の画像も選ぶときは、上記の操作を繰り返します。
- ［OK］をタッチすると確認画面が表示されます。



3 設定する

- ［OK］をタッチします。

- 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、お気に入りが設定されません。

- Windows 7またはWindows Vistaをお使いのときは、お気に入り設定した画像をパソコンに取り込むと、評価が3（★★★☆☆）に設定されます（動画を除く）。
- タッチアクションでお気に入りを設定することもできます（p.143）。

画像を分類する（マイカテゴリー）

画像を種類別に分類できます。なお、撮影時には、シーンに応じて自動で分類されます。

[ ]：顔が検出された画像、または［ ］［ ］モードで撮影した画像
[ ]：AUTOモード時に［ ］［ ］［ ］と判別された画像、または［ ］モードで撮影した画像
[ ]：IXY 1
［ ］［ ］モードで撮影した画像
IXY 420F
［ ］モードで撮影した画像



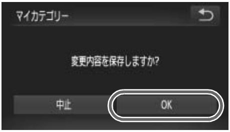
1 カテゴリーを選ぶ

- ［FUNC.］をタッチして、メニュー項目の［ ］を選びます。



2 画像を選び指定する

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、分類したい項目をタッチすると、項目がオレンジ色で表示されます。
- もう一度タッチすると解除され、項目が白色になります。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。



3 設定する

- [⮌] をタッチすると確認画面が表示されます。
- [OK] をタッチします。

- 手順3の操作をする前に、撮影モードに切り換えたり電源を切ったときは、マイカテゴリーが設定されません。

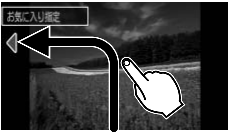
- 手順2の画面は、[FUNC.]、[MENU] の順にタッチして [▶] タブの [マイカテゴリー] をタッチすることでも表示できます。

静止画　動画

タッチアクションでかんたんに操作する

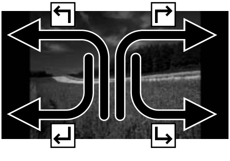
1枚表示のとき、特定の4方向に画面をドラッグすると、それぞれの方向に登録してある機能を素早く、かんたんに呼び出すことができます。

↰ に登録されている機能を使う



- 画面を図のようにドラッグします。

▶ ↰ に登録されている機能が呼び出されます。



- ↱ ↲ ↳ に登録されている機能も同じように画面をドラッグして呼び出すことができます。
- タッチアクションに登録されている機能は変えられます。

タッチアクションの機能を変える

それぞれの方向のドラッグ操作に登録されている機能を、自分好みに変えて使いやすくすることができます。

1 設定画面を表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［タッチアクション設定］を選びます（p.46）。



2 タッチ操作に機能を登録する

- 画面を上下方向にドラッグして、タッチ操作の方向を選びます。
- ［◀］か［▶］をタッチして、タッチ操作に登録する機能を選びます。

登録できる機能

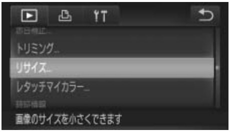
お気に入り	画像をお気に入りに設定したり、解除したりします。
次のお気に入り画像	次のお気に入り設定された画像を表示します。
前のお気に入り画像	前のお気に入り設定された画像を表示します。
次の日の画像	次の日に撮影した最初の画像を表示します。
前の日の画像	前の日に撮影した最初の画像を表示します。
連想再生	連想再生を開始します。
カメラに接続	無線LAN接続の画面を表示します。 無線LAN機能については、「無線LAN編」を参照してください。
スマートフォンに接続	
パソコンに接続	
Webサービスに接続	
スライドショー	スライドショーを開始します。
消去	画像を消去します。
保護	画像を保護したり、解除したりします。
回転	画像を回転します。

静止画を編集する

- 静止画の編集機能（p.145～149）は、カードに空き容量がないと使えません。

画像を小さくする（リサイズ）

撮影した画像を小さな記録画素数にして、別画像として保存できます。



1 ［リサイズ］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［リサイズ］を選びます（p.46）。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。



3 大きさを選ぶ

- ［M2］［S］［XS］のいずれかをタッチしたあと、［OK］をタッチします。
- ▶［新規保存しますか？］が表示されます。



4 新規保存する

- ［OK］をタッチします。
- ▶ 別画像として保存されます。



5 画像を確認する

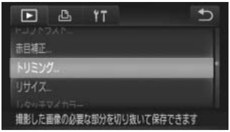
- ［↩］をタッチすると［保存した画像を表示します］が表示されます。
- ［はい］をタッチします。
- ▶ 保存した画像が表示されます。

- 手順3で［XS］にした画像は、編集できません。

- 撮影した画像の記録画素数よりも大きくはできません。

画像を切り抜く（トリミング）

撮影した画像の必要な部分を切り抜き、別画像として保存できます。



1 ［トリミング］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［トリミング］を選びます（p.46）。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。

切り抜き範囲



切り抜き範囲の表示

切り抜き後の記録画素数



3 切り抜く範囲を調整する

- ▶ 画像を切り抜く範囲が枠で表示されます。
- ▶ 左上にもと画像、右下に切り抜き後の画像が表示されます。
- 右下の画像や［+］［−］をタッチするか、ズームレバーを左右に動かすと、枠の大きさが変えられます。
- 左上の画像や右下の画像をドラッグすると枠の位置を移動できます。
- ［⤾］をタッチすると、枠の縦横が変えられます。
- 顔が検出された画像では、左上の画面の顔の位置に灰色の枠が表示されます。［☺］をタッチすると別の枠に切り換わり、枠を中心にトリミングできます。
- ［新規保存］をタッチします。

4 新規保存して画像を確認する

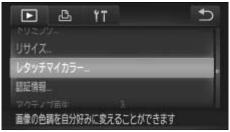
- p.145の手順4～5の操作を行います。

- 記録画素数が［ S ］の画像（p.71）や、リサイズした［ XS ］の画像（p.145）は、編集できません。

- トリミングできる画像の縦横比率は編集前と同じです。
- トリミングした画像の記録画素数は、トリミング前の画像より小さくなります。

画像の色調を変える（レタッチマイカラー）

画像の色調を変え、別画像として保存できます。各項目の内容はp.105を参照してください。



1 ［レタッチマイカラー］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［レタッチマイカラー］を選びます（p.46）。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。



3 項目を選ぶ

- 項目をタッチしたあと、［OK］をタッチします。
- ［◀］か［▶］をタッチすると、表示されていない項目が表示されます。

4 新規保存して画像を確認する

- p.145の手順4～5の操作を行います。

- 同じ画像に対して色調を繰り返し変えると、画質が徐々に低下したり、思いどおりの色にならないことがあります。

- 撮影時のマイカラー（p.105）と色調が若干異なることがあります。

明るさを補正する（i-コントラスト）

人の顔や背景など、一部が暗く撮影された画像は、その部分を検出し、最適な明るさに自動補正します。また、画像全体で明暗差が小さい画像は、くっきりした印象となるように自動補正します。補正方法は4種類から選べ、別画像として保存できます。



1 ［i-コントラスト］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［i-コントラスト］を選びます（p.46）。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。



3 項目を選ぶ

- ［◀］か［▶］をタッチして項目を選び、［OK］をタッチします。

4 新規保存して画像を確認する

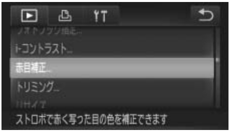
- p.145の手順4～5の操作を行います。

- 画像によっては、画像が粗くなったり、正しく補正されないことがあります。
- 同じ画像に対して補正を繰り返すと、画像が粗くなることがあります。

- ［自動］で思いどおりに補正されないときは、［弱］［中］［強］のいずれかを選んで補正します。

赤目を補正する

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正して、別画像として保存できます。



1 ［赤目補正］を選ぶ

- ［FUNC.］をタッチしたあと［MENU］をタッチして、［▶］タブの［赤目補正］を選びます（p.46）。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、［OK］をタッチします。

3 補正する

- ［OK］をタッチします。
- ▶ 検出された赤目部分が補正され、補正した部分に枠が表示されます。
- 「拡大して見る」（p.133）の操作で画像を拡大／縮小できます。



4 新規保存して画像を確認する

- ［新規保存］をタッチします。
- ▶ 別画像として保存されます。
- p.145の手順5の操作を行います。

- 画像によっては、正しく補正されないことがあります。
- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、補正内容で上書きされるため、補正前の画像は残りません。
- 保護されている画像は上書き保存できません。

動画を編集する

撮影した動画の前後を削除できます。



1 編集範囲を指定する

- 動画再生中に画面をタッチして動画操作パネルを表示します。
- ［◀‖］、［‖▶］、スクロールバーをタッチして基準になるフレームを表示します。
- ▶ 編集できるところで［✂］が［✄］に変わります。

2 ［✄］または［✂］をタッチする

- ▶［表示シーンを基準に削除します］が表示されます。
- ［✂］が表示されているときにタッチしても、［前部を削除］では1つ左側の［✄］位置よりも前部、［後部を削除］では1つ右側の［✄］位置よりも後部が削除されます。



3 削除する範囲を選ぶ

- ［前部を削除］または［後部を削除］をタッチします。
- ［前部を削除］では、表示しているシーンより前の部分が削除されます。
- ［後部を削除］では、表示しているシーンより後ろの部分が削除されます。



4 編集した動画を保存する

- ［新規保存］をタッチします。
- ▶ 別動画として保存されます。
- キャンセルするときは［中止］をタッチします。
- 編集範囲を指定しなおすときは［⮌］をタッチします。

- 手順4で［上書き保存］を選んだときは、編集内容が上書きされるため、編集前の動画は残りません。
- カードの空き容量が足りないときは、[上書き保存] しか選べません。
- 動画の保存中にバッテリーがなくなると、保存できないことがあります。
- 編集するときは、フル充電されたバッテリーか AC アダプターキット（別売）（p.167）を使うことをおすすめします。

6

設定メニュー

カメラの基本機能を変えて使いやすくする

カメラの基本機能を変える

メニューの［YT］タブで設定します。ふだん使う上での便利な機能を自分好みに設定することができます（p.46）。

音を鳴らさない

カメラの各種動作音や動画再生時の音声を鳴らさないようにできます。



- ［消音］を選び、［する］を選びます。

- 音を鳴らさないようにしたときは、動画を再生したとき（p.124）の音声も鳴らなくなります。動画再生中に画面を上方向にドラッグすると音声が鳴り、上下方向にドラッグすると音量を調整できます。

音量を変える

カメラの各種動作音の音量を変えられます。



- ［音量］を選び、タッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして項目を選び、バーの上で設定したい位置をタッチして音量を変えます。

音を変える

カメラの各種動作音を変えられます。



- ［音の選択］を選び、タッチします。
- 画面を上下方向にドラッグして項目を選び、［◀］か［▶］をタッチして内容を選びます。

1	オリジナルの音が登録されています。 音は変えられません。
2	オリジナルの音が登録されています。 付属のソフトウェアを使って変えられます。

- ［シャッター音］を変えても、［H］モード（p.95）のシャッター音には反映されません。

機能の説明を表示しない

機能の説明を表示しないようにすることができます。ただし、メニュー（p.46）の説明は常に表示されます。



- ［機能ガイド］を選び、［切］を選びます。

画面の明るさを変える

画面の明るさを変えられます。



- ［液晶の明るさ］を選び、バーの上で設定したい位置をタッチして明るさを変えます。

起動画面を変える

電源を入れたときに表示される起動画面を変えられます。



- ［起動画面］を選び、タッチします。
- 内容をタッチします。

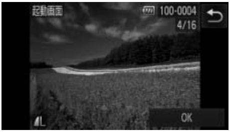
OFF	起動画面は表示されません。
1	オリジナルの画像が登録されています。 画像は変えられません。
2	オリジナルの画像が登録されています。 撮影した画像を登録したり、付属のソフトウェアを使って変えることができます。

撮影した画像を起動画面にする



1 再生モードで［起動画面］画面を表示する

- ▶ボタンを押します。
- ［起動画面］を選び、タッチします。
- ［2］をタッチしたあと、［ ］をタッチします。



2 画像を選んで登録する

- 画像を選んで［OK］をタッチすると、［登録しますか?］が表示されるので、［OK］をタッチします。

- 起動画面を登録すると、以前の登録内容は消えます。

- 付属のソフトウェアに用意されている専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することができます。また、CANON iMAGE GATEWAYからダウンロードした専用の各種動作音や起動画面を、カメラに登録することもできます。詳しくは「ImageBrowser EX ガイド」（p.28）を参照してください。

画面の配色を変える



- ［配色設定］を選んだあと、内容を選びます。

カードを初期化する

新しく買ったカードや他のカメラやパソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。
初期化するとカード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから初期化をしてください。

IXY 420F

また、Eye-Fiカード（p.187）では、初期化する前にカード内のソフトウェアをパソコンにインストールしてください。

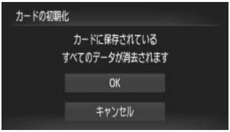


1 ［カードの初期化］画面を表示する

- ［カードの初期化］を選び、タッチします。

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］をタッチします。



3 初期化する

- ［OK］をタッチすると初期化がはじまります。
- 初期化が終わると［カードの初期化が完了しました］が表示されるので、［OK］をタッチします。

- カード内のデータは、初期化や消去をしてもファイル管理情報が変わるだけで、完全には消えません。カードを譲渡や廃棄するときは注意してください。廃棄するときはカードを破壊するなどして、個人情報の流出を防いでください。

- 初期化の画面で表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。

カードを物理フォーマット（初期化）する

［カードが異常です］のメッセージが表示されたとき、カメラが正しく動作しない、カードへの画像記録／再生時の読み出しや連続撮影速度が遅くなった、動画撮影が途中で止まるなどのときに行います。物理フォーマットをすると、カード内のすべてのデータは消され、もとに戻すことはできません。カード内の画像をパソコンにコピーするなどしてから物理フォーマットをしてください。



物理フォーマットする

- ［物理フォーマット］の左側の枠をタッチして、［✓］を表示します。
- p.157の手順2～3の操作で、初期化（物理フォーマット）します。

- 物理フォーマットはカード内の全記憶領域を初期化するため、「カードを初期化する」（p.157）よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に［中止］をタッチすると、初期化を中止できます。中止してもデータはすべて消去されますが、カードは問題なく使えます。

画像番号のつけかたを変える

撮影した画像には、撮影した順に0001～9999の番号がつけられ、1つのフォルダに2000枚ずつ保存されます。この画像番号のつけかたを変えることができます。



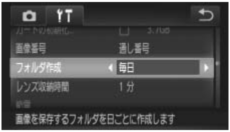
- ［画像番号］を選び、内容を選びます。

通し番号	画像番号9999の画像が撮影／保存されるまでは、カードを変えて撮影しても連番になります。
オートリセット	カードを変えたり、フォルダが新しく作られたときは、画像番号が0001に戻ります。

- ［通し番号］［オートリセット］とも、変えるカードに画像が入っているときは、その画像番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化（p.157）したカードをお使いください。
- フォルダ構造や保存される画像については、「ImageBrowser EX ガイド」（p.28）を参照してください。

フォルダを撮影日ごとに作る

撮影した画像を保存するフォルダは月ごとに作成されますが、撮影日ごとに作成することもできます。



- ［フォルダ作成］を選び、［毎日］を選びます。
- ▶ 撮影日ごとに新しいフォルダが作られ、撮影した画像が保存されます。

レンズ収納時間を変える

撮影状態から▶ボタンを押して約1分経過すると、安全のためレンズが収納されます（p.42）。▶ボタンを押すとすぐにレンズが収納されるようにしたいときは、収納時間を［0秒］に設定します。



- ［レンズ収納時間］を選び、［0秒］を選びます。

節電機能（オートパワーオフ）の設定を変える

節電機能（オートパワーオフ）を切ったり、画面が消えるまでの時間（ディスプレイオフ）を変えたりできます（p.42）。



1 ［節電］画面を表示する

- ［節電］を選び、タッチします。

2 設定する

- 項目を選んだあと、［◀］か［▶］をタッチして設定を変えます。

- バッテリーの消耗を防ぐため、通常は、［オートパワーオフ］を［入］にし、［ディスプレイオフ］を［1分］以下にすることをおすすめします。

- ［ディスプレイオフ］は、［オートパワーオフ］が［切］のときも働きます。

世界時計を使う

海外へ旅行するときなど、あらかじめ訪問先（旅行先）のエリアを登録しておくと、エリアを切り換えるだけで、登録したエリアの日時で記録できます。日付／時刻を設定しなおす必要がなく便利です。





1 自宅のエリアを設定する

- [エリア設定] を選び、タッチします。
- はじめて設定するときは、左の画面が表示されていることを確認し、[エリア設定] をタッチします。
- [◀] か [▶] をタッチして自宅エリアを選びます。
  [☀OFF] をタッチすると、サマータイム（1時間プラスされます）を設定できます。
- [⮌] をタッチします。



2 訪問先のエリアを設定する

- [✈訪問先] をタッチしたあと、[エリア設定] をタッチします。
- [◀] か [▶] をタッチして訪問先エリアを選びます。
- 手順 1 と同じように、サマータイムも設定できます。
- [⮌] をタッチします。



3 訪問先のエリアに切り換える

- [✈訪問先] をタッチしたあと、[⮌] をタッチします。
- ▶ [エリア設定] や撮影画面（p.198）に [✈] が表示されます。

- [✈] の状態で日付／時刻を変える（p.21）と、[🏠自宅] の日時も自動的に変わります。

日付／時刻を変える

日付／時刻を、現在の設定から変えられます。



1 ［日付/時刻］画面を表示する

- ［日付/時刻］を選び、タッチします。

2 設定する

- 設定する項目をタッチしたあと、［▲］か［▼］をタッチして設定します。

タッチ位置を調整する

タッチ操作で思うように項目やボタンを選択できないときは、タッチ画面調整を行います。正確に調整するために、必ずストラップについている留め具を使って調整してください。



- ［タッチ画面調整］を選び、タッチします。



- 画面に表示される ✣ を、ストラップについている留め具でタッチします（p.14）。
- 画面の表示にしたがって、左上、左下、右下、右上の順で、4回タッチします。

- 付属の留め具以外のとがったもの（鉛筆やペンなど）で操作しないでください。

表示言語を変える

画面に表示される言語を変えられます。



1 言語画面を表示する

- ［言語］を選び、タッチします。

2 設定する

- 表示したい言語をタッチして選び、［↩］をタッチします。

- 再生モードにして［FUNC.］をタッチしたあと、［MENU］をタッチしたままにすることでも言語画面を表示できます。

その他の基本機能を変える

次の機能も［ΨT］タブで設定できます。

- ［ビデオ出力方式］（p.169）
- ［HDMI機器制御］（p.170）

IXY 420F

- ［Eye-Fi設定］（p.187）

カメラの設定を初期状態に戻す

カメラの設定を誤って変えてしまったときは、初期状態に戻せます。



1 ［カメラ設定初期化］画面を表示する

- ［カメラ設定初期化］を選び、タッチします。

2 初期状態に戻す

- ［OK］をタッチします。
- ▶ カメラが初期状態に戻ります。

- 次の機能は初期状態に戻りません。
  - ［ŶŤ］タブの［日付/時刻］（p.21）、［言語 ］（p.22）、［起動画面］に登録した画像（p.155）、［エリア設定］（p.160）、［タッチ画面調整］（p.161）、［ビデオ出力方式］（p.169）
  - 撮影モード（p.79）
  - 個人認証機能で登録した内容（p.63）
  - ワンポイントカラー（p.88）、スイッチカラー（p.89）で指定した色
  - マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ（p.104）
  - 無線LAN機能で登録した内容（p.w-1）

認証マークを確認する

このカメラが対応している認証マークの一部は、画面に表示して確認できます。また、その他の認証マークは、本ガイドやカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。



- ［認証マーク表示］を選び、タッチします。

7

アクセサリー

付属のアクセサリーを上手に使ったり、別売アクセサリーや市販の対応機器を使って楽しみかたを広げる

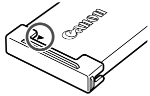
付属アクセサリーの上手な使いかた

バッテリーとバッテリーチャージャーの上手な使いかた

- **充電は使う前日か当日にする**
  充電したバッテリーは、使わなくても自然放電によって少しずつ残量が減っていきます。

  IXY 420F

  充電したバッテリーは▲が見えるように、充電前のバッテリーは▲が隠れるようにカバーを取り付けると、充電状態を見分けることができます。



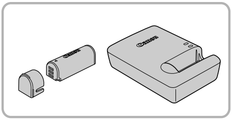
- **長期間保管する**
  バッテリーを使い切ってカメラから取り出し、カバーをつけて保管してください。バッテリーを使い切らずに長期間（1年くらい）保管すると、バッテリー寿命を縮めたり、性能が劣化することがあります。
- **バッテリーチャージャーを海外で使う**
  バッテリーチャージャーは、AC 100 – 240 V 50/60 Hzの地域で使えます。プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

別売アクセサリー

必要に応じてお買い求めの上、ご利用ください。なお、アクセサリーは、諸事情により予告なく販売を終了することがあります。また、地域によってはお取り扱いがないことがあります。

電源

IXY 1



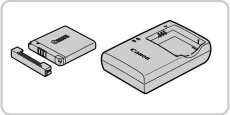
バッテリーパック NB-9L

- 充電式のリチウムイオン電池です。

バッテリーチャージャー CB-2LB

- バッテリーパック NB-9L用のバッテリーチャージャーです。

IXY 420F



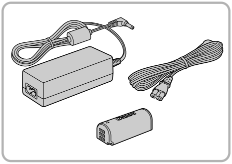
バッテリーパック NB-11L

- 充電式のリチウムイオン電池です。

バッテリーチャージャー CB-2LD

- バッテリーパック NB-11L用のバッテリーチャージャーです。

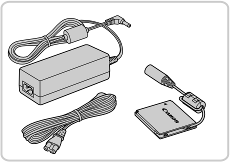
IXY 1



ACアダプターキット ACK-DC70

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

IXY 420F

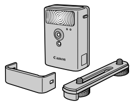


ACアダプターキット ACK-DC90

- 家庭用電源でカメラを使えます。カメラを長時間連続して使うときや、プリンターやパソコンとつなぐときには、このACアダプターキットをお使いになることをおすすめします（カメラ内のバッテリーは充電できません）。

- バッテリーチャージャーやACアダプターキットは、AC 100 – 240 V 50/60 Hzの地域で使えます。
- プラグの形状があわないときは、市販の電源プラグ変換アダプターを使ってください。なお、海外旅行用の電子式変圧器は故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

ストロボ



ハイパワーフラッシュ HF-DC2

- 被写体が遠すぎて内蔵ストロボの光が届かないときに使う外付けストロボです。

IXY 1

HF-DC1もお使いになれます。

その他

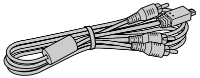
IXY 1

ソフトケース IXC-470／IXC-480

IXY 420F

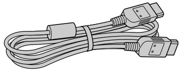
ソフトケース IXC-470

- カメラをキズやホコリから守ります。



ステレオAVケーブル AVC-DC400ST

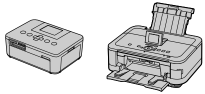
- 撮影した画像をテレビに表示して楽しめます。



HDMIケーブル HTC-100

- カメラとハイビジョンテレビのHDMI端子をつなぐケーブルです。

プリンター



SELPHY シリーズ　PIXUS シリーズ

キヤノン製PictBridge対応プリンター

- キヤノン製のPictBridge対応プリンターをつなぐと、パソコンを使わずに、撮影した画像を印刷できます。
  製品の詳細については、ホームページやカタログでご確認いただくか、お客様相談センターへお問いあわせください。

別売アクセサリーの使いかた

静止画 動画

テレビで見る

カメラとテレビをつなぐと、撮影した画像をテレビで見ることができます。なお、お使いになるテレビとのつなぎかたや入力の切り換えかたについては、テレビの使用説明書を参照してください。

- カメラで操作するときは、次の機能が使えます。
  - 画像の切り換え
    画面を左右方向にドラッグするか、カメラを指で軽くたたきます（p.25、125）。
  - 動画再生（p.124）
  - 拡大（p.133）
    ズームレバーをQ側に押します。
  - グループ再生（p.131）
  - タッチアクション（p.143）
    連想再生、消去は呼び出せません。

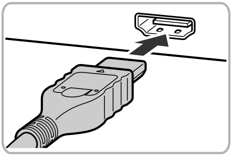
  なお、カメラの画面には何も表示されないため、テレビを見ながらカメラの画面を操作してください。

HD（ハイビジョン）対応テレビで見る

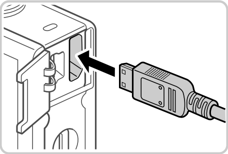
HDMIケーブル HTC-100（別売）でカメラとHD対応テレビをつないでカメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。また、[1920] や [1280] で撮影した動画はハイビジョン画質で見ることができます。

1 カメラとテレビの電源を切る

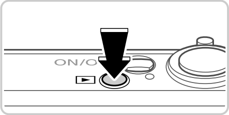
2 カメラとテレビをつなぐ



- ケーブルのプラグを、図のようにテレビのHDMI入力端子へしっかりと差し込みます。



- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子へしっかりと差し込みます。



3 テレビの電源を入れて、外部入力に切り換える

- テレビの入力を、手順 2 の操作でつないだ外部入力に切り換えます。

4 カメラの電源を入れる

- [▶]ボタンを押して電源を入れます。
- 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。
- 見終わったらカメラとテレビの電源を切ってから、ケーブルを抜きます。

- 付属のインターフェースケーブルやステレオAVケーブル（別売）と、HDMIケーブル HTC-100は、カメラへ一緒に差し込めません。無理に差し込むと故障の原因になることがあります。

- HD対応テレビにつないだときは、操作音は鳴りません。

テレビのリモコンで操作する

HDMI機器制御機能（HDMI CEC）対応のテレビとカメラをつなぐと、テレビのリモコンで画像の切り換えや、スライドショーなどの操作ができます。テレビによっては、テレビ側の設定が必要です。詳しくは、テレビの使用説明書を参照してください。



1 設定する

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［ǂǂ］タブの［HDMI機器制御］を選び、［入］を選びます。

2 テレビとカメラをつなぐ

- p.169の手順 1 ～ 2 の操作でテレビとカメラをつなぎます。

3 画像を表示する

- テレビの電源を入れ、カメラの▶ボタンを押します。
- ▶ 画像がテレビに表示されます（カメラの画面には何も表示されません）。

4 テレビのリモコンで操作する

- リモコンの◀か▶で画像を選びます。
- 決定ボタンを押すとテレビに操作パネルが表示されます。◀か▶で項目を選び、もう一度決定ボタンを押します。

テレビに表示される操作パネル一覧

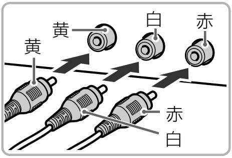
↩	戻る	メニューが消えます。
⧉	グループ再生	［⧉］モード（p.95）で撮影された画像を表示します（グループ化された画像を選んでいるときのみ表示）。
▶	動画再生	動画を再生します（動画を選んでいるときのみ表示）。
⟲	スライドショー	画像を自動的に再生します。再生中にリモコンの◀か▶を押すと画像を切り換えられます。
▦	インデックス表示	画像を一覧で表示します。

- ズームレバーを操作して表示を変えたときは、テレビのリモコンでの操作ができなくなります。カメラで1枚表示に戻してからリモコンで操作してください。
- HDMI機器制御機能（HDMI CEC）に対応したテレビであっても、正しく動作しないことがあります。

HD（ハイビジョン）非対応テレビで見る

ステレオAVケーブル AVC-DC400ST（別売）でカメラとテレビをつないで、カメラを操作すると、撮影した画像をテレビで見ることができます。

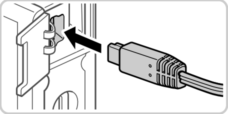
1 カメラとテレビの電源を切る



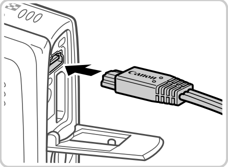
2 カメラとテレビをつなぐ

- ケーブルのプラグを、図のようにテレビの外部入力端子へしっかりと差し込みます。

IXY 1



IXY 420F



- ふたを開き、ケーブルのプラグをカメラの端子にしっかりと差し込みます。

3 画像を表示する

- p.170 の手順3～4の操作で画像を表示します。

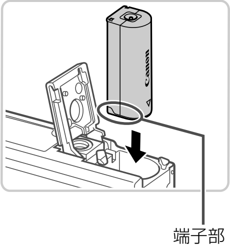
- 出力方式（NTSC/PAL）があわないと、画像が正しく表示されません。［**FUNC.**］、［**MENU**］の順にタッチして、［**ΥΥ**］タブの［ビデオ出力方式］で出力方式を変えてください（日本国内の出力方式は、「NTSC」です）。

IXY 1

家庭用電源でカメラを使う

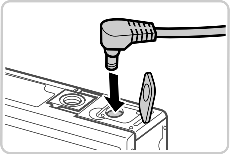
ACアダプターキット ACK-DC70（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カメラの電源を切る



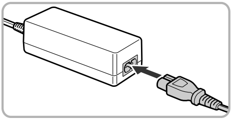
2 カプラーを入れる

- p.17の手順1の操作でふたを開きます。
- カプラーを図の向きにして、p.17の手順2のバッテリーを入れる方法と同じ操作でカプラーを入れます。
- p.17の手順3の操作でふたを閉めます。



3 プラグをカプラーにつなぐ

- カバーを開き、アダプターのプラグをカプラーの端子にしっかりと差し込みます。



4 電源コードを取り付ける

- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

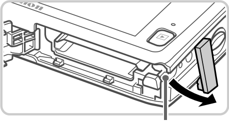
- カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。
- 故障の原因となるためアダプターやコードを固定して使わないでください。

IXY 420F

家庭用電源でカメラを使う

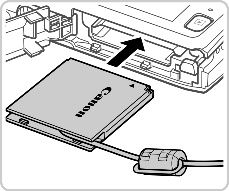
ACアダプターキット ACK-DC90（別売）を使うと、バッテリーの残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 カメラの電源を切る



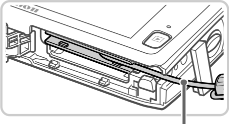
2 ふたを開ける

- p.19の手順2の操作でカード／バッテリー収納部のふたを開きます。
- 図のように通し部のふたを開けます。

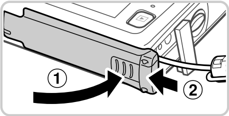


3 カプラーを入れる

- カプラーを図の向きに入れます。

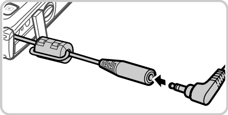


- カプラーのケーブルを通し部に通します。



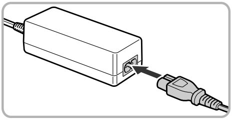
4 ふたを閉める

- ふたを①の方向へたおして押さえたまま、②の方向へ「カチッ」と音がするまで動かして閉めます。



5 電源コードを取り付ける

- カプラーのケーブルの端子にアダプターのプラグを差し込みます。



- 電源コードをアダプターに差し込み、プラグをコンセントに差し込みます。
- カメラの電源を入れると、カメラが使えます。
- 使い終わったら、カメラの電源を切ってからプラグをコンセントから抜いてください。

- カメラの電源を入れたまま、プラグや電源コードを抜かないでください。撮影した画像が消えたり、カメラが故障することがあります。
- 故障の原因となるためアダプターやコードを固定して使わないでください。

静止画　動画

印刷する

撮影した画像は、カメラとプリンターをつないで印刷することができます。また、カメラで画像を指定しておき、一括印刷、写真店への印刷注文、フォトブックの注文や印刷をすることができます。
なお、ここでは、キヤノン製コンパクトフォトプリンター SELPHY CPシリーズを使って説明しています。プリンターによっては表示される画面やできることが異なります。プリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

静止画

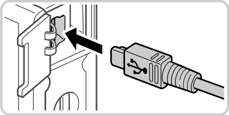
かんたん印刷

撮影した画像は、カメラとPictBridge（ピクトブリッジ）対応プリンター（別売）を付属のインターフェースケーブル（p.2）でつないで、かんたんに印刷できます。

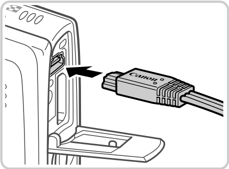
1 カメラとプリンターの電源を切る

2 カメラとプリンターをつなぐ

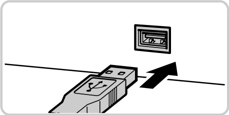
IXY 1



IXY 420F

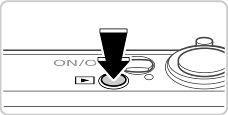


- ふたを開き、ケーブルの小さい方のプラグを図の向きにして、カメラの端子にしっかりと差し込みます。



- ケーブルの大きい方のプラグをプリンターに差し込みます。プリンターとのつなぎかたについては、プリンターの使用説明書を参照してください。

3 プリンターの電源を入れる



4 カメラの電源を入れる

- ▶ボタンを押して電源を入れます。

5 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。



6 印刷画面を表示する

- ［FUNC.］をタッチしたあと、［］を選び、タッチします。



7 印刷する

- ［印刷］をタッチします。
- ▶ 印刷がはじまります。
- 別の画像を印刷するときは、印刷が終わったあと、手順5～6の操作を繰り返します。
- 印刷が終わったらカメラとプリンターの電源を切り、ケーブルを抜きます。

- キヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）については、p.168 を参照してください。

静止画

印刷設定をする



1 印刷画面を表示する

- p.176～177の手順1～6の操作で左の画面を表示します。

2 設定する

- 項目を選びタッチしたあと、[◀] か [▶] をタッチして内容を選びます。

−	印刷枚数	印刷枚数を指定します。
	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	日付	日付を入れて印刷します。
	画像番号	画像番号を入れて印刷します。
	両方	日付と画像番号の両方を印刷します。
	切	−
	標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
	切	−
	入	撮影時の情報を使って最適な設定で印刷します。
	赤目1	赤く写った目を補正します。
トリミング	−	印刷する範囲を指定します（p.179）。
用紙設定	−	用紙サイズやレイアウトなどを指定します（p.179）。

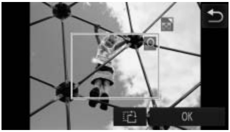
画像を切り抜いて印刷する（トリミング）

画像の一部分を切り抜いて印刷することができます。



1 ［トリミング］を選ぶ

- p.178の手順1の操作で印刷画面を表示したあと、［トリミング］をタッチします。
- ▶ 切り抜く範囲を示す枠が表示されます。



2 切り抜く範囲を指定する

- ズームレバーを動かして枠の大きさを変えます。
- 枠をドラッグして位置を変えます。
- ［ ］をタッチすると枠が回転します。
- ［OK］をタッチします。

3 印刷する

- p.177の手順7の操作で印刷します。

- 画像が小さすぎたり、縦横比によっては、トリミングできないことがあります。
- カメラで［日付写し込み］の指定をして撮影した画像をトリミングすると、日付が正しく印刷されないことがあります。

用紙サイズやレイアウトを選んで印刷する



1 ［用紙設定］を選ぶ

- p.178の手順1の操作で印刷画面を表示したあと、［用紙設定］をタッチします。



2 用紙サイズを選ぶ

- 内容をタッチして選び、［次へ］をタッチします。



3 用紙タイプを選ぶ

- 内容をタッチして選び、[次へ] をタッチします。



4 レイアウトを選ぶ

- 画面を上下方向にドラッグして内容を選びます。
- [複数画像] を選んだときは、[◀] か [▶] をタッチして印刷枚数を選びます。
- [OK] をタッチします。

5 印刷する

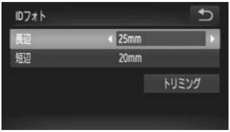
レイアウトで設定できる項目

標準設定	プリンターの設定にしたがいます。
フチあり	フチをつけて印刷します。
フチなし	フチなしで印刷します。
複数画像	1枚の用紙に印刷する画像の枚数を選びます。
IDフォト	証明写真用の画像を印刷します。 記録画素数がLで、縦横比が4:3の画像にのみ指定できます。
固定サイズ	印刷する大きさを指定します。 L判、はがき、ワイドサイズでのみ指定できます。

証明写真を印刷する

1 [IDフォト] を選ぶ

- p.179～180の手順1～4の操作で [IDフォト] を選び、[次へ] をタッチします。



2 長辺と短辺の長さを選ぶ

- 項目をタッチして選んだあと、[◀] か [▶] をタッチして長さを選び、[トリミング] をタッチします。



3 印刷する範囲を選ぶ

- 「画像を切り抜いて印刷する（トリミング）」（p.179）の手順2の操作で印刷する範囲を選びます。

4 印刷する

動画

動画を印刷する



1 印刷画面を表示する

- p.176～177の手順1～6の操作で動画を選び、左の画面を表示します。

2 印刷方法を選ぶ

- ［ ］をタッチしたあと、［◀］か［▶］をタッチして印刷方法を選びます。

3 印刷する

動画の印刷方法

1コマ	表示されているシーンを静止画として印刷します。
連続コマ	動画から一定の間隔で抜き出したシーンを、1枚の用紙に並べて印刷します。［キャプション］を［入］にすると、フォルダ番号、画像番号、コマの経過時間を同時に印刷できます。

- 印刷中に［中止］をタッチすると、印刷を中止します。
- CP720／CP730以前のキヤノンPictBridge対応プリンターでは、[IDフォト]や［連続コマ］は指定できません。

静止画

印刷指定（DPOF）

カード内の画像から印刷したい画像や印刷枚数などを指定して、一括印刷（p.184）や写真店への印刷注文をすることができます（最大998画像）。なお、この指定方法は、DPOF（Digital Print Order Format）規格に準拠しています。

FUNC.メニューで印刷指定する

撮影直後や画像の再生中に、FUNC.メニューで印刷指定（DPOF）ができます。

1 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。



2 印刷指定をする

- ［FUNC.］をタッチしたあと、メニュー項目の［ ］を選び、タッチします。
- ［▲］か［▼］をタッチして印刷枚数を指定し、［指定する］をタッチします。

印刷内容を指定する

印刷タイプや日付、画像番号といった印刷内容を設定できます。この設定は、印刷指定したすべての画像に共通して適用されます。



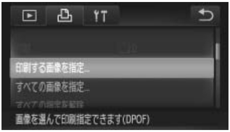
- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［ ］タブの［印刷の設定］を選んだあと、項目を選び、設定します（p.46）。

印刷タイプ	スタンダード	1枚の用紙に1枚の画像を印刷
	インデックス	1枚の用紙に縮小画像を複数印刷
	両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷
日付	入	撮影日を入れて印刷
	切	–
画像番号	入	画像番号を入れて印刷
	切	–
印刷後指定解除	入	印刷後、画像の印刷指定をすべて解除
	切	–

- プリンターまたは写真店によっては、設定した内容が反映されないことがあります。
- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、[❗] が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。
- [日付] を [入] に設定すると、お使いのプリンターによっては、日付が重複して印刷されることがあります。

- [インデックス] に設定したときは、[日付] と [画像番号] の両方を [入] にはできません。
- 日付の並びは、[ƳƬ] タブの [日付/時刻] の設定内容で印刷されます (p.20)。
- 一部のキヤノン製 PictBridge 対応プリンター（別売）では、インデックス印刷ができないことがあります。

1枚ずつ枚数を指定する



1 [印刷する画像を指定] を選ぶ

- [FUNC.]、[MENU] の順にタッチして、[🖨] タブの [印刷する画像を指定] を選び、タッチします。

2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選びます。
- ▶ 枚数指定ができるようになります。
- [インデックス] では、画面をタッチします。指定されると [✔] が表示され、もう一度枠内をタッチすると解除され、[✔] が消えます。



3 枚数を設定する

- [▲] か [▼] をタッチして枚数を指定します（最大99枚）。
- 手順2～3の操作を繰り返して、画像と枚数を指定します。
- [インデックス] では枚数の指定ができません。手順2の操作で画像のみを選んでください。
- [↩] をタッチすると設定され、メニュー画面に戻ります。

- ［インデックス］では、［OK］をタッチすると設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する



1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.183の手順1の操作で［すべての画像を指定］を選び、タッチします。

2 印刷指定する

- ［OK］をタッチします。

すべての指定を解除する



1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.183の手順1の操作で［すべての指定を解除］を選び、タッチします。

2 指定を解除する

- ［OK］をタッチします。

印刷指定（DPOF）した画像を印刷する



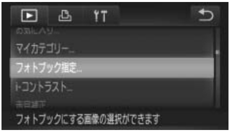
- 印刷指定した画像（p.182〜184）があるときは、カメラとPictBridge対応プリンターをつなぐと左の画面が表示されます。［すぐに印刷］をタッチすると、印刷指定した画像をかんたんに印刷できます。
- 印刷を中断して再開したときは、続きの画像から印刷されます。

静止画

フォトブック指定

カード内の画像からフォトブックに使いたい画像を指定（最大998 画像）し、付属のソフトウェアを使ってパソコンに取り込むと、指定した画像が専用のフォルダにコピーされて、インターネットでのフォトブック注文や、お使いのプリンターでの印刷をするときに便利です。

指定方法を選ぶ



- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［▶］タブの［フォトブック指定］を選んだあと、指定方法を選びます。

- 他のカメラで設定したカードをこのカメラに入れると、! が表示されることがあります。このカメラで設定を変えると、設定済みの内容がすべて書き換えられることがあります。

- パソコンに取り込んだあとは「ImageBrowser EX ガイド」（p.28）やお使いのプリンターの使用説明書もあわせて参照してください。

1枚ずつ指定する



1 ［画像指定］を選ぶ

- 上記の操作で［画像指定］を選び、タッチします。



2 画像を選ぶ

- 画面を左右方向にドラッグして画像を選び、画面をタッチします。
- ▶［✓］が表示されます。
- もう一度画面をタッチすると解除され、［✓］が消えます。
- 別の画像も指定するときは、上記の操作を繰り返します。
- ［OK］をタッチすると設定され、メニュー画面に戻ります。

すべての画像を指定する



1 ［すべての画像を指定］を選ぶ

- p.185の操作で［すべての画像を指定］を選び、タッチします。

2 印刷指定する

- ［OK］をタッチします。

すべての指定を解除する



1 ［すべての指定を解除］を選ぶ

- p.185の操作で［すべての指定を解除］を選び、タッチします。

2 指定を解除する

- ［OK］をタッチします。

Eye-Fiカードを使う

Eye-Fiカードを使うときは、その国や地域で使用が認められているか、必ず事前にご確認ください（p.3）。

セットアップしたEye-Fiカードをカメラに入れると、撮影した画像をワイヤレスでパソコンに自動転送したり、オンライン上のサービスにアップロードしたりできます。
画像の転送はEye-Fiカードの機能です。カードのセットアップ方法、使用方法、転送時の不具合などについては、カードの使用説明書を参照するかカードメーカーにお問いあわせください。

- Eye-Fiカードの使用中は、次のことに注意してください。
  - ［Eye-Fi通信］を［しない］に設定（p.188）しても、電波が発信されることがあります。病院や航空機内など電波の発信が禁止されている場所では、事前にEye-Fiカードを取り出しておいてください。
  - 画像が転送できないときは、カードやパソコンの設定を確認してください。詳しくはカードの使用説明書を参照してください。
  - Eye-Fi通信の接続状態によっては、画像の転送に時間がかかったり、転送が中断したりすることがあります。
  - Eye-Fiカードは、通信機能があるため、熱くなることがあります。
  - バッテリーの消耗が早くなります。
  - カメラの動作が遅くなります。［Eye-Fi通信］を［しない］に設定すると解決することがあります。
  - カメラを無線LAN接続すると、Eye-Fi通信はできなくなります。

Eye-Fiカードをカメラに入れると、撮影画面（情報表示時）や再生画面（簡易情報表示時）で通信状態を確認できます。

（灰色点灯）	未接続
（白点滅）	接続中
（白点灯）	転送待機
（アニメーション）	転送中
	中断
	Eye-Fiカード情報取得エラー（電源を入れなおしてください。繰り返し表示されるときは、カードの異常が考えられます。）

転送された画像には、［ ］が表示されます。

- 画像の転送中は、節電機能が働きません（p.42）。
- ［ ］モードを選んでいるときは、Eye-Fi通信が中断されます。他の撮影モードに変えるか、再生モードにすると再開されますが、［ ］モードで作成された動画は重複して転送されることがあります。

通信情報を確認する

接続先SSIDや通信状態を確認できます。



- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［ ］タブの［Eye-Fi設定］を選び、タッチします。
- ［通信情報一覧］を選び、タッチします。
- ▶ 通信情報一覧が表示されます。

Eye-Fi通信をしない

Eye-Fi通信をしない設定にできます。



［Eye-Fi通信］で［しない］を選ぶ

- ［FUNC.］、［MENU］の順にタッチして、［ ］タブの［Eye-Fi設定］を選び、タッチします。
- ［Eye-Fi通信］を選び、［しない］を選びます。

- Eye-Fiカードを入れていないときや、ライトプロテクトスイッチがあるEye-Fiカードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは、［Eye-Fi設定］が表示されません。そのため、ライトプロテクトスイッチがあるEye-Fiカードのスイッチを「LOCK」側にして入れているときは、設定を変えることができませんので注意してください。

8

付録

カメラを使うときに役立つ情報

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の例を参考に確認してください。ただし、問題が解決しないときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

電源

電源ボタンを押してもカメラが動作しない

- 指定されたバッテリーで、残量があることを確認してください（p.199）。
- バッテリーが正しい向きで入っているか確認してください（p.17、19）。

IXY 1

- カード収納部ふたとバッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（p.17、18）。

IXY 420F

- カード／バッテリー収納部ふたが閉じているか確認してください（p.19）

バッテリーの消耗が早い

- 低温下ではバッテリー性能が低下します。端子カバーをつけて、ポケットなどでバッテリーを温めてからお使いください。
- 上記を確認しても、充電したのにすぐ使えなくなるときはバッテリーの寿命です。新しいバッテリーをお買い求めください。

レンズが出たままで収納されない

IXY 1

- 電源を入れたまま、カード収納部ふたやバッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.17、18）。

IXY 420F

- 電源を入れたまま、カード／バッテリー収納部ふたを開けないでください。ふたを閉じたあと、電源を入れてからもう一度切ってください（p.19）。

バッテリーがふくらむ

- バッテリー特性のため安全上は問題ありません。ただし、バッテリーがふくらむことでカメラに入らなくなったときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

テレビ表示

テレビに表示できない／画面が乱れる（p.172）

撮影

撮影できない

- 再生モードのとき（p.22）は、シャッターボタンを半押ししてください（p.43）。

暗い場所での画面表示がおかしい（p.44）

撮影中の画面表示がおかしい

次のときは、静止画には記録されませんが、動画には記録されます。注意してください。

- 蛍光灯やLEDなどの照明下で撮影すると、画面がちらついたり横帯が表示されたりすることがあります。

画面いっぱいに表示して撮影できない（p.71）

シャッターボタンを押したら、画面に［⚡］が点滅表示されて撮影できない（p.53）

シャッターボタンを半押ししたときに、［📷］が表示される（p.61）

- ［手ブレ補正］を［入］にしてください（p.120）。
- ストロボを［⚡］にしてください（p.116）。
- ISO感度を高くしてください（p.102）。
- 三脚などでカメラを固定してください。また、三脚などでカメラを固定するときは、［手ブレ補正］を［切］にして撮影することをおすすめします（p.120）。

画像がボケて撮影される

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから、撮影してください（p.43）。
- 撮影距離範囲内に被写体をおさめて撮影してください（p.38）。
- ［AF補助光］を［入］にしてください（p.77）。
- 意図しない機能（マクロ撮影など）が設定されていないか確認してください。
- フォーカスロック、AFロックで撮影してください（p.112、115）。

画像がブレて撮影される

- タッチシャッター機能を使って撮影するときは、撮影シーンによっては、画像がブレやすくなることがあります。カメラをしっかりと持って撮影してください。

シャッターボタンを半押ししても、AFフレームが表示されずピントが合わない

- 被写体の明暗差がある部分を画面中央にしてシャッターボタンを半押しするか、半押しを何度か繰り返すとAFフレームが表示され、ピントが合うことがあります。

被写体が暗すぎる

- ストロボを［⚡］にしてください（p.116）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.101）。
- i-コントラストで補正してください（p.103、148）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.101、102）。

被写体が明るすぎる（白トビする）

- ストロボを［⚡̸］にしてください（p.61）。
- 露出補正で明るさを補正してください（p.101）。
- AEロックまたはスポット測光で撮影してください（p.101、102）。
- 被写体にあたっている照明を弱めてください。

ストロボが光ったのに暗い画像になる（p.53）

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.37）。
- ISO感度を高くしてください（p.102）。

ストロボ撮影した画像の被写体が明るすぎる（白トビする）

- ストロボ撮影に適した距離で撮影してください（p.37）。
- ストロボを［⚡̸］にしてください（p.61）。

ストロボ撮影時、画像に白い点などが写る

- 空気中のちりなどにストロボ光が反射しました。

画像が粗い感じになる

- ISO感度を低くして撮影してください（p.102）。
- 撮影モードによってはISO感度が高くなるため、粗い感じの画像になることがあります（p.82）。

目が赤く写る（p.72）

- ［赤目緩和ランプ］を［入］に設定してください（p.77）。ストロボ撮影のときは、ランプ（前面）（p.4）が点灯して、約1秒間は赤目現象を緩和するため撮影できません。また、写される人がランプを見ているときに効果があります。「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と効果が上がります。
- 赤目補正で補正してください（p.149）。

カードへの画像の記録時間が長い、または連続撮影速度が遅くなった

- カードをこのカメラで物理フォーマットしてください（p.158）。

撮影機能やFUNC.メニューの設定ができない

- 設定できる項目は撮影モードによって変わります。「撮影機能一覧」、「FUNC.メニュー一覧」、「撮影タブメニュー 一覧」（p.202～207）で確認してください。

赤ちゃんやこどものシーンアイコンが表示されない

- 赤ちゃんやこどものアイコンは、個人認証機能（p.63）で誕生日を登録しないと表示されません。誕生日を入力しても表示されないときは、顔情報を登録しなおす（p.68）か、日付/時刻を正しく設定してください（p.20）。

動画撮影

正しい撮影時間が表示されない、または中断される

- カードをこのカメラで初期化するか、書き込み速度の速いカードを使ってください。撮影時間が正しく表示されないときも、カードには実際に撮影した時間の動画が記録されています（p.37、157）。

画面に［!］が表示され、撮影が自動的に終わった

カメラの内部メモリーが少なくなりました。次の方法を試してください。

- カードをこのカメラで物理フォーマットする（p.158）。
- 画質を変える（p.73）。
- 書き込み速度の速いカードを使う（p.37）。

被写体がゆがんで見える

- 撮影中に被写体がカメラの前を素早く横切ったときは、ゆがんで見えることがあります。これは故障ではありません。

再生

再生できない

- パソコンでファイル名やフォルダ構造を変えると再生できないことがあります。ファイル名やフォルダ構造については、「ImageBrowser EX ガイド」（p.28）を参照してください。

再生が中断する、または音声が途切れる

- このカメラで物理フォーマットしたカードを使ってください（p.158）。
- 動画を、読み込み速度の遅いカードにコピーして再生すると、再生が一瞬中断することがあります。
- パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム（コマ）落ちしたり、音声が途切れたりすることがあります。

画面

思いどおりにタッチ操作ができない

- タッチパネルは圧力を感知するタイプのため、少し強めにタッチしたり、ストラップについている留め具を使うと切り換わりやすくなります（p.14）。
- タッチ位置の調整を行ってください（p.161）。

画面右上に［ !› ］が表示される

- 指が画面の右上を触っています。画面から指を離してください。

パソコン

画像をパソコンに取り込めない

カメラとパソコンをケーブルでつないで取り込むときは、次の操作で画像の取り込み速度を遅くすることで、問題が解決できることがあります。

- カメラの電源をいったん切ります。シャッターボタンを全押ししたまま、ズームレバーを[♠]側に押した状態で[▶]ボタンを押します。続いて、ズームレバーを[♠♠♠]側に押します。表示された画面で［B］をタッチして選び、もう一度タッチします。

IXY 420F

Eye-Fiカード

画像が転送できない（p.187）

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、次のように対応してください。

カードがありません

- カードが正しい向きで入っていません。カードを正しい向きで入れます（p.18、19）。

IXY 420F

カードがロックされています

- SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード、Eye-Fi カードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えます（p.19）。

記録できません

- カードが入っていない状態で撮影しました。撮影するときは、カードを正しい向きで入れます（p.18、19）。

カードが異常です（p.158）

- 初期化したカードを正しい向きで入れても同じ表示が出るときは、別紙の修理受付センターへご相談ください（p.18、19）。

カード残量が足りません

- カードの空き容量がないため、撮影（p.49、79、99）や編集（p.145～149）はできません。画像を消して（p.138）空き容量を作るか、空き容量のあるカードに交換します（p.17）。

タッチシャッターできません／タッチAFできません

- 指が画面の右上を触っています（p.193）。
- タッチAFができない撮影モードです（p.202）。

タッチAF解除されました

- タッチAFで選んだ被写体が認識できなくなりました（p.114）。

バッテリーを交換してください（p.17、19）

画像がありません

- カードに表示できる画像が入っていません。

保護されています（p.136）

認識できない画像です／互換性のないJPEGです／画像が大きすぎます／再生できません（AVI）／RAW

- 非対応の画像やデータが壊れている画像は表示できません。
- パソコンで加工したり、ファイル名を変えたりした画像や、このカメラ以外で撮影した画像は、表示できないことがあります。

拡大できない画像です／連想再生できない画像です／回転できない画像です／処理できない画像です／登録できない画像です／処理できません／指定できない画像です／認証情報がありません

- パソコンで編集した画像やファイル名を変えた画像、このカメラ以外で撮影した画像は、以下の機能が使えないことがあります。また、動画では、*の機能が使えません。認証情報の編集（p.132）*、拡大（p.133）*、連想再生（p.135）*、回転（p.140）、分類（p.141）、編集（p.145～149）*、起動画面への登録（p.156）*、印刷指定（p.182）*、フォトブック指定（p.185）*
- グループ化された状態では処理できません（p.96）。

指定枚数の上限を超えています

- 印刷指定（p.182）やフォトブック指定（p.185）の画像を998枚より多く指定しました。指定する画像を998枚以下にします。
- 印刷指定（p.182）やフォトブック指定（p.185）を正しく保存できませんでした。指定枚数を減らして、もう一度指定します。
- 保護（p.136）、消去（p.138）、お気に入り（p.141）、マイカテゴリー（p.142）、印刷指定（p.182）、フォトブック指定（p.185）で、501枚以上の画像を指定しようとしました。

通信エラー

- カードに大量の画像（1000 枚程度）があるため、パソコンに画像を取り込んだり印刷したりできません。パソコンへ取り込むときは、カードリーダー（市販品）を使います。印刷するときは、プリンターのカードスロットにカードを差して印刷します。

ファイル名が作成できません

- フォルダ番号が最大値（999）で、画像番号も最大値（9999）になっているときは、フォルダや画像が作成できません。[🔧] メニューで［画像番号］を［オートリセット］に変えるか（p.158）、カードを初期化します（p.157）。

レンズエラーを検知しました

- レンズ動作中にレンズを押さえたり、ホコリや砂ボコリの立つ場所などでカメラを使うと表示されることがあります。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、別紙の修理受付センターへご相談ください。

カメラがエラーを検知しました（エラー番号）

- 撮影直後に表示されたときは、撮影されていないことがあります。再生して画像を確認してください。
- 頻繁に表示されるときは故障が考えられますので、エラー番号（Exx）を控えて、別紙の修理受付センターへご相談ください。

ファイルエラー

- パソコンで加工したり、このカメラ以外で撮影した画像は印刷できないことがあります。

印刷エラー

- 用紙サイズの設定を確認してください。正しく設定されていてもこのエラーが表示されるときは、プリンターの電源を入れなおして、もう一度設定してください。

インク吸収体が満杯です

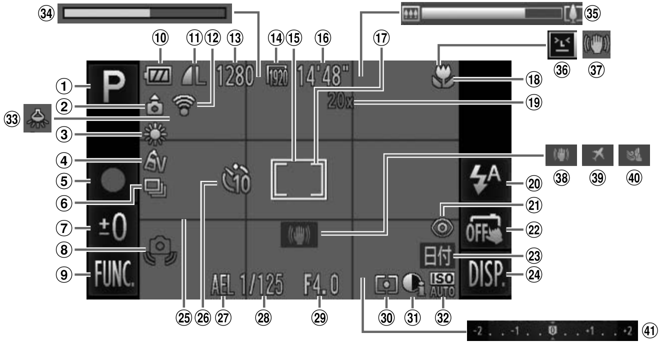
- パーソナル機器修理受付センターまたはお近くの修理受付窓口にインク吸収体の交換を依頼してください。

日ごろの取り扱いについて

- カメラは精密機器です。落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを磁石やモーターなどの、強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像が消えたりすることがあります。
- カメラや画面に水滴や汚れがついたときは､眼鏡拭きなどのやわらかい布で拭き取ってください。ただし、強くこすったり、押したりしないでください。
- 有機溶剤を含むクリーナーなどでは､絶対にカメラや画面を拭かないでください。
- レンズにゴミがついているときは､市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。汚れがひどいときは、別紙の修理受付センターにご相談ください。
- カメラを寒いところから急に暑いところへ移すと、カメラに結露（水滴）が発生することがあります｡カメラを寒いところから暑いところへ移すときは結露の発生を防ぐため、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから取り出してください。
- 結露が発生したときは､故障の原因となりますのでカメラを使わないでください。バッテリー、カードをカメラから取り出し、水滴が消えてから、カメラを使ってください。

画面の表示内容一覧

撮影時（情報表示あり）



① 撮影モード（p.202）、シーンアイコン（p.54）
② カメラ位置＊
③ ホワイトバランス（p.104）
④ マイカラー（p.105）
⑤ 動画撮影（p.97）
⑥ ドライブモード（p.106）
⑦ 長秒時設定（p.94）、露出補正量（p.101）
⑧ 手ブレ警告（p.53）
⑨ FUNC.（ファンクション）（p.45）
⑩ バッテリー残量表示（p.199）
⑪ 圧縮率（画質）（p.117）／記録画素数（p.71、73）

IXY 420F

⑫ Eye-Fi通信状態（p.187）
⑬ 撮影可能枚数（p.36）
⑭ 動画の画質（p.37）
⑮ AFフレーム（p.110）
⑯ 撮影可能時間（p.37）
⑰ スポット測光枠（p.102）
⑱ フォーカスゾーン（p.108）、AFロック（p.115）
⑲ デジタルズーム倍率（p.57）、デジタルテレコンバーター（p.109）
⑳ ストロボモード（p.61、116）
㉑ 赤目自動補正（p.72）
㉒ タッチシャッター（p.60）
㉓ 日付写し込み（p.62）
㉔ DISP.（ディスプレイ）（p.44）
㉕ グリッドライン（p.75）
㉖ セルフタイマー（p.58）
㉗ AEロック（p.101）、FEロック（p.117）
㉘ シャッタースピード
㉙ 絞り数値
㉚ 測光方式（p.102）
㉛ i-コントラスト（p.103）
㉜ ISO感度（p.102）
㉝ 水銀灯自動補正（p.73）
㉞ ハイスピード動画撮影時間（p.97）
㉟ ズームバー（p.51）
㊱ 目つむり検出（p.76）
㊲ 手ブレ補正（p.56）
㊳ 手ブレ補正（p.120）
㊴ エリア設定（p.160）
㊵ ウィンドカット（p.74）
㊶ 露出補正バー（p.101）

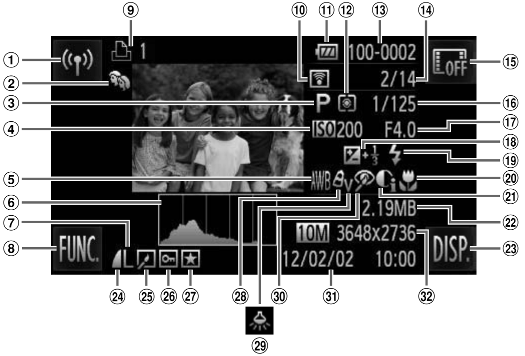
＊ ：通常、 ：カメラを縦位置に構えたとき
撮影時にカメラの向きを検知して最適な撮影ができるよう制御され、再生時には、カメラが縦向きでも横向きでも、画像が自動的に回転して正位置で見ることができます。ただし、カメラを真上や真下に向けると正しく検出できないことがあります。

バッテリーの残量表示

バッテリーの状態は、画面にマークやメッセージで表示されます。

画面表示	内容
	十分です。
	少し減っていますが、まだ使えます。
（赤く点滅）	残量が少なくなってきました。充電してください。
[バッテリーを交換してください]	残量がありません。すぐに充電してください。

再生時（詳細情報表示）



① 無線LAN
② マイカテゴリー（p.142）
③ 動画（p.50、124）、ハイスピード連写（p.95）、撮影モード（p.202）
④ ISO感度（p.102）、再生速度（p.97）、倍速（p.85）
⑤ ホワイトバランス（p.104）
⑥ ヒストグラム（p.127）
⑦ 記録画素数（p.71、73）、MOV（動画）
⑧ FUNC.（ファンクション）（p.45）
⑨ 印刷指定（p.182）

IXY 420F

⑩ Eye-Fi転送済み画像（p.187）
⑪ バッテリー残量表示（p.199）
⑫ 測光方式（p.102）
⑬ フォルダ番号－画像番号（p.158）
⑭ 再生画像番号／総画像数
⑮ 情報非表示（p.127）
⑯ シャッタースピード（静止画）、画質/フレーム数（動画）（p.73）
⑰ 絞り数値、画質（動画）（p.73）
⑱ 露出補正量（p.101）
⑲ ストロボ発光（p.116）
⑳ フォーカスゾーン（p.108）
㉑ i-コントラスト（p.103、148）
㉒ ファイルサイズ
㉓ DISP.（ディスプレイ）（p.44）
㉔ 圧縮率（画質）（p.117）
㉕ グループ再生（p.131）、画像編集（p.145～149）
㉖ 保護（p.136）
㉗ お気に入り（p.141）
㉘ マイカラー（p.105、147）
㉙ 水銀灯自動補正（p.73）
㉚ 赤目補正（p.72、149）
㉛ 撮影日時（p.20）
㉜ 静止画：記録画素数（p.36）
動画：撮影時間（p.37）

「見る」(p.124) で表示される動画操作パネル一覧

⮌	終了
🔊	タッチすると音量パネルが表示され、▲か▼をタッチすると音量を変えられます。音量が0のときは［ 🔈 ］が表示されます。
▶	再生
⏮	前スキップ*（タッチしたままにすると連続してスキップ）
◀‖	フレーム戻し（タッチしたままにするとスロー戻し）
‖▶	フレーム送り（タッチしたままにするとスロー送り）
⏭	次スキップ*（タッチしたままにすると連続してスキップ）
✂	編集（p.150）

＊約4秒前または後のフレームを表示

- 動画再生中にカメラを指で軽くたたく（p.125）と、前スキップ、次スキップができます（アクティブ再生）。
- スクロールバーをタッチしたり、左右方向にドラッグしたりすると、表示するフレームを変えられます。

機能／メニュー一覧

撮影機能一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO							
			P						
露出補正（p.101）		−	○	○	○	○	○	○	○
ストロボ（p.61、116）	⚡A	○	○	○	○	○	○	○	○
	⚡	−	○	○	○	○	○	○	○
	⚡★	＊2	○	○	−	−	−	−	−
	⊘	○	○	○	○	○	○	○	○
タッチシャッター（p.60）	入 / 切	○	○	○	○	○	−	−	−
AE/FEロック＊5（p.101、117）		−	○	○	−	−	−	−	−
AFロック（p.115）		−	○	○	−	−	−	−	−
タッチAF（p.114）		○	○	−	○	−	＊6	＊6	＊6
画面の表示（p.44）	情報表示あり / なし	○	○	○	○	○	○	○	○

＊1 IXY 1 のみ
＊2 選択不可。ただし状況に応じて［⚡★］
＊3 選択不可。ただし発光時は［⚡★］
＊4 撮影のみ可。被写体の指定は不可
＊5 FEロックは［⊘］では不可
＊6 顔が検出されたときのみ可能

												*1			
○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	–	–	–
–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–	–
–	–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	*3	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	*4	○	*4	–	○	○	○	○	○	○	○	*4	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	–	–
○	–	○	–	–	–	–	○	○	○	○	○	–	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○選択可能または自動設定　–選択不可

FUNC.メニュー 一覧

機能 ＼ 撮影モード		AUTO	P	[icon]	[icon]	[icon]	[icon]	[icon]	[icon]
測光方式（p.102）	[評価測光]	○	○	○	○	○	○	○	○
	[中央部重点平均測光] [スポット測光]	–	○	○	–	–	–	–	–
マイカラー（p.105）	OFF	○	○	○	○	○	○	○	○
	V N Se ＊2 BW ＊2 P L D B G R C ＊3	–	○	○	–	–	○	○	○
ホワイトバランス（p.104）	AWB	○	○	○	○	○	○	○	○
	[太陽光] [くもり] [電球] [蛍光灯] [蛍光灯H] [マニュアル]	–	○	○	–	–	○	○	○
ISO感度（p.102）	ISO AUTO	○	○	○	○	○	○	○	○
	ISO 100 ISO 200 ISO 400 ISO 800 ISO 1600 ISO 3200	–	○	○	–	–	–	–	–
露出補正（p.101）		–	○	○	○	○	○	○	○
セルフタイマー（p.58）	OFF	○	○	○	○	○	○	○	○
	10 2 C	○	○	○	○	○	–	–	–
セルフタイマー設定（p.59）	時間＊4	○	○	○	○	○	–	–	–
	枚数＊5	○	○	–	○	○	–	–	–
フォーカスゾーン（p.108）	[AF]	○	○	○	○	○	○	○	○
	[マクロ] [遠景]	–	○	○	○	○	–	–	–
ドライブモード（p.106）	[1枚撮影]	○	○	○	○	○	○	○	○
	[連続撮影A]	○	–	–	–	–	–	–	–
	[連続撮影]	–	○	–	○	○	–	–	–
	[AF連続撮影] ＊1＊6	–	○	–	○	○	–	–	–
静止画アスペクト比（p.71）	16:9 3:2 4:3 1:1	○	○	–	○	–	○	○	○
記録画素数（p.71）	L	○	○	○	○	○	○	○	○
	M1 M2	○	○	○	○	–	○	○	○
	M	–	–	–	–	–	–	–	–
	S	○	○	○	○	–	○	○	○
圧縮率（p.117）	[スーパーファイン]	–	○	–	–	–	–	–	–
	[ファイン]	○	○	○	○	○	○	○	○
動画の画質（p.73、97）	1920	○	○	○	○	○	○	○	○
	1280	○	○	○	○	○	○	○	○
	640	○	○	○	○	○	○	○	○
	240 120	–	–	–	–	–	–	–	–

＊1 IXY 1 のみ　＊2 ホワイトバランスは選択不可
＊3 コントラスト、シャープネス、色の濃さ、赤・緑・青・肌色を5段設定
＊4 枚数設定不可のモードでは0秒設定不可　＊5 枚数設定不可のモードでは1枚固定
＊6 AFロック時、［▒］時は、［AF連続撮影］

												*1			
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–
–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–	–
–	–	–	–	*7	–	–	○	○	○	○	○	○	○	–	–
–	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	○
○	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	*8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	○	*8	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○

*7［4:3］［16:9］のみ選択可
*8 縦横比の設定に連動して自動設定（p.85）

○選択可能または自動設定　–選択不可

撮影タブメニュー 一覧

機能 ＼ 撮影モード			AUTO	P						
AFフレーム（p.110）	顔優先＊1＊3		○	○	○	○	○	○	○	○
	顔優先AiAF＊2		○	○	○	○	○	○	○	○
	一点		–	○	○	○	–	–	–	–
AFフレームサイズ＊4（p.111）	標準		–	○	○	○	–	–	–	–
	小		–	○	○	○	–	–	–	–
デジタルズーム（p.57）	入		○	○	–	○	–	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
	テレコン1.4x / テレコン2.3x＊1		–	○	–	–	–	–	–	–
	テレコン1.6x / テレコン2.0x＊2		–	○	–	–	–	–	–	–
ピント位置拡大（p.75）	入		○	○	–	○	–	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
サーボAF（p.112）	入		–	○	–	○	–	–	–	–
	切＊5		○	○	○	○	○	○	○	○
コンティニュアスAF（p.113）＊1	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		–	○	–	○	○	–	–	–
タッチシャッター（p.60）	入 / 切		○	○	○	○	○	–	–	–
AF補助光（p.77）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	–	○	○
ストロボ設定（p.72、77）	赤目自動補正	入	○	○	○	○	–	○	○	○
		切	○	○	○	○	○	○	○	○
	赤目緩和ランプ	入 / 切	○	○	○	○	○	○	○	○
i-コントラスト（p.103）	自動		○	○	○	–	–	–	–	–
	切		–	○	○	○	○	○	○	○
水銀灯自動補正（p.73）	入 / 切		○	–	–	–	–	–	–	–
ウィンドカット（p.74）	入 / 切		○	○	○	○	○	○	○	○
撮影の確認（p.78）	切 / 2～10秒 / ホールド		○	○	○	○	○	○	○	○
レビュー情報（p.78）	非表示 / 詳細表示 / ピント確認		○	○	○	○	○	○	○	○
目つむり検出（p.76）	入		○	○	○	○	○	○	○	○
	切		○	○	○	○	○	○	○	○
グリッドライン（p.75）	入 / 切		○	○	○	○	○	○	○	○
ボタンカスタマイズ（p.118）			○	○	○	○	○	○	○	○
手ブレ補正設定（p.120）	手ブレ補正	切	○	○	○	○	○	○	○	○
		入	○	○	○	○	○	○	○	○
		撮影時	–	○	–	○	○	○	○	○
	パワードIS	入	○	○	○	○	○	○	○	○
		切	○	○	○	○	○	○	○	○
日付写し込み（p.62）	切		○	○	○	○	○	○	○	○
	日付のみ / 日付+時刻		○	○	○	○	–	○	○	○
個人認証設定（p.63）			○	○	○	○	○	○	○	○

＊1 IXY 1 のみ ＊2 IXY 420F のみ ＊3 顔が検出されないときの動作は撮影モードによって異なる
＊4 AFフレームで[一点] 選択時に可 ＊5 AUTO モードでは動きを検出したときは[入] ＊6 撮影のみ可。被写体の指定は不可

												*1			
○	○	○	–	–	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
○	○	○	–	–	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
○	–	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	–	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	–	○	–	–	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	–	○	–	–	–	–	○	○	○	○	○	–	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	○	–	–	–	–	○	○	○	○	○	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	*6	○	*6	–	○	○	○	○	○	○	○	*6	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	○	–	○	–	–
–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–
–	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	○	–	–
○	–	○	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
–	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
–	–	○	–	–	–	–	–	○	○	○	○	–	–	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	–	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	–	–
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○選択可能または自動設定　–選択不可

- 個人認証機能（p.63）で撮影すると、[ ] [ ] [ ] では、名前は画面に表示されないが、静止画には記録される
- 設定はできるが、個人認証機能（p.63）で撮影すると、[ ] [ ] では、名前は画面に表示されず、動画にも記録されない

設定タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
消音	p.154
音量	p.154
音の選択	p.154
機能ガイド	p.155
液晶の明るさ	p.155
起動画面	p.155
配色設定	p.156
カードの初期化	p.157、158
画像番号	p.158
フォルダ作成	p.159
レンズ収納時間	p.159
節電	p.42、159
エリア設定	p.160
日付/時刻	p.21
ビデオ出力方式	p.172
HDMI機器制御	p.170
タッチ画面調整	p.161
無線LAN設定	p.w-1
認証マーク表示	p.163
IXY 420F Eye-Fi設定	p.187
言語	p.22
カメラ設定初期化	p.162

再生タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
スライドショー	p.134
消去	p.138
保護	p.136
回転	p.140
お気に入り	p.141
マイカテゴリー	p.142
フォトブック指定	p.185
i-コントラスト	p.148
赤目補正	p.149
トリミング	p.146
リサイズ	p.145
レタッチマイカラー	p.147
認証情報	p.132
アクティブ再生	p.125
スクロール再生	p.124
グループ表示	p.131
縦横自動回転	p.140
再生開始位置	p.125
再生効果	p.125
タッチアクション設定	p.144

印刷タブメニュー 一覧

項目	参照ページ
印刷	–
印刷する画像を指定	p.183
すべての画像を指定	p.184
すべての指定を解除	p.184
印刷の設定	p.182

再生モードのFUNC.メニュー 一覧

項目	参照ページ
回転	p.140
印刷指定	p.182
保護	p.136
お気に入り	p.141
消去	p.138
ムービーダイジェスト再生	p.130
連想再生	p.135
画像の検索	p.129
スライドショー	p.134
マイカテゴリー	p.142

索引

【わ】

Canon

IXY 1
IXY 420F

カメラユーザーガイド
無線 LAN 編

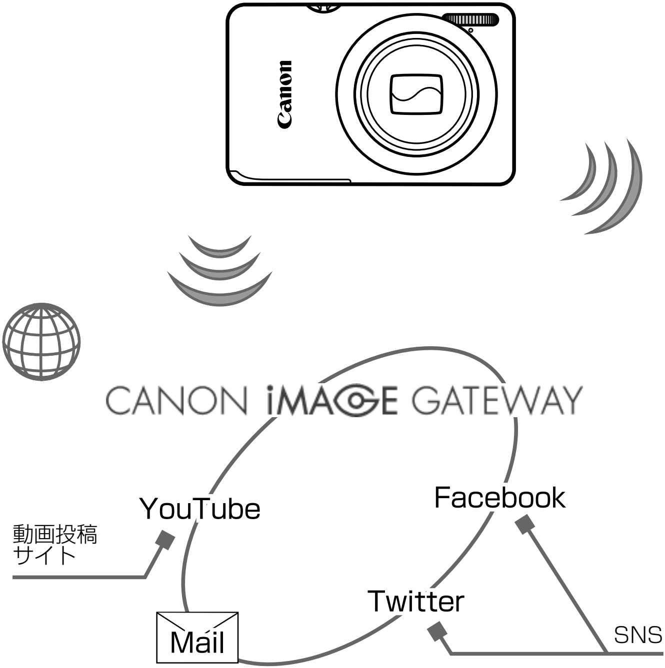
- この無線 LAN 編では、カメラを使って無線で画像を送受信する手順について紹介しています。カメラの使い方や、安全上のご注意については、「カメラユーザーガイド」（本編）をご覧ください。
- 本書をよく読んで、正しくお使いください。
- 将来いつでも使用できるように大切に保管してください。

日本語

無線 LAN を使ってできること

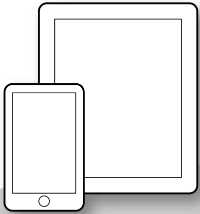
このカメラは Wi-Fi® ＊（ワイファイ）認定製品です。Wi-Fi に対応した以下の機器と無線で接続し、接続した機器へ画像を送信できます。

＊ Wi-Fi とは、相互接続性が認定されたことを示す無線 LAN 機器のブランド名称です。



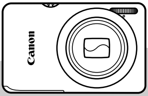
Web サービスとつなぐ

CANON iMAGE GATEWAY は、本製品を購入された方がご利用いただけるオンラインフォトサービスです。オンラインで会員登録（無料）をすれば、パソコンで設定した SNS などのいろいろな Web サービスを、CANON iMAGE GATEWAY 経由でご利用いただけます。



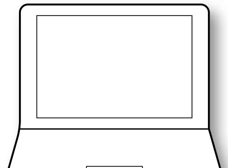
スマートフォンとつなぐ

無線機能を持つスマートフォンやタブレット端末に画像を送信できます。まず、お使いのスマートフォンに専用のアプリケーションをインストールする必要があります。詳細は、キヤノンの Web サイトでご確認ください。



別のカメラとつなぐ

無線機能を持つキヤノン製のカメラ同士で画像を送信できます。



パソコンとつなぐ

付属のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像を無線でパソコンに送信できます。
付属のソフトウェアの詳細については、「ImageBrowser EX ガイド」を参照してください。

無線 LAN の使用可能な国 / 地域

IXY 1 および IXY 420F は以下の国 / 地域の電波規制に準拠しています（2012 年 1 月 31 日現在）。

使用可能な国 / 地域	無線 LAN 規格	対応チャンネル
中華人民共和国*1、台湾、香港 / マカオ、日本、韓国、シンガポール、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、イタリア、ラトビア、リヒテンシュタイン、リトアニア、ルクセンブルグ、マルタ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド	IEEE 802.11 b/g/n *2	1 ～ 13ch

*1 IXY 1 のみお使いいただけます。

*2 2.4GHz 帯のみ対応しています。

- フランスでは屋外での使用が禁止されています。
- 記載した以外の国 / 地域では無線 LAN の機能はお使いいただけません。
- 使用可能な国 / 地域の最新情報はキヤノンの Web サイトでご確認ください。

目次

ご使用の前に

電波に関するご注意

- 本製品には、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています（モデルナンバーは、**IXY 1** PC1735 / **IXY 420F** PC1739 です）。
- 次の事項を行った場合、法律で罰せられることがあります。
  - 本製品を分解、または改造すること
  - 本製品上の証明ラベルをはがすこと
- 本製品のうち、外国為替および外国貿易法の規定により、戦略物資等（または役務）に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、日本国政府の輸出許可（または役務取引許可）が必要です。
- 本製品には、米国製暗号化ソフトウェアが搭載されているため、米国輸出管理規制（EAR）の対象となり、米国禁輸国への輸出や持ち出しはできません。

電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、およびアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局、およびアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

② 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。

③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせください。

2.4 DS/OF 4	この表示は 2.4 GHz 帯を使用している無線機器であることを意味します。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

無線 LAN に関するご注意

- ご使用になる無線 LAN の設定については、必ず控えを取ってください。

  本製品に登録した無線LANの設定は、誤操作、電波や静電気の影響、事故、故障などによって変質したり消失したりする場合があります。万一に備え、無線 LAN の設定は控えを取っておいてください。弊社の責によらずに内容の変質や消失が生じた結果による、直接または間接の損害および逸失利益について、弊社では一切の責任を負いかねます。
- 本製品を譲渡、廃棄、または修理の依頼をする場合は、必要に応じて無線 LAN の設定の控えを取った上で、無線 LAN の設定を初期化（消去）してください。
- 紛失や盗難などによる損害の補償はいたしかねます。

  紛失や盗難などによって、本製品に登録されている接続先への不正アクセス・利用がされるなどの結果、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。
- 本書に記載している使用方法をお守りください。

  本製品の無線 LAN 機能は、この使用説明書に記載している範囲内でお使いください。それ以外の用途や用法で使用した結果、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。
- 医療機器や電子機器の近くでは、本製品の無線 LAN 機能は使用しないでください。

  無線 LAN 機能が医療機器や電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。

セキュリティーに関するご注意

無線 LAN は電波を使って通信するため、LAN ケーブルを使う有線 LAN よりもセキュリティーに注意する必要があります。
無線 LAN をお使いになる場合は、次の点に注意してください。

- 使用権限があるネットワークだけを使う

  本製品は、周辺の無線 LAN ネットワークを検索して画面に表示します。そのため、使用する権限がない（知らない）ネットワーク名も表示されることがあります。しかし、それらのネットワークに接続しようとしたり接続して利用したりすると、不正アクセスと見なされる恐れがあります。使用する権限があるネットワークだけを利用し、それ以外のネットワークには接続しないように注意してください。

また、セキュリティーに関する設定が適切に行われていない場合、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- 通信の傍受

  悪意ある第三者によって無線 LAN の電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。

- ネットワークへの不正アクセス

  悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

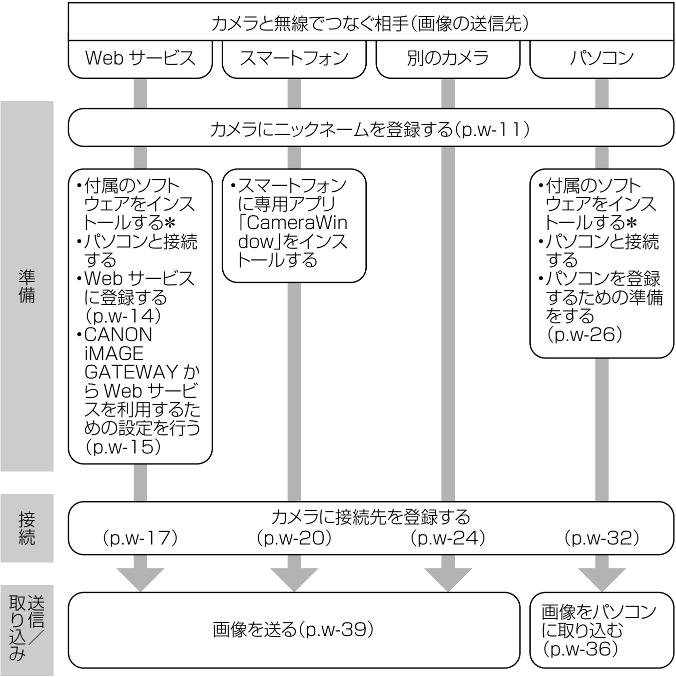
こうした問題が発生する可能性を少なくするため、無線 LAN のセキュリティーを確保するための仕組みや機能を必ず使ってください。
無線 LAN のセキュリティーについて理解し、利便性とリスクのバランスをよく考えたセキュリティーに関する設定を行った上で、本製品の無線 LAN 機能をお使いいただくことをおすすめします。

1

無線 LAN を使うための準備をする

この章では、カメラの無線 LAN 機能を使って他の機器と接続する流れと、そのために必要な設定について説明します。

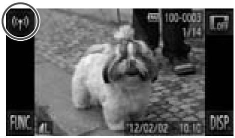
無線 LAN を使ってカメラから画像を送信するまでの流れ



＊この無線 LAN 編では、付属の CD を使ってソフトウェアが正しくインストールされていることを前提に説明しています。インストール方法については、「カメラユーザーガイド」（本編）を参照してください。

カメラにニックネームを登録する（初回のみ）

はじめに、カメラにニックネームを登録します。
このニックネームは、無線 LAN で他の機器と接続するときに、接続先の機器で表示されます。



1 無線 LAN メニューを表示する

- ▶ ボタンを押して電源を入れます。
- ［((•))］をタッチします。
- ［((•))］は、1 枚表示のときに表示されます。一覧表示（インデックス表示）のときには表示されません。



2 ニックネームを入力する

- 枠内をタッチして表示されたキーボードでニックネーム（半角英数字のみ、最大 16 文字）を入力し、[↩] をタッチします。
- ［OK］をタッチします。

- パソコン以外の機器と無線で接続するときは、カメラにカードが入っている必要があります。また、スマートフォンと無線で接続するときは、カードに画像が保存されている必要があります。
- カメラの [🔧] タブの [無線 LAN 設定] で [ニックネームの変更] を選ぶとニックネームを変更できます。

2

Web サービスとつなぐ

この章では、いろいろな Web サービスをカメラに登録する方法について説明します。

- CANON iMAGE GATEWAY をはじめとする各種 Web サービスの設定にはパソコンが必要です。
- CANON iMAGE GATEWAY のサービスに対応している国 / 地域の情報は、キヤノンの Web サイト（http://canon.com/cig）でご確認ください。

Web サービスに登録する

まず CANON iMAGE GATEWAY に会員登録（無料）します。
CANON iMAGE GATEWAY を使うと、撮影した画像をオンラインフォトアルバムにして公開できるほか、さまざまなサービスがご利用いただけます。また、カメラから SNS やメールなどの Web サービスへ無線で画像を送信するときもその橋渡しをするサイトとなります。パソコンなどからインターネットへ接続し、「http://canon.com/cig」からお住まいの地域の CANON iMAGE GATEWAY のサイトへアクセスし、画面の指示にしたがって会員登録を行ってください。
CANON iMAGE GATEWAY 以外の Web サービスも利用するときは、続けてその Web サービスへのアカウント登録を行ってください。詳しくは、各 Web サービスの Web サイトをご確認ください。

- CANON iMAGE GATEWAY をお使いいただくためには、インターネットに接続できる環境（プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み）が必要です。
- CANON iMAGE GATEWAY に接続する際にお使いいただくブラウザ（Microsoft Internet Explorer など）のバージョンや設定条件については、「CANON iMAGE GATEWAY」でご確認ください。
- プロバイダとの接続料金、およびプロバイダのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

- カメラ連携情報：カメラから Web サービスへの送信履歴を確認できます。
- ヘルプ：CANON iMAGE GATEWAY の操作方法を確認できます。
- ライブラリ：カメラから送信した画像が時系列で一覧表示されます。



CANON iMAGE GATEWAYからWebサービスを利用するための設定を行う

利用する Web サービスのアカウント情報を設定します。設定には、付属のソフトウェアの「CameraWindow」を使うので、事前に付属の CD からインストールしておいてください。インストール方法は「カメラユーザーガイド」(本編)の「ソフトウェアと電子マニュアルを使う」を参照してください。

1 カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続する

- お使いのパソコンが Windows のときは、インターフェースケーブルを使わずに無線でも接続できますが、事前に Windows の設定を行う必要があります (p.w-28)。

2 CameraWindow を表示する

- ▶ ボタンを押して電源を入れます。
- CameraWindow の表示方法の詳細については、「CameraWindow を表示する」(p.w-36) を参照してください。



3 [Web サービスを設定する] を選ぶ

- [Web サービスを設定する] をクリックします。



4 CANON iMAGE GATEWAY にログインする

- CANON iMAGE GATEWAY のログイン名とパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。



5 利用する Web サービスの設定をする

- 画面の指示にしたがって、利用する Web サービスの設定を行います。
- Web サービスの設定が終わったら、画面下の［完了］をクリックして設定画面を閉じます。



6 Web サービスの設定をカメラに反映する

- 設定したい Web サービス名を選択し、中央の［⇐］をクリックします。
- ▶ カメラに反映する Web サービス名が「カメラ」欄に表示されます。
- ［▲］や［▼］をクリックして、カメラの無線 LAN メニューに表示される Web サービスの順番を変更することもできます。
- 「カメラ」欄が設定したい状態になったら、この画面を終了します。
- ▶ Web サービスの設定がカメラに反映されます。

- 手順 2 で CameraWindow が表示されないときは、「CameraWindow を使って画像をパソコンに取り込む」（p.w-36）を参照してください。
- 送信先がメールのときは、20 件までカメラに登録できます。
- 手順 4 で CANON iMAGE GATEWAY に 2 回目以降にログインしたときは、手順 6 の画面が表示されます。利用する Web サービスの設定を行うには［Web サービスの編集］をクリックします。
- Web サービスの追加や変更をするときは、手順 1 から繰り返します。

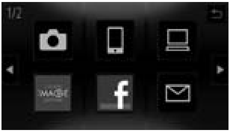
Web サービスに接続する

カメラに登録した Web サービスへ接続します。



1 無線 LAN メニューを表示する

- [(ψ)] をタッチします。



2 Web サービスを選ぶ

- 送信先のWebサービスのアイコンをタッチします。
- メールを選んだときは、続けて「送信先の選択」画面で送信先をタッチします。



3 アクセスポイントに接続する

- [アクセスポイントの登録] をタッチします。
- ▶ 検索されたアクセスポイントの一覧が「アクセスポイントへの接続」画面に表示されます。
- ▶ この先の手順は、「WPS 対応のアクセスポイントに接続する」（p.w-33）または「一覧に表示されたアクセスポイントに接続する」（p.w-35）を参照してください。
- ▶ アクセスポイントに接続後の操作については、「画像を送る」（p.w-39）を参照してください。

- タッチアクション設定で接続先を設定すると、次回以降は、接続する操作をせずにドラッグ操作だけで最後に接続した接続先にカメラが自動で接続しにいきます。
  タッチアクション設定については、「カメラユーザーガイド」（本編）を参照してください。

3

スマートフォンとつなぐ

この章では、無線 LAN 機能を持つスマートフォンをカメラに登録する方法について説明します。

スマートフォンを登録する

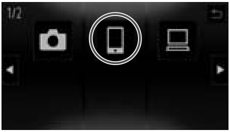
無線 LAN で接続するスマートフォンを登録します。
スマートフォンとの無線 LAN は、アドホックモードまたはインフラストラクチャーモードで接続します。

- ここでは、アドホックモードでスマートフォンと接続する場合の手順について説明します。インフラストラクチャーモードで接続する場合については、「パソコンを登録する」の「一覧に表示されたアクセスポイントに接続する」（p.w-35）を参照してください。
- カメラと無線 LAN 接続する前に、お使いのスマートフォンに専用のアプリケーション「CameraWindow」（無料）をインストールしてください。アプリケーションの詳細（対応するスマートフォンや機能など）についてはキヤノンの Web サイトでご確認ください。



1 無線 LAN メニューを表示する

- ［(ψ)］をタッチします。



2 スマートフォンを選ぶ

- ［▯］をタッチします。



3 ［接続先の機器の登録］を選ぶ

- ［接続先の機器の登録］をタッチします。



4 アドホックモードを選ぶ

- ［アドホック］→［次へ］を順にタッチします。



5 スマートフォンを操作して、カメラの画面に表示されたネットワークに接続する

- お使いのスマートフォンの Wi-Fi に関する設定メニューから、カメラに表示された SSID（ネットワーク名）を選択します。
- パスワード欄には、カメラに表示された WEP キーを入力します。

6 スマートフォンを操作して、「CameraWindow」を起動する

- ▶ カメラがスマートフォンを認識すると、接続する機器を選択する画面がカメラに表示されます。



7 接続するスマートフォンを選ぶ

- 接続したいスマートフォンの名前をタッチします。





8 公開設定をする

- カメラ内の画像をスマートフォンでも表示したいときは［はい］を、表示したくないときは［いいえ］をタッチします。
- ［はい］を選ぶと、スマートフォンを操作してカメラ内の画像をスマートフォンに送信できます。
- ▶ スマートフォンが登録されると、画像を送信する画面が表示されます（p.w-39）。

- アドホックモードでスマートフォンと接続する場合、スマートフォンの IP アドレスを次の設定で固定すると、接続にかかる時間を短くできます。
  - IP アドレス：169.254.0.9
  - サブネットマスク：255.255.0.0
- お使いのスマートフォンによっては、送信できる動画の画質に制限があります。詳細は、お使いのスマートフォンの使用説明書等でご確認ください。
- 複数のスマートフォンを登録するには、手順 1 から繰り返します。
- スマートフォンを登録すると、そのスマートフォンの名前が手順 3 の画面に表示されるようになります。2 回目以降はスマートフォンの名前を選んで接続してください。
- 登録済みのスマートフォンに対する画像の公開設定を変更するには、手順 3 で [接続先の機器の編集] から設定を変更したいスマートフォンを選択し、[画像の公開設定] を選びます。
- タッチアクション設定で接続先を設定すると、次回以降は、接続する操作をせずにドラッグ操作だけで最後に接続した接続先にカメラが自動で接続しにいきます。
  タッチアクション設定については、「カメラユーザーガイド」（本編）を参照してください。

4

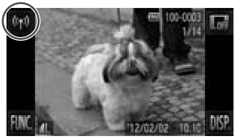
別のカメラとつなぐ

この章では、2 台のカメラ同士で無線 LAN 接続して
画像を送信する方法について説明します。

カメラを登録する

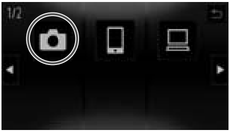
無線 LAN で接続するカメラを登録します。
カメラとの無線 LAN は、アドホックモードで接続します。

- 無線接続できるのは、キヤノン製の無線 LAN 対応カメラのみです。Eye-Fi カードに対応していても無線 LAN に対応していないキヤノン製カメラへは接続できません。また、IXY DIGITAL WIRELESS とは無線接続できません。



1 無線 LAN メニューを表示する

- [(ᵞ)] をタッチします。



2 カメラを選ぶ

- [📷] をタッチします。



3 [接続先の機器の登録] を選ぶ

- [接続先の機器の登録] をタッチします。
- 相手のカメラも手順 1 ～ 3 を行います。
- ▶ 両方のカメラで「接続先の機器でも通信を開始してください」画面が表示されると登録が始まります。
- ▶ 相手のカメラが登録されると、画像を送信する画面が表示されます（p.w-39）。



- 複数のカメラを登録するには、手順 1 から繰り返します。
- カメラを登録すると、そのカメラの名前が手順 3 の画面に表示されるようになります。2 回目以降はカメラの名前を選んで接続してください。
- タッチアクション設定で接続先を設定すると、次回以降は、接続する操作をせずにドラッグ操作だけで最後に接続した接続先にカメラが自動で接続しにいきます。
  タッチアクション設定については、「カメラユーザーガイド」（本編）を参照してください。

5

パソコンとつなぐ

この章では、パソコンと接続するために必要な設定とカメラへの登録方法、および付属のソフトウェアの「CameraWindow」を使って無線で画像をパソコンに取り込む方法について説明します。

- 接続先がパソコンの場合は、接続までの操作はカメラを使い、接続後に画像を取り込む操作にはパソコン（付属のソフトウェアの「CameraWindow」）を使います。
- 付属のソフトウェアの詳細については、「ImageBrowser EX ガイド」を参照してください。

パソコンを登録するための準備をする

パソコンを登録するための準備を行います。

パソコンと無線 LAN の環境を確認する

パソコンの環境

カメラと無線 LAN で接続できるパソコンの環境は次のとおりです。

Windows

- Windows 7 Service Pack 1

Macintosh

- Mac OS X v10.6.8 以降

- Windows 7 Starter / Home Basic には対応していません。
- Windows 7 N（欧州版）/KN（韓国版）では、Windows Media Feature Pack を別途マイクロソフトのサポートページからダウンロードしてインストールする必要があります。
  詳しくは、次の Web ページを参照してください。
  http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=159730

無線 LAN を使うための環境

無線 LAN を使うためには、アクセスポイントとなる無線親機（無線 LAN ルーターなど）とパソコンが接続されている環境が必要です。
また、付属のソフトウェアの「CameraWindow」をパソコンにインストールしておく必要があります。

- 無線親機は、p.w-4 に記載している無線 LAN 規格に対応しているものをお使いください。
- ルーターとは、複数のパソコンなどを接続して、ネットワーク（LAN）を構築するときに使われる機器です。さらに、無線機能を内蔵しているルーターを「無線 LAN ルーター」と呼びます。
- 本書では、無線 LAN ルーターなどの無線親機すべてを「アクセスポイント」と呼びます。
- パソコンの環境がわからないときは、パソコンに付属の使用説明書を参照してください。

お使いの無線 LAN の設定項目を確認する

すでに無線 LAN を使っている場合は、次の項目を確認し、確認シートに記入してください。

- システム管理者がいるネットワーク内で設定する場合は、ネットワーク管理者にネットワーク設定の詳細をお問い合わせください。
- これらの情報はセキュリティー上大変重要なものです。お取り扱いには十分ご注意ください。
- 設定の確認方法については、お使いのアクセスポイントの使用説明書を参照してください。

確認シート

ネットワーク名（SSID / ESSID） お使いのアクセスポイントの SSID または ESSID です。	
ネットワークの認証 / データの暗号化（暗号化方式 / 暗号化モード） 無線通信時のデータを暗号化する方式です。	○なし ○ WEP ○ WPA-PSK(TKIP) ○ WPA-PSK(AES) ○ WPA2-PSK(TKIP) ○ WPA2-PSK(AES)
暗号化キー（ネットワークキー） 無線通信時のデータを暗号化するために使われるキー（鍵）です。	
キーのインデックス（送信キー） 「ネットワークの認証 / データの暗号化」が「WEP」の場合に設定するキーです。	○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4

- お使いの無線 LAN で MAC アドレスをフィルタリングしている場合は、アクセスポイントにカメラの MAC アドレスを登録してください。カメラの MAC アドレスは、[ƴƒ] タブの［無線 LAN 設定］で［MAC アドレスの確認］を選ぶと確認できます。

- セキュリティーの種類と内容については、次のとおりです。
  - なし：アクセスポイントとの接続に暗号化を使用しません
  - WEP：無線 LAN 機器の多くが対応している暗号化規格 WEP を使用します
  - WPA-PSK(TKIP)：WEP を改良した規格で、TKIP という暗号を使用します
  - WPA-PSK(AES)：WEP を改良した規格で、AES という暗号を使用します
  - WPA2-PSK(TKIP)：WPA を改良した規格で、TKIP という暗号を使用します
  - WPA2-PSK(AES)：WPA を改良した規格で、AES という暗号を使用します
- AES には、TKIP より高いセキュリティー強度があります。
- WPA と WPA2 のセキュリティー強度に差はありません。

パソコンに無線 LAN 接続するための設定を行う（Windows のみ）

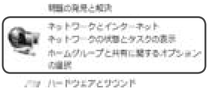
お使いのパソコンが Windows の場合、カメラと無線で接続するために、パソコンに無線 LAN 接続するための設定を行う必要があります。
パソコンが無線 LAN に接続しているのを確認した上で、次の各設定を行ってください。

メディアストリーミングとネットワーク探索を有効にする

メディアストリーミングを有効にすると、無線で接続するパソコンをカメラが参照（検索）できるようになります。
ネットワーク探索を有効にすると、パソコンがカメラを参照（検索）できるようになります。

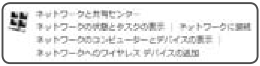
1 コントロールパネルの画面を開く

- スタートメニューから［コントロールパネル］をクリックします。



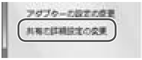
2 ［ネットワークとインターネット］を選ぶ

- ［ネットワークとインターネット］をクリックします。



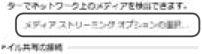
3 ［ネットワークと共有センター］を選ぶ

- ［ネットワークと共有センター］をクリックします。



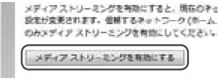
4 ［共有の詳細設定の変更］を選ぶ

- ［共有の詳細設定の変更］をクリックします。



5 ［メディアストリーミングオプションの選択 ...］を選ぶ

- 現在のプロファイルの［メディアストリーミングオプションの選択 ...］をクリックします。



6 メディアストリーミングを有効にする

- ［メディアストリーミングを有効にする］をクリックします。

7 ［OK］を選ぶ

- ［OK］をクリックします。



8 ネットワーク探索を有効にする

- 現在のプロファイルの［ネットワーク探索を有効にする］をクリックします。



9 変更を保存する

- ［変更の保存］をクリックします。

10 コントロールパネルの画面を閉じる

ICMP 設定のエコー要求の受信と UPnP のサービスを有効にする

ICMP（Internet Control Message Protocol）を有効にすると、ネットワーク接続の通信状態を確認できるようになります。
UPnP（Universal Plug & Play）を有効にすると、ネットワーク機器を自動認識できるようになります。

1 コントロールパネルの画面を開く

- スタートメニューから［コントロールパネル］をクリックします。



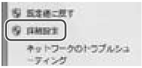
2 ［システムとセキュリティ］を選ぶ

- ［システムとセキュリティ］をクリックします。



3 ［Windows ファイアウォール］を選ぶ

- ［Windows ファイアウォール］をクリックします。



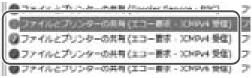
4 ［詳細設定］を選ぶ

- ［詳細設定］をクリックします。



5 ［受信の規則］を選ぶ

- ［受信の規則］をクリックします。





6 ICMP 設定のエコー要求の受信を有効にする

- 「ファイルとプリンターの共有」の項目で「ICMPv4」のついた項目を選択し、右側にある［規則の有効化］をクリックします。





7 UPnP のサービスを有効にする

- 「ワイヤレスポータブルデバイス（UPnP 受信）」を選択し、右側にある［規則の有効化］をクリックします。

8 「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」画面を閉じる

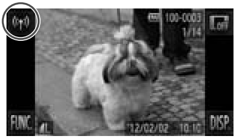
9 コントロールパネルの画面を閉じる

- 手順 6 と手順 7 で［規則の無効化］が表示されている場合は、すでに有効になっているので、そのままにします。

パソコンを登録する

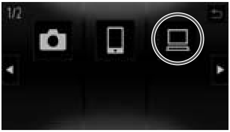
無線 LAN で接続するパソコンをカメラに登録します。
パソコンとの無線 LAN は、インフラストラクチャーモードで接続します。

- お使いのアクセスポイントの使用説明書もあわせてお読みください。



1 無線 LAN メニューを表示する

- ［(ϒ)］をタッチします。



2 パソコンを選ぶ

- ［💻］をタッチします。



3 ［接続先の機器の登録］を選ぶ

- ［接続先の機器の登録］をタッチします。
- ▶ 検索されたアクセスポイントの一覧が「アクセスポイントへの接続」画面に表示されます。
- ▶「WPS 対応のアクセスポイントに接続する」、「一覧に表示されたアクセスポイントに接続する」のいずれかに進んでください。
- ▶ 手動でアクセスポイントを指定して接続する場合については、「一覧に表示されたアクセスポイントに接続する」内の補足説明欄（p.w-35）を参照してください。

- パソコンを登録すると、そのパソコンの名前が手順 3 の画面に表示されるようになります。2 回目以降はパソコンの名前を選んで接続してください。
- タッチアクション設定で接続先を設定すると、次回以降は、接続する操作をせずにドラッグ操作だけで最後に接続した接続先にカメラが自動で接続しにいきます。
  タッチアクション設定については、「カメラユーザーガイド」（本編）を参照してください。

WPS 対応のアクセスポイントに接続する

WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、無線 LAN 機器同士を接続する際の各種設定を簡単に行う仕組みです。WPS に対応した機器では、設定方式としてプッシュボタン方式と PIN コード方式を使用できます。
ここでは、プッシュボタン方式の手順について説明します。

- お使いのアクセスポイントが WPS に対応しているかどうかは、アクセスポイントの使用説明書でご確認ください。



4 ［簡単設定（WPS 接続）］を選ぶ

- ［簡単設定（WPS 接続）］をタッチします。



5 ［プッシュボタン方式］を選ぶ

- ［プッシュボタン方式］をタッチします。

6 アクセスポイントにある WPS 接続用のボタンを長押しする



7 ［次へ］を選ぶ

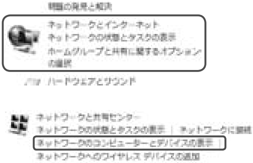
- ［次へ］をタッチします。
- ▶ カメラがアクセスポイントに接続します。
- ▶ そのアクセスポイントに接続しているパソコンの一覧が「接続先の機器の選択」画面に表示されます。



8 接続するパソコンを選ぶ

- 接続したいパソコンの名前をタッチします。
- ▶ Macintoshの場合は、「CameraWindowを使って画像をパソコンに取り込む」(p.w-36)に進んでください。

9 ドライバーをインストールする(Windows のみ)



- パソコンのスタートメニューから［コントロールパネル］をクリックし、［ネットワークとインターネット］→［ネットワークのコンピューターとデバイスの表示］を順にクリックします。



- ［その他のデバイス］の中から接続したカメラのアイコンをダブルクリックします。
- ▶ ドライバーのインストールが始まります。
- ▶ ドライバーのインストールが終わってカメラとパソコンの接続が完了すると、「自動再生」画面が表示されます。このとき、カメラの液晶画面には何も表示されなくなります。
- 「CameraWindow を使って画像をパソコンに取り込む」(p.w-36)に進んでください。

- 手順 5 で［PIN コード方式］を選択したときは、画面に表示された PIN コードをアクセスポイントに設定します。次に「接続先の機器の選択」画面で接続する機器を選びます。詳しくは、お使いのアクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 複数のパソコンを登録するには、手順 1 から繰り返します。
- 登録を終了するには、手順 8 でパソコンと接続したあとに表示される、画像を送信する画面で右上の［⮌］をタッチし、表示される確認画面で［OK］をタッチします。

一覧に表示されたアクセスポイントに接続する



4 アクセスポイントを選ぶ

- アクセスポイントをタッチします。



5 暗号化キーを入力する

- 枠内をタッチして表示されたキーボードで暗号化キーを入力し、［次へ］をタッチします。



6 ［自動］を選ぶ

- ［自動］をタッチします。
- ▶ そのアクセスポイントに接続している他の機器の一覧が「接続先の機器の選択」画面に表示されます。
- p.w-34 の手順 8 ～ 9 の操作でパソコンを選んで登録します。

- アクセスポイントは最大 16 個まで表示されます。アクセスポイントが検出されないときは、手順 4 で［手動設定］を選ぶと、アクセスポイントを手動で設定できます。画面の指示にしたがって SSID の入力、セキュリティー設定、暗号化キーの入力を行ってください。
- 同じアクセスポイントを使って他の機器に接続する場合は、手順 5 で暗号化キーが「*」で表示されます。同じ暗号化キーを使うときは、そのまま［次へ］をタッチします。
- 複数のパソコンを登録するには、手順 1 から繰り返します。

CameraWindow を使って画像をパソコンに取り込む

カメラ内の画像をパソコンに取り込むにはパソコン（付属のソフトウェアの「CameraWindow」）を使います。

- CameraWindow の操作方法については、「ImageBrowser EX ガイド」を参照してください。

CameraWindow を表示する

Windows の場合



1 画像をカメラからダウンロードするように設定する

- [画像をキヤノンカメラからダウンロードします] をクリックします。
- ▶ CameraWindow が表示されます。
- ▶「パソコンに未送信の画像を取り込む」（p.w-37）または「画像を選んで取り込む」（p.w-38）に進んでください。

Macintosh の場合

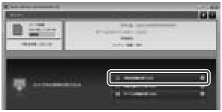
カメラとパソコンが無線で通信できる状態になると、CameraWindow が自動的に表示されます。

- Macintosh で CameraWindow が表示されないときは、Dock（デスクトップ下部に表示されるバー）の [CameraWindow] アイコンをクリックします。

パソコンに未送信の画像を取り込む

まだパソコンに取り込んでいない画像を取り込みます。





1 未送信の画像を取り込む

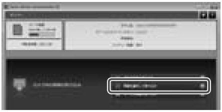
- [カメラ内の画像の取り込み] をクリックします。
- [未転送画像を取り込む] をクリックします。
- ▶ まだパソコンに取り込んでいない画像がパソコンに取り込まれます。
- 取り込みの完了画面で、[OK] をクリックします。

- CameraWindow の初期設定では、パソコンに取り込まれた画像は [ピクチャ] または [マイピクチャ] フォルダーに保存されます。保存先フォルダーの変更方法については、「ImageBrowser EX ガイド」を参照してください。
- 手順 1 で [すべての画像を取り込む] をクリックすると、カメラ内の画像すべてをパソコンに取り込めます。
- 動画はファイルサイズが大きいため、取り込みに時間がかかることがあります。
- カメラとの接続を切断するには、カメラの電源を切ってください。

画像を選んで取り込む

選択した任意の画像をパソコンに取り込みます。





1 取り込む画像を選ぶ画面を表示する

- ［カメラ内の画像の取り込み］をクリックします。
- ［画像を選択して取り込む］をクリックします。



2 画像を選ぶ

- 取り込みたい画像をクリックします。
- ▶ 画像の背景が青色になります。［ ］（解除）をクリックすると選択が解除され、背景がグレーに戻ります。

3 画像を取り込む

- ［ ］（取り込み）をクリックします。
- ▶ 選択した画像がパソコンに取り込まれます。
- 取り込みの完了画面で、［OK］をクリックします。

- CameraWindow の初期設定では、パソコンに取り込まれた画像は［ピクチャ］または［マイピクチャ］フォルダーに保存されます。保存先フォルダーの変更方法については、「ImageBrowser EX ガイド」を参照してください。
- 動画はファイルサイズが大きいため、取り込みに時間がかかることがあります。
- カメラとの接続を切断するには、カメラの電源を切ってください。

6

画像を送る

この章では、カメラに登録した接続先へカメラから無線で画像を送信する方法について説明します。

- 接続先が SNS やメールの場合、送信した画像は CANON iMAGE GATEWAY に保存され、SNS やメールにはアルバムへのリンクが表示されます。接続先が YouTube の場合のみ、送信した動画は直接 YouTube のサイト上にアップロードされます。
- 1 回の送信操作で画像を 50 個までまとめて送信できます。動画は、撮影時間の合計が 2 分以内であれば、まとめて送信できます。ただし、接続先が Web サービスの場合、お使いの Web サービスによっては送信できる数が少なくなることがあります。詳細については、お使いの Web サービスでご確認ください。
- お使いの通信環境によっては、動画の送信に非常に時間がかかります。バッテリー残量にご注意ください。
- 接続先がパソコンの場合は、画像を送信する操作はカメラではなくパソコン（付属のソフトウェアの「CameraWindow」）を使います（p.w-36）。

画像を 1 つずつ送信する



1 画像を 1 つずつ送信する

- 画像を左右方向にドラッグして、送信したい画像を選びます。
- 送信する画像の記録画素数（[M2] [S] のどちらかにリサイズするか、または元のサイズのままにするか）を選べます。［▽］または［△］をタッチして項目を選び設定します。
- ［この画像を送信］をタッチします。
- YouTube へ送信するときは、続いて表示される利用規約を読み［同意する］をタッチします。
- ▶ 画像の送信が開始されます。
- ▶ 画像を Web サービスに送信したときは、送信が完了したら表示される画面で［OK］をタッチすると、再生モードの画面に戻ります。
- ▶ 画像をカメラまたはスマートフォンに送信したときは、「送信が完了しました」と表示されたあと、画像を送信する画面に戻ります。

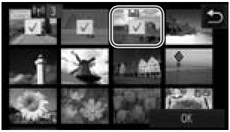
- 選択した記録画素数よりも大きい画像のみリサイズされます。
- 動画はリサイズできません。
- カメラとの接続を切断するには、画面右上の［↩］をタッチし、表示される切断の確認画面で［OK］をタッチします。

複数の画像を送信する



1 ［選んで送信］を選ぶ

- ［選んで送信］をタッチします。



2 画像を選ぶ

- 送信したい画像をタッチします。
- ▶ ✓が表示されます。もう一度画像をタッチすると選択が解除され、✓が消えます。画面を上下方向にドラッグすると、指の動きに合わせて表示が切り換わります。
- 画像の選択が終わったら、［OK］をタッチします。



3 送信する

- 送信する画像の記録画素数（[M2] [S] のどちらかにリサイズするか、または元のサイズのままにするか）を選べます。［▽］または［△］をタッチして項目を選び設定します。
- ［送信］をタッチします。
- YouTube へ送信するときは、続いて表示される利用規約を読み［同意する］をタッチします。
- ▶ 画像の送信が開始されます。
- ▶ 画像を Web サービスに送信したときは、送信が完了したら表示される画面で［OK］をタッチすると、再生モードの画面に戻ります。
- ▶ 画像をカメラまたはスマートフォンに送信したときは、「送信が完了しました」と表示されたあと、画像を送信する画面に戻ります。

- 手順 2 でズームレバーを Q（虫眼鏡）側に 2 回押すと、1 枚表示に切り換わります。画面を左右方向にドラッグして画像を選ぶこともできます。
- 手順 3 で選択した記録画素数よりも元が大きい画像のみリサイズされます。
- 動画はリサイズできません。
- カメラとの接続を切断するには、画面右上の［⮌］をタッチし、表示される切断の確認画面で［OK］をタッチします。

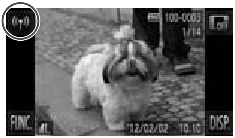
7

その他

この章では、無線 LAN に関する、設定の編集 / 消去方法、操作に迷ったときの対処方法、用語などについて説明します。

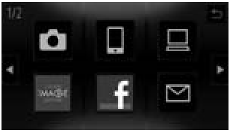
接続情報を編集する

登録してある接続先の情報を編集します。カメラに表示させる接続先のニックネーム（表示名）の変更や、接続情報の消去などが行えます。
ここでは、接続先がパソコンの場合の手順について説明します。



1 無線 LAN メニューを表示する

- ［((ᵖ))］をタッチします。



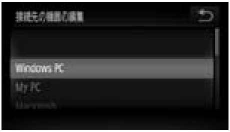
2 編集する機器を選ぶ

- 編集したい機器のアイコンをタッチします。



3 ［接続先の機器の編集］を選ぶ

- ［接続先の機器の編集］をタッチします。



4 編集する接続先を選ぶ

- 編集したい接続先をタッチします。

5 編集する項目を選ぶ

- 編集したい項目をタッチします。
- 接続情報の消去やニックネームの変更の操作方法については、次ページ以降をお読みください。

- 編集できる項目は、接続先によって以下のように異なります。

Web サービス	• 接続情報（アクセスポイント）の消去
スマートフォン	• カメラに表示するニックネームの変更 • 画像の公開設定の変更 • 接続情報の消去
別のカメラ / パソコン	• カメラに表示するニックネームの変更 • 接続情報の消去

- 接続情報とは、接続先にどう接続するかの情報です。
  接続情報には、接続モード（アドホック / インフラストラクチャー）とアクセスポイント（インフラストラクチャーモードの場合）が含まれます。
  同じ接続先でも、接続モードやアクセスポイントが異なれば、別の接続情報として扱われます。

接続情報を 1 つずつ消去する







6 ［接続情報を選んで消去］を選ぶ

- ［接続情報を選んで消去］をタッチします。
- 接続先がカメラのときは、［接続情報を消去］をタッチします。

7 消去する接続情報を選ぶ

- 消去したい接続情報をタッチします。
- ［(接続情報）消去しますか？］が表示されたら、［OK］をタッチします。
- ▶ 選択した接続情報が消去されます。
- ▶ 接続先に別の接続情報がある場合は、手順 6 の画面に戻ります。
- ▶ 接続先から接続情報がなくなった場合は、手順 4 の画面に戻ります。

- 複数の接続情報がある場合、1 つを消去しても接続先は消去されません。接続先を消去するには、すべての接続情報を消去します。
- すべての接続情報がなくなった接続先は消去されるので、戻った先の手順 4 の画面には表示されません。
- 消去された接続先が、登録されている最後の接続先だった場合は、手順 3 の画面に戻ります。

すべての接続情報を消去する





6 ［すべての接続情報を消去］を選ぶ

- ［すべての接続情報を消去］をタッチします。
- ［(接続先名) 消去しますか？］が表示されたら、［OK］をタッチします。
- ▶ すべての接続情報が消去され、手順 4 の画面に戻ります。

- すべての接続情報がなくなった接続先は消去されるので、戻った先の手順 4 の画面には表示されません。
- 消去された接続先が、登録されている最後の接続先だった場合は、手順 3 の画面に戻ります。

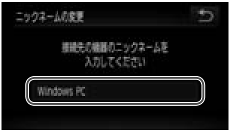
接続先のニックネームを変更する

カメラに表示させる接続先のニックネーム（表示名）を変更できます。



6 ［ニックネームの変更］を選ぶ

- ［ニックネームの変更］をタッチします。



7 ニックネームを入力する

- 枠内をタッチして表示されたキーボードでニックネームを入力し直します。
- 画面右上の［⮌］をタッチします。
- ▶ 手順 4 の画面に戻り、接続先が変更したニックネームで表示されます。

無線 LAN の設定を初期化する

カメラを譲渡したり廃棄したりするときは、無線 LAN の設定を初期化します。

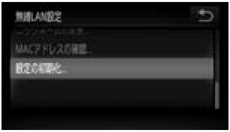
1 メニューを表示する

- [FUNC.] をタッチしたあと、[MENU] をタッチします。



2 [無線 LAN 設定] を選ぶ

- [Ý] タブをタッチします。
- [無線 LAN 設定] をタッチします。





3 [設定の初期化] を選ぶ

- [設定の初期化] をタッチします。
- 「設定の初期化」画面が表示されたら、[OK] をタッチします。
- ▶ 無線 LAN の設定が初期化され、この手順の最初の画面に戻ります。

- 無線 LAN の設定を初期化すると、パソコンを使って設定した Web サービスの設定内容もすべて消去されます。十分に確認してから初期化してください。
- 無線 LAN 以外の設定を初期化するときは、[Ý] タブの [カメラ設定初期化] を選びます。

こんなときには

無線 LAN に関する操作で迷ったり困ったりしたときは、次の例を参考に確認してください。

((•)) が表示されず、無線 LAN メニューを表示できない

- 撮影モードからは無線 LAN メニューを利用できません。再生モードに切り換えてください。
- 再生モードでも、拡大表示や一覧表示（インデックス表示）のときは ((•)) が表示されません。1 枚表示に切り換えてください。また、検索条件を指定して画像を表示しているときも ((•)) は表示されません。検索した画像の再生状態を解除してください。
- カメラをプリンターやパソコンとケーブルでつないでいるときは ((•)) が表示されません。ケーブルを外してください。

スマートフォンと接続しようとしても、カメラの SSID（ネットワーク名）が表示されない

- 選択した通信モードがインフラストラクチャーモードです。アドホックモードを選択してください（p.w-20）。
- お使いのスマートフォンがアドホックモードに対応しているか確認してください。アドホックモードに対応していない場合は、インフラストラクチャーモードで接続してください。

カメラに接続先を登録できない

- カメラに登録できる接続情報は、あわせて 20 件までです。不要な接続情報を削除してから新しい接続先を登録してください（p.w-44）。
- メール以外の Web サービスには、複数のアカウントを設定できません。CameraWindow を使って Web サービスのアカウントを変更してください（p.w-15）。
- スマートフォンを接続先として登録するには、スマートフォンに専用アプリ「CameraWindow」をインストールしてから行ってください。
- パソコンを接続先として登録するには、付属のソフトウェア「CameraWindow」をパソコンにインストールしてから行ってください。
- 無線 LAN の電波状態が悪くなるため、電子レンジや Bluetooth など、2.4 GHz 帯の周波数を使用する機器の近くでは使用しないでください。
- インフラストラクチャーモードの場合、カメラとアクセスポイントを近づけて、その間に物を置かないでください。
- アドホックモードの場合、カメラと接続する機器を近づけて、その間に物を置かないでください。

画像を送信できない

- 接続先の空き容量が不足しています。接続先の空き容量を増やしてから再度送信してください。
- ハイスピード連写モードで撮影された画像はグループ化されています。グループ化を解除してから送信してください。
- 接続先のカメラの SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード、Eye-Fi カードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えてください。***IXY 420F***

画像をリサイズして送信できない

- 元の画像より大きい記録画素数にはリサイズできません。
- 動画はリサイズできません。

画像の送信に時間がかかる

- 複数の画像を送信すると時間がかかることがあります。送信時に［M2］または［S］を選択してリサイズすると、送信時間を短くできます（p.w-39）。
- 動画を送信すると非常に時間がかかることがあります。
- 無線 LAN の電波状態が悪くなるため、電子レンジや Bluetooth など、2.4 GHz 帯の周波数を使用する機器の近くでは使用しないでください。
- インフラストラクチャーモードの場合、カメラとアクセスポイントを近づけて、その間に物を置かないでください。
- アドホックモードの場合、カメラと接続する機器を近づけて、その間に物を置かないでください。

無線接続が切断されてしまう

- 無線 LAN の電波状態が悪くなるため、電子レンジや Bluetooth など、2.4 GHz 帯の周波数を使用する機器の近くでは使用しないでください。
- インフラストラクチャーモードの場合、カメラとアクセスポイントを近づけて、その間に物を置かないでください。
- アドホックモードの場合、カメラと接続する機器を近づけて、その間に物を置かないでください。
- 画像をパソコンに送信する場合、メモリーカードに大量の画像（約 1000 枚）が保存されていると、接続が切断されることがあります。必要な画像をパソコンに取り込んでから、メモリーカード内の画像を削除して減らしてください。

カメラを譲渡または廃棄するので、無線 LAN の接続情報を消したい

- 無線 LAN の設定を初期化してください（p.w-48）。

画面に表示されるメッセージ一覧

画面にメッセージが表示されたときは、次のように対応してください。
「カメラユーザーガイド」（本編）の「画面に表示されるメッセージ一覧」もあわせてお読みください。

接続に失敗しました

- アクセスポイントを認識できませんでした。アクセスポイントの設定を確認してください。（p.w-27）
- 接続先が見つかりませんでした。カメラの電源を入れ直し、接続をやり直してください。
- 接続先の機器が、接続できる状態になっているか確認してください。

アクセスポイントが特定できません

- 複数のアクセスポイントの WPS ボタンが同時に押されました。接続をやり直してください。

アクセスポイントが見つかりませんでした

- アクセスポイントの電源が入っているか確認してください。
- アクセスポイントを手動で指定している場合は、入力した SSID が正しいか確認してください。

無線 LAN の暗号化キーが正しくありません / 無線 LAN のセキュリティー設定が正しくありません

- アクセスポイントのセキュリティー設定を確認してください（p.w-27）。

IP アドレスが重複しています

- 他の機器と IP アドレスが重複しないように、IP アドレスを設定し直してください。

接続が切断されました / 受信に失敗しました / 送信に失敗しました

- 無線 LAN の環境が悪い可能性があります。
- 電子レンジや Bluetooth など、2.4 GHz 帯の周波数を使用する機器の近くでは使用しないでください。
- インフラストラクチャーモードの場合、カメラとアクセスポイントを近づけて、その間に物を置かないでください。
- アドホックモードの場合、カメラと接続する機器を近づけて、その間に物を置かないでください。
- 接続先の機器でエラーが発生していないか確認してください。

送信に失敗しました
カードが異常です

- 初期化したカードを正しい向きで入れても同じ表示が出るときは、別紙の修理受付センターへご相談ください。

受信に失敗しました
カード残量が足りません

- 受信するカメラのカードに空き容量がないため、画像を受信できません。画像を消して空き容量を増やすか、空き容量のあるカードに交換してください。

受信に失敗しました
カードがロックされています

- 画像を受信するカメラの SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカード、Eye-Fi カードのスイッチが「LOCK」側（書き込み禁止）になっています。スイッチを書き込みできる方へ切り換えてください。 ***IXY 420F***

受信に失敗しました
ファイル名が作成できません

- 画像を受信するカメラのフォルダ番号が最大値（999）で、かつ画像番号も最大値（9999）の場合は受信できません。

サーバーの空き容量が不足しています。

- CANON iMAGE GATEWAY にアップロードされている画像を削除して、空き容量を増やしてください。

SSL 証明書が無効です
パソコンと接続し付属の
ソフトウェアで設定し直してください

- カメラに設定されている日付 / 時刻の設定が正しいか確認してください。正しいことを確認したら、画面の指示にしたがって設定をやり直してください。

ネットワーク設定を確認してください

- お使いのネットワーク回線を使ってインターネットに接続できるか確認してください。

用語の説明

ここでは、無線 LAN に関する用語について説明しています。また、本文中にも同様に用語を説明している箇所がありますので、あわせてご確認ください。

- アクセスポイント

  無線 LAN のネットワークを構築するときに電波の中継をする装置です。無線 LAN でインターネットに接続できる場所のことを指す場合もあります。

- アドホックモード

  無線 LAN の接続方法の 1 つです。アクセスポイントを介さずに、機器同士が直接通信を行います。

- インフラストラクチャーモード

  無線LANの接続方法の1つです。アクセスポイントを介して接続します。

- ファイアウォール

  コンピューターウィルスや外部からの不正アクセスなど、セキュリティー上の脅威からネットワークを守るためのシステムです。無線 LAN ルーターやお使いのパソコンの OS などに設定されています。

- SSID / ESSID

  特定のアクセスポイントを指定するためにあらかじめ設定されている英数字のことです。「アクセスポイント名」や「ネットワーク名」とも呼ばれています。

- 暗号化キー

  アクセスポイントと通信する際にデータを暗号化するためのキー（鍵）です。

- IP アドレス

  機器を識別するためのネットワーク内でのアドレス（住所）です。

- MAC アドレス

  ネットワーク機器にあらかじめ割り当てられている一意なアドレスです。「物理アドレス」とも呼ばれています。

主な仕様

ここでは、無線 LAN に関する仕様のみを記載しています。カメラ本体の仕様については、「カメラユーザーガイド」（本編）を参照してください。

無線規格

IEEE802.11b/g/n ＊

＊ 2.4 GHz 帯のみ

伝送方式

OFDM 変調方式（IEEE802.11g/n）
DSSS 変調方式（IEEE802.11b）

無線通信モード

インフラストラクチャーモード＊、アドホックモード

＊ Wi-Fi Protected Setup に対応

セキュリティー

WEP、WPA-PSK (AES/TKIP)、WPA2-PSK (AES/TKIP)

Wi-Fi®、Wi-Fi Alliance®、WPA™、WPA2™ および Wi-Fi Protected Setup™ は Wi-Fi Alliance の商標または登録商標です。

索引

【英数字】

【あ】

【か】

【さ】

【た】

【な】

【は】

【ま】

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

アフターサービス期間について

本製品のアフターサービス期間は、製品の製造打切り後5年間です。
なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様の製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。

妨害電波自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。カメラユーザーガイド（本書）にしたがって正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

商標、ライセンスについて

- DCFは、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- microSDXCロゴはSD-3C, LLC.の商標です。
- SDXCロゴはSD-3C, LLC.の商標です。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing,LLCの商標または登録商標です。
- iFrameロゴおよびiFrameシンボルはApple Inc.の商標です。
- This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

  ＊ 規定により英語で表記しています。

このガイドについて

- 内容の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- イラストや画面表示は、実際と一部異なることがあります。
- このカメラを運用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター
050-555-90005

受付時間：平日 9：00〜20：00
土・日・祝日 10：00〜17：00
（1月1日〜1月3日は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9630をご利用ください。
※IP電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノンデジタルカメラ製品情報
http://canon.jp/cdc

キヤノンサポートページ
http://canon.jp/support

CANON iMAGE GATEWAY
http://www.imagegateway.net

リチウムイオン・バッテリーパック、チャージャーの「模倣品」にご注意下さい
国内・国外を問わず、ネットオークションでリチウムイオン・バッテリーパック、チャージャーの「模倣品」が頻繁に出回っておりますので十分にご注意ください。詳細は以下のURLよりご覧ください。
http://cweb.canon.jp/e-support/info/battery-anno.html

Li-ion

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CDP-J463-020